

Doc. 2557 Evid.

Folder 4

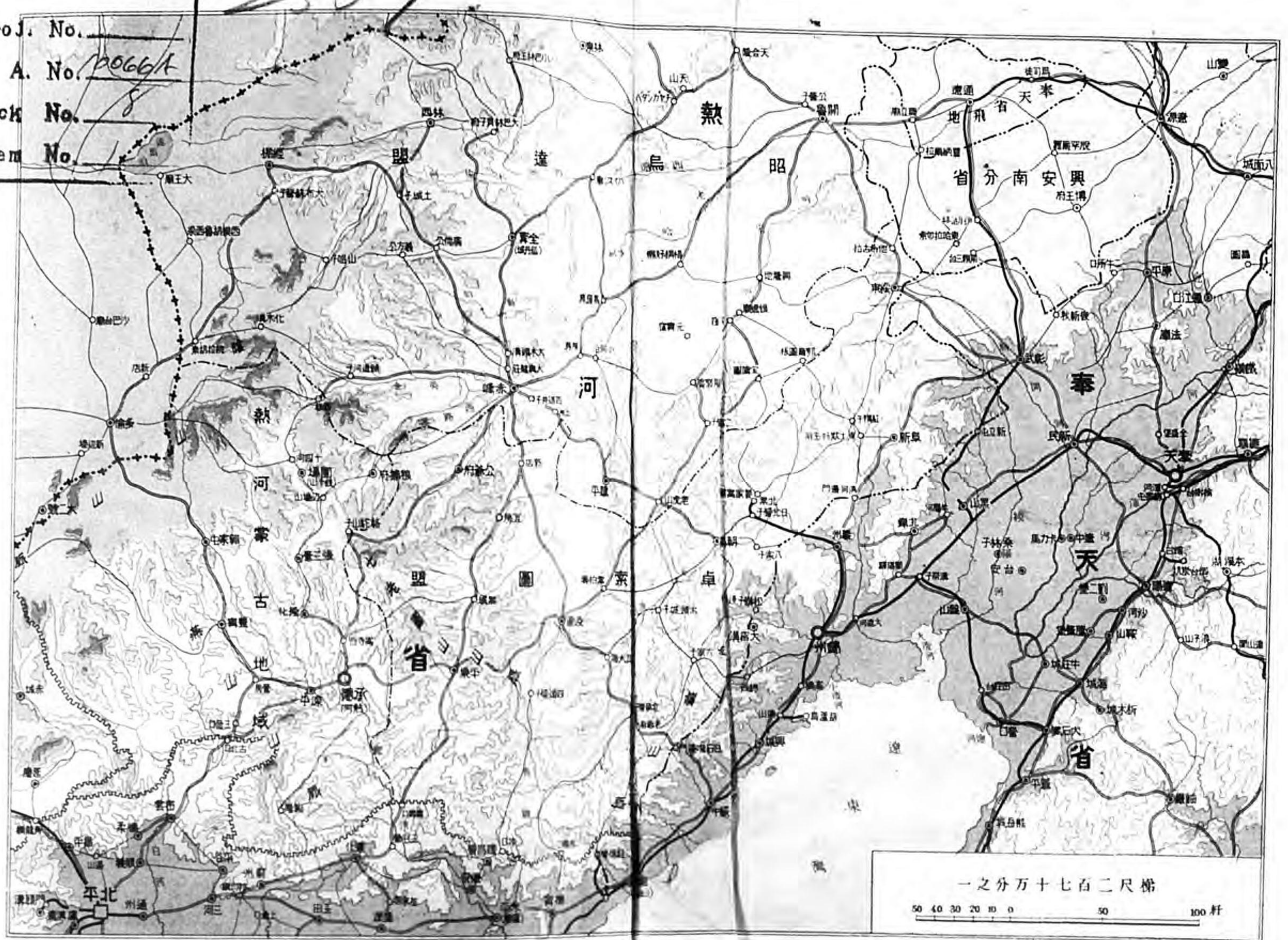
(638)

卷之七

卷	7
第	9-10 19
上海图书馆藏	

2557

Proj. No. \_\_\_\_\_  
S. A. No. 2066A  
Sack No. 8  
Item No. \_\_\_\_\_



一之分万十七百二尺梯

50 40 30 20 10 0 50 100 杆

文庫	位置	滿洲	長	校
覽				

日本將校ノ外閱覽ヲ禁ズ

滿洲事變史第十三卷

熱河經略戰(上)熱河省內於ル支那軍掃蕩戰(草案)



3492

類	7
號	9-18-1
陸軍通信學校文庫	

參謀本部

第 20 號  
受入 17 年 6 月 19 日



昭和十五年三月三十日調製

## 滿洲事變史編纂ニ就テ

- 一 本戰史ハ滿洲事變ニ於ケル重要ナル事項ヲ網羅シテ其ノ真相ヲ敘述シ主トシテ一般將校ノ戰史研究及用兵竝ニ軍事政策ニ參畫スル者ノ鑑識ニ資ス
- 二 本戰史ハ取扱及研究ニ便ナラシムル如ク主要ナル事項毎ニ一括シテ記述シ逐次各卷ヲ分冊刊行スルモ之ヲ綜合スレバ完備セル滿洲事變史ヲ成ス如ク編纂ス從ツテ主題事項ヲ了解スルニ必要ナル事項ハ縱ヒ他ノ卷ニ詳記シアルモノト雖モ敢テ重複ヲ厭ハズ其ノ概要ヲ掲グ
- 三 教訓ハ編纂委員ノ作業ヲ輯録セルモノニシテ每卷必ズシモ之ヲ掲ゲズ  
教訓ヲ掲グル場合ハ當該卷ノ末尾ニ合載スルモ簡單ナルモノニシテ本文中ニ記載スルヲ便宜ト認ムルモノハ「所見」トシテ本文中適宜ノ位置ニ附記ス
- 四 記述ノ要領ハ史實ノ重要度ニ從ヒ大イニ濃淡粗密アラシメ且簡明ヲ旨トス
- 五 命令、報告、聲明等ニシテ讀者ノ了解困難ナリト思惟スルモノハ意味ヲ害セザル範圍ニ於テ修正スルコトアリ
- 六 曆年ハ日本曆ニ據ル若シ其ノ他ノ曆ヲ必要トスルトキハ割註ニテ記ス而シテ昭和六年ハ支那曆民國二十年ニ當ル

七 時刻ハ當該地方ノ標準時ニ據ル即チ滿洲、京津及上海地方ハ日本西部標準時ヲ用ヒ其ノ正午ハ日本中央標準時ノ午後一時ニ當ル

# 滿洲事變史總目次

- 第一卷 滿洲事變作戰經過ノ概要(上)(附圖別冊)
- 第二卷 滿洲事變作戰經過ノ概要(下)(附圖別冊)
- 第八卷 滿洲ニ於ケル支那軍掃蕩戰(上)(附圖別冊)  
附 武裝解除  
滿洲ニ於ケル支那軍掃蕩戰(上) 附 武裝解除ヨリ得タル教訓
- 第十一卷 滿洲事變ニ於ケル匪賊討伐戰(上)(附圖別冊)  
附 滿洲事變ニ於ケル匪賊討伐戰(上)ヨリ得タル教訓
- 第十三卷 熱河經略戰(上)熱河省内ニ於ケル支那軍掃蕩戰(草案)
- 第十四卷 熱河經略戰(中)萬里ノ長城附近ノ作戰(草案)(附圖別冊)
- 第十五卷 熱河經略戰(下)關內作戰(草案)
- 第十六卷 上海附近ノ會戰(上)陣地攻撃及追擊(附圖別冊)  
附 上海事件ニ於ケル支那軍ノ行動
- 第十七卷 上海附近ノ會戰(下)上陸作戰  
附 上海附近ノ會戰(下)上陸作戰ヨリ得タル教訓
- 第十八卷 滿洲事變ニ於ケル鐵道作戰(草案)

第十九卷 滿洲事變ニ於ケル飛行隊ノ行動(上)(附圖別冊)

第二十三卷 滿洲事變ニ於ケル動員編成(上)

附記 以上各卷ノ外ハ發刊ヲ中止ス

熱河經略戰(上)熱河省内ニ於ケル支那軍掃蕩戰(草案)



## 序言

一 本卷ハ關東軍ノ熱河經略戰中主トシテ熱河ニ於ケル冬季作戰ノ真相竝ニ省内ノ支那軍掃蕩ノ經過ヲ敘述シ以テ軍、師團(旅團)ノ作戰準備、寒地及沙漠不毛地ノ戰鬪及陣中勤務、自動車ヲ利用スル追擊行動、飛行隊ノ對地協力、兵站竝ニ對支戰法等ヲ研究スルノ資ニ供セントスルモノナリ

二 本卷ニ於テハ熱河經略ノ經緯、軍ノ統帥(作戰準備ヲ除ク)ニ就キテハ其ノ概要ヲ說述シ滿洲國軍ノ行動ニ關シテハ關係箇所ニ附記スルニ止メタリ

三 本卷ノ研究ニ方リ特ニ注意スベキ諸件ヲ列擧スレバ左ノ如シ

1 戰場タル熱河省北部方面ハ人煙稀薄ノ沙漠不毛ノ地帶、南部方面ハ山嶽屹立セル廣大ナル山地帶ニシテ共ニ軍隊ノ行動ヲ困難ナラシメシコト

2 本作戰ハ極寒期ヨリ解氷期ニ移ラントスル二月下旬ヨリ開始セラレシガ天候ノ異變ニ遭遇シ寒氣凜冽ニシテ氷點下平均三十度ニ達セシコト

3 我ガ軍ハ敵ニ比シ將兵ノ素質竝ニ裝備遙カニ優秀ナリシコト就中飛行機、砲兵、戰車、自動車等ニ於テ然リ

4 支那軍ハ正規軍ノ外土著軍、義勇軍、自衛軍等各種ノ雜軍ヲ混ジ其ノ統制十分ナラザリシノミ

- ナラズ各軍間ニ於テモ反日向背アリシコト
- 5 自動車搭乗部隊ヲ以テ穿貫的長驅追撃ヲ敢行セシメ支那軍ヲシテ對應ノ餘裕ナカラシメシコト
- 6 作戰間使用セシ地形圖ハ其ノ精度不良ナリシ爲局地ノ戦闘等ニ於テ種々不便ヲ生ジ且通報、報告等實際ト相違セルモノ多キコト
- 四、本卷ニハ第六師團方面ニ於テハ三月下旬冷口攻撃ニ關スル軍命令受領迄ノ行動ヲ、第八師團方面ニ於テハ師團主力ノ承德占領、混成第十四旅團ノ冷口占領並ニ喇嘛洞附近ノ戦闘迄ノ行動ヲ記述セリ

### 滿洲事變史第十三卷

#### 熱河經略戰(上)熱河省内ニ於ケル支那軍掃蕩戰(草案)目次

#### 第一章 作戰地一般ノ地理、氣象並ニ作戰開始前ニ於ケル

一般ノ狀況……………頁

第一節 作戰地一般ノ地理並ニ氣象……………一

地形ノ大觀(一) 主要作戰路(二) 宿營、給養(三) 氣象(四)

第二節 作戰開始前ニ於ケル一般ノ狀況……………三

#### 第二章 熱河省内ニ於ケル支那軍掃蕩戰ノ概要……………五

第一節 作戰準備ニ關スル關東軍司令部ノ處置……………五

關東軍ノ準備(五) 山海關事件(五) 中央部トノ交渉(五) 在滿部隊ノ増加(六) 企圖ノ秘  
匿(六) 準備命令ノ下達(六) 德王ノ使用(七) 兵要地誌ノ研究(七) 作戰計畫(八) 飛行  
隊使用計畫(九) 通信計畫(三三) 部隊ノ編成並ニ轉屬(三三) 作戰行動開始ノ軍命令ノ下達  
並ニ訓示(三三) 軍豫備ノ使用(三三)

第二節 作戰經過ノ概要

熱河省北部方面ノ狀況(三五) 滿洲國軍ノ狀況(三六) 熱河省南部方面ノ狀況(三七) 軍司令官ノ處置(四〇) 長城方面ノ狀況(四三)

第三章 熱河省北部方面ノ作戰

第一節 作戰準備

第一款 第六師團ノ作戰準備

特ニ著意セル事項(四五) 情報收集並ニ地形偵察(四六) 作戰準備命令ノ下達(四七) 裝備ニ關スル指示事項(四五) 通信ニ關スル準備要領(六〇) 作戰計畫(六三)

第二款 騎兵第四旅團ノ作戰準備

大行李ノ編成(七三) 馬匹ノ補充(七四)

第二節 集中竝ニ赤峰ノ占領

第一款 第六師團長ノ處置

其ノ一 集中竝ニ行動發起ニ關スル部署

第六師團主力ノ集中狀態(七六) 左縱隊ノ下車點ニ關スル第八師團トノ交渉(七七) 前進ニ關スル師團命令(七九)

其ノ二 行動開始ヨリ下窪占領迄ノ狀況

其ノ三 赤峰ノ占領

第二款 騎兵第四旅團ノ行動

其ノ一 行動發起ヨリ二月二十八日迄ノ狀況

甲 出發ニ關スル旅團長ノ部署

乙 行動經過ノ概要

二十三日ノ狀況(九六) 二十四、二十五日ノ狀況(九七) 「ホーチンスーム」(北)附近ノ戰團(九八) 「ホーチンスーム」(西)附近ノ戰團(九九) 二十六、二十七日ノ狀況(一〇〇) 二十八日ノ狀況(一〇一)

其ノ二 赤峰附近ノ戰團

甲 戰場ノ狀態並ニ氣象

乙 三月一日夜迄ノ狀況

(イ) 搜索隊ノ行動

(ロ) 旅團主力方面ノ狀況

(ハ) 嶺底下附近ニ於ケル夜間戰團

丙 赤峰東方高地ノ陣地攻撃

(イ) 旅團長ノ部署並ニ騎砲兵中隊ノ狀況

(口) 旅團長ノ部署(二三) 騎砲兵中隊ノ狀況(二三) ..... 一三三

(イ) 騎兵第二十六聯隊方面ノ狀況 ..... 一三三

騎兵第二十六聯隊長ノ部署(二三) 第三中隊及騎兵砲、機關銃隊ノ狀況(二三) 第一中隊ノ狀況(二三) ..... 一三三

(ハ) 騎兵第二十五聯隊方面ノ狀況 ..... 一二五

騎兵第二十五聯隊長ノ部署(二三) 聯隊主力方面ノ狀況(二三) 第四中隊ノ狀況(二三) ..... 一二五

丁 追撃及赤峰市街ノ攻略 ..... 一三三

旅團長ノ部署(二三) 騎兵第二十六聯隊方面ノ狀況(二三) 騎兵第二十五聯隊方面ノ狀況(二三) 騎兵第十聯隊方面ノ狀況(二三) ..... 一三三

戊 戦闘ノ成績 ..... 一四一

第三款 師團主力ノ行動 ..... 一四三

其ノ一 下窪附近集結迄ノ狀況 ..... 一四三

甲 右縱隊ノ行動 ..... 一四三

(イ) 前進部署 ..... 一四三

右縱隊長ノ部署(二三) ..... 一四三

(ロ) 池田快速部隊ノ行動 ..... 一四六

(ニ)(ハ) 騎兵第十聯隊ノ行動 ..... 一五五

右縱隊主力ノ行動 ..... 一五五

二十三日ノ狀況(二三) 太田公司附近ノ夜間戦闘(二三) 戦闘ノ成績(二三) 二十四日ノ狀況(二三) 二十五日ノ狀況(二三) 戦闘ノ成績(二三) 二十六日ノ狀況(二三) 二十七日以後ノ狀況(二三) ..... 一五五

乙 中央縱隊ノ行動 ..... 一六二

中央縱隊長ノ部署(二三) 二十三日ノ狀況(二三) 二十四日以後ノ狀況(二三) ..... 一六二

其ノ二 赤峰ニ向フ前進 ..... 一七一

赤峰ニ向フ前進 ..... 一七一

右縱隊長ノ部署(二三) 志道快速部隊ノ狀況(二三) 中央縱隊ノ狀況(二三) 歩兵第四十五聯隊第三大隊ノ狀況(二三) 右縱隊主力ノ狀況(二三) ..... 一七一

第四款 左縱隊ノ行動 ..... 一七五

其ノ一 朝陽出發ヨリ老虎山附近占領迄ノ狀況 ..... 一七五

左縱隊長ノ部署(二三) 前衛司令官ノ部署(二三) 老虎山附近ノ戦闘經過(二三) 戦闘ノ成績(二三) ..... 一七五

其ノ二 黒水附近ノ戦闘 ..... 一八一

甲 戦場ノ状態並ニ氣象 ..... 一八一

乙 三月三、四日ノ狀況 ..... 一八一

    三日ノ狀況(一八二)  四日ノ狀況(一八三)

丙 三月五日ノ狀況 ..... 一八五

    戰鬪ノ成績 ..... 一八五

丁 戰鬪ノ成績 ..... 一八六

第五款 補給及輸送機關ノ行動 ..... 一八七

第三節 糧捕府、圍場(錐子山)方面ニ對スル作戰竝ニ轉進ニ關スル  
軍命令受領迄ノ狀況 ..... 一八九

第一款 第六師團長ノ處置 ..... 一八九

    其ノ一 糧捕府方面ニ對スル作戰 ..... 一八九

        軍命令ノ受領(一八九)  當時ニ於ケル師團諸隊ノ狀況(一九〇)  師團長ノ部署(一九〇)  高田旅團  
        長ノ意見具申(一九一)  師團長ノ處置(一九二)

    其ノ二 轉進ニ關スル軍命令受領迄ノ狀況竝ニ師團主力ノ冷口ニ向フ前進部  
        署 ..... 一九四

        轉進ニ關スル軍命令受領迄ノ狀況(一九四)  迎支隊ノ派遣(一九四)  軍命令ノ受領迄ニ之ニ基ク處  
        置(一九五)  迎支隊トノ連絡(一九六)  轉進ニ關スル軍命令ノ受領迄ニ師團主力ノ冷口ニ向フ前進  
        部署(一九七)

第二款 高田支隊ノ朝陽地附近ニ於ケル戰鬪 ..... 二一一

    其ノ一 戰場ノ狀態竝ニ氣象 ..... 二一二

    其ノ二 戰鬪經過 ..... 二一二

        五日ノ狀況(二二三)  六日ノ狀況(二二七)

    其ノ三 戰鬪ノ成績 ..... 二二九

第三款 騎兵第四旅團ノ廣道河附近ニ於ケル戰鬪 ..... 二三二

    其ノ一 戰場ノ狀態竝ニ氣象 ..... 二三二

    其ノ二 戰鬪經過 ..... 二三三

        甲 三月七日迄ノ狀況 ..... 二三三

            赤峰出發後ノ狀況(二三三)  七日ノ狀況(二三三)  前衛ノ狀況(二三三)  旅團長ノ部署(二三三)  西  
            岡中隊ノ狀況(二三三)  騎兵第二十五聯隊方面ノ狀況(二三三)  騎兵第二十六聯隊長ノ部署(二三三)  
            騎砲兵中隊ノ狀況(二三三)  旅團長ノ部署(二三三)  騎兵第二十六聯隊方面ノ狀況(二三三)  夕刻  
            ニ於ケル旅團長ノ決心竝ニ部署(二三三)

        乙 三月八日ノ狀況 ..... 二三三

            旅團長ノ部署(二三三)  太田中隊ノ狀況(二三三)  騎兵第二十六聯隊方面ノ狀況(二三三)  騎兵第  
            二十五聯隊方面ノ狀況(二三三)  騎砲兵中隊ノ狀況(二三三)  第一線諸隊ノ追撃(二三三)  旅團長  
            ノ追撃部署(二三三)  追撃後ノ狀況(二三三)

    其ノ三 戰鬪ノ成績 ..... 二三七

第四款 騎兵第四旅團ノ錐山溝附近ニ於ケル戦闘

.....二四〇

旅團ノ辺壙山占領迄ノ經過(二四二) 騎兵第二十六聯隊ノ圍場(錐子山)占領(二四二) 隆化方向ニ  
向フ前進部署(二四二) 錐山溝附近ニ於ケル戦闘(二四三) 戦闘ノ成績(二四三) 赤峰ニ向フ歸還  
(二四七)

第五款 補給ノ實施

.....二四七

第四章 熱河省南部方面ノ作戰

第一節 作戰準備

.....二五一

第一款 第八師團ノ作戰準備

.....二五一

挺進部隊ノ準備(二五二) 情報収集(二五三) 作戰計畫(二五三) 部隊ノ改編其ノ他ニ關スル準備  
(二五七)

第二款 混成第十四旅團ノ作戰準備

.....二七四

編成裝備、携行品等(二七四) 作戰計畫(二七五) 集中輸送(二七六)

第二節 集中竝ニ朝陽ノ占領

.....二八六

第一款 第八師團長ノ處置

.....二八六

其ノ一 集中竝ニ行動發起ニ關スル部署

.....二八六

其ノ二 松田旅團ノ到着竝ニ先遣隊行動發起期日ノ變更

.....二九八

其ノ三 混成第十四旅團トノ連絡竝ニ朝陽及白石嘴邊門附近出發期日決定ノ  
經緯

.....三〇四

松田旅團ノ到着ト下車地ノ交渉(二九八) 朝陽寺附近出發期日ノ繰上ニ關スル處置(二九八) 先遣  
隊ノ出發(三〇三) 前進部署ノ變更(三〇三) 先遣隊ノ行動(三〇四)

第二款 先遣隊ノ行動

.....三〇九

其ノ一 行動發起ニ關スル先遣隊長ノ部署

.....三〇九

第一次作戰計畫ノ要旨(三〇八) 鐵道大隊長ノ意見具申(三〇九) 作戰計畫ノ變更竝ニ之ニ基ク先  
遣隊命令(三〇九) 早川支隊ノ出發竝ニ先遣隊主力前進部署ノ變更(三一〇)

其ノ二 早川支隊ノ北票占領

.....三一七

甲 支隊長ノ處置

.....三一七

前進部署(三一七) 左隊ノ獨斷前進ニ伴フ部署一部ノ變更(三一〇) 口北營子附近ノ戰鬥(三一三)  
右側支隊ノ行動(三一三) 北票入城(三一三)

乙 鈴木中隊ノ南嶺及口北營子附近ニ於ケル戰鬥

.....三二四

丙 島村大隊ノ口北營子附近ニ於ケル戰鬥

.....三二七

獨斷出發ノ經緯(三二七) 夜行軍ノ狀況(三三〇) 口北營子附近ノ戰鬥(三二七) 戰鬥ノ成績(三三〇)

其ノ三 先遣隊ノ朝陽附近ニ於ケル戰鬥

.....三三一

甲 戰場ノ状態並ニ氣象 ..... 三三一

乙 瓦盆窑溝、石門子溝ノ線ニ向フ前進 ..... 三三一  
二月二十三  
日迄ノ状況

先遣隊長ノ處置(三三二) 早川支隊ノ行動(三三八) 松田旅團ノ行動(三三〇) 右縱隊ノ行動(三四二)  
 工兵隊ノ行動(三四三) 騎兵隊ノ行動(三四四) 左縱隊ノ行動(三四四) 行李ノ行動(三四四) 通信  
 隊ノ行動(三四六) 衛生班ノ行動(三四六)

丙 朝陽附近ノ戦闘 ..... 三四六

(イ) 先遣隊長ノ指揮 ..... 三四六  
 敵陣地攻撃ノ部署(三四七) 朝陽入城(三四三)

(ロ) 騎兵隊ノ蟻牛營子附近ニ於ケル戦闘 ..... 三五二  
 蟻牛營子東南側地區ノ戦闘(三五三) 蟻牛營子西側地區ノ戦闘(三五三) 戦闘後ノ行動(三五五)

(ハ) 早川支隊ノ戦闘 ..... 三五五  
 二十四日ノ状況(三五五) 二十五日ノ状況(三五七)

(ニ) 左縱隊ノ戦闘 ..... 三五七  
 二十四日ノ状況(三五七) 二十五日ノ状況(三五九)

(ホ) 砲兵隊主力及工兵隊ノ行動並ニ軍飛行隊ノ協力 ..... 三六〇  
 砲兵隊主力ノ行動(三六〇) 工兵隊ノ行動(三六一) 軍飛行隊ノ協力(三六一)

(ヘ) 松田旅團ノ行動 ..... 三六一  
 二十四日ノ行動(三六一) 二十五日ノ行動(三六二)

丁 戦闘ノ成績 ..... 三六五

第三款 師團主力ノ行動 ..... 三六五

其ノ一 師團長及歩兵第十六旅團主力ノ行動 ..... 三六五  
 師團長ノ行動(三六五) 歩兵第十六旅團長ノ行動(三六五) 歩兵第十七聯隊ノ行動(三六五)

第三十二聯隊第一大隊ノ行動(三六六)

其ノ二 戰車隊ノ行動 ..... 三六六  
 義州到着迄ノ行動(三六六) 二十五日ノ行動(三六七) 二十七日ヨリ朝  
 陽到着迄ノ行動(三六八)

其ノ三 關東軍自動車隊主力ノ行動 ..... 三六九  
 出動準備(三六九) 奉天出發(三七〇) 軍自動車隊長ノ處置(三七二) 二十五、二十六日ニ於ケ  
 ル友澤部隊ノ行動(三七三) 軍自動車隊主力ノ行動(三七三) 二十七日ニ於ケル友澤部隊ノ行動  
 (三七七) 主力ノ朝陽集結(三七六)

其ノ四 其ノ他ノ諸隊ノ行動 ..... 三七六  
 輜重兵中隊ノ行動(三七六) 衛生班ノ行動(三七六)

第四款 混成第十四旅團ノ行動

一一

第五款 遼西警備隊ノ行動

三七八

第三節 朝陽及綏中附近出發後ノ狀況

三七八

第一款 第八師團長ノ處置

三七九

其ノ一 師團長ノ朝陽ニ於ケル處置

三七九

出發期日ノ決定(三九〇) 前進命令ノ下達(三九〇)

三七九

其ノ二 朝陽附近出發後ノ狀況

戰車隊ニ對スル處置(三八八)

三七八

甲 三月一日ノ狀況

三八八

飛行機ノ連絡(三八八)

三八八

天津軍トノ連絡(三八八)

川原挺進隊ノ狀況ト前進部署一部ノ變更(三八九)

混成第十四旅團ニ對スル處置(三八九)

補給ニ關スル處置(三八九)

乙 三月二日ノ狀況

三九二

挺進隊トノ連絡(三九二)

前進部署一部ノ變更(三九二)

挺進隊ニ對スル自動車配屬期間ノ延期申

請(三九二)

師團主力ノ行動(三九二)

混成第十四旅團方面ノ狀況(三九二)

丙 三月三日ノ狀況

三九四

凌源入城後ノ處置(三九五)

混成第十四旅團トノ連絡(三九五)

挺進隊長ノ意見具申(三九六)

彼我

ノ狀況(三九六) 前進部署ノ變更(三九七)

四〇二

丁 三月四日ノ狀況

師團命

挺進隊ノ三日ニ於ケル狀況及之ニ對スル處置(四〇三)

混成第十四旅團長ノ報告(四〇三)

令ノ下達(四〇四)

混成第三十三旅團トノ

連絡(四〇四) 軍命令ノ受領(四〇四)

四一三

戊 三月五日ノ狀況

挺進隊長ノ報告

師團司令部ノ行動(四〇五)

自動車隊ノ行動及之ニ對スル師團長ノ處置(四〇五)

混成第十四旅團トノ連絡(四〇五)

四一四

己 三月六日ノ狀況

四一六

挺進隊長ノ行動(四一六)

第二款 川原挺進隊ノ行動

四一六

其ノ一 作戰計畫

四一九

其ノ二 前進部署

自動車

挺進隊ノ部署(四二〇)

前衛ノ部署(四二〇)

前兵ノ處置(四二〇)

戰車隊ノ行動(四二〇)

隊ノ行動(四二〇)

公營子ニ向フ前進(四二〇)

四二七

其ノ三 葉柏壽附近ノ戦闘

四二七

甲 戰場ノ狀態並ニ氣象

一三



乙 戦闘經過

(イ) 晝間ノ狀況

前衛ノ獨力攻撃(四三九) 挺進隊長ノ指揮(四三九) 左翼隊ノ戦闘(四三〇) 右翼隊ノ戦闘(四三〇) 四二七

戰車隊ノ戦闘(四三三) 山砲兵中隊ノ戦闘(四三三) 自動車隊ノ行動(四三三) 飛行隊ノ行動(四三三) 四二七

(ロ) 夜間及二日拂曉ノ狀況

挺進隊長ノ處置(四三三) 右翼隊ノ行動(四三三) 左翼隊ノ行動(四三三) 戰車隊ノ行動(四三三) 四三三

山砲兵中隊ノ行動(四三三) 自動車隊ノ行動(四三三)

丙 戦闘ノ成績

其ノ四 葉柏壽、平泉間ノ追撃

挺進隊長ノ處置(四三九) 追撃隊長ノ處置(四三〇) 戰車隊ノ追撃(四三〇) 追撃隊及本隊ノ行動(四三九) 四三六

其ノ五 平泉、六溝間ノ追撃

挺進隊長ノ處置(四三七) 戰車隊ノ行動(四三七) 挺進隊主力ノ行動及挺進隊長ノ處置(四三三) 四四七

其ノ六 天朝山附近ノ戦闘竝ニ承德ノ占領

前衛司令官ノ處置(四三五) 戰車隊ノ行動(四三五) 前兵ノ行動(四三四) 戰車隊ノ戦闘(四三五) 四五三

尖兵中隊ノ戦闘(四三五) 前衛司令官ノ行動(四三五) 前兵ノ戦闘(四五六) 挺進隊長ノ處置(四五六)

第三款 混成第十四旅團ノ行動

其ノ一 省境ニ向フ前進

飛行隊ノ協力(四五六) 戰車隊ノ追撃竝ニ承德入城(四五六) 挺進隊主力ノ入城準備(四五六) 追撃隊ノ行動(四五六) 挺進隊主力ノ承德入城(四五六) 師團長ヨリノ祝電受領(四六〇) 入城後ニ於ケル諸隊ノ行動(四六〇) 挺進隊ノ任務解除竝ニ訓示ノ受領(四六一) 四六九

甲 前進部署

出發期日竝ニ作戰目標ノ變更(四七四)

乙 右縦隊方面ノ狀況

騎兵隊ノ狀況(四七五) 右縦隊前衛ノ行動(四七五) 右縦隊本隊ノ行動(四七六) 旅團長ノ處置(四七六) 四七五

丙 左縦隊ノ鐵路溝附近ニ於ケル戦闘

前進部署(四七六) 戦闘開始前ノ狀況(四八〇) 左縦隊長ノ攻撃部署(四八一) 日没迄ノ狀況(四八一) 四七九

日没後ヨリ翌二十七日ニ至ル第三大隊ノ行動(四八二) 縦隊長ノ處置(四八三) 四八五

其ノ二 沙帽山附近ノ戦闘

甲 戰場ノ状態竝ニ氣象 四八五

乙 二月二十七日ノ狀況

(イ) 旅團長ノ指揮 ..... 四八五  
 彼我ノ状況(四八五) 敵陣地攻撃部署(四八七)

(ロ) 右縦隊前衛ノ獨力攻撃 ..... 四九六  
 前進部署並ニ獨力攻撃開始迄ノ状況(四九六) 尖兵中隊ノ戦闘(四九八) 第五中隊ノ行動(四九九)  
 篠原小隊ノ行動(四九九) 山砲兵中隊ノ戦闘(四九九) 日没後ニ於ケル前衛司令官ノ部署(四九九)

(ハ) 左縦隊ノ行動 ..... 五〇一

丙 二月二十八日ノ状況 ..... 五〇三  
 (イ) 旅團長ノ指揮 ..... 五〇三  
 部署一部ノ變更(五〇三) 日没時ノ態勢(五〇三) 追撃ノ爲ノ部署(五〇四)

(ロ) 米山大隊ノ戦闘 ..... 五〇六  
 攻撃部署(五〇六) 戦闘經過(五〇七) 戰車小隊ノ戦闘(五〇九)

(ハ) 砲兵隊ノ戦闘 ..... 五〇九  
 右翼隊ノ行動 ..... 五一〇

(ホ) 鯨江大隊ノ戦闘 ..... 五一〇  
 展開ノ爲ノ行動(五一〇) 攻撃部署(五一〇) 戦闘經過(五一二)

(ヘ) 迂回隊ノ戦闘 ..... 五一三

前進開始時ノ状況(五二三)

大松木溝附近ニ於ケル第二大隊ノ戦闘(五二三)

太杖子附近ニ於ケル

第三大隊ノ戦闘(五二五)

五一六

丁 戦闘ノ成績

五一六

戊 諸隊ノ追撃

五一六

(イ) 左迂回隊ノ追撃

左迂回隊長ノ追撃部署(五二六)

第三大隊長ノ追撃部署(五二七)

乘馬討伐隊ノ許家杖子及水全寺

戰鬥ノ成績(五三二)

戰鬥

附近ノ戰鬥(五二七)

昆牛營子附近ニ於ケル第三大隊ノ戰鬥(五二八)

後ノ行動(五三二)

五二三

(ロ) 右迂回隊ノ追撃

五二五

(ハ) 旅團主力ノ追撃

五二五

其ノ三 公營子附近進出後ノ状況

五二五

甲 三月二日ノ状況

旅團長ノ公營子附近兵力集結ノ處置(五三五)

師團命令ノ受領(五三七)

敵情及友軍ノ状況(五三七)

前進部署(五三七)

五三二

乙 三月三日ノ状況

五三三

丙 三月四日ノ状況

一七

旅團ノ任務變更ノ無線電信ノ傍受(五三三) 旅團長ノ處置(五三三) ..... 五三四

丁 三月五日ノ狀況 ..... 五三四

軍竝ニ師團命令ノ受領(五三四) 米山先遣隊ノ狀況(五三五) 鯨江支隊トノ連絡(五三五) .....

戊 三月六日ノ狀況 ..... 五三五

其ノ四 米山先遣隊ノ追撃 ..... 五三六

甲 二月二十八日ノ狀況 ..... 五三六

前進部署竝ニ前進開始後ノ狀況(五三六) 野雞溝附近ノ戰鬪(第一次)(五三七) .....

乙 三月一日ノ狀況 ..... 五三九

野雞溝附近ノ戰鬪(第二次)(五三九) 山咀子附近ノ戰鬪(五四〇) 北章營子附近ノ戰鬪(五四〇) .....

丙 三月二日ノ狀況 ..... 五四一

芳身出發(五四一) 哈叭嶺附近ノ戰鬪(五四一) 凌源附近ノ戰鬪(五四一) 高家店、石橋子、茶棚間ノ戰鬪(五四一) .....

丁 三月三日ノ狀況 ..... 五四三

北營子出發(五四三) 尖兵中隊ノ石柱子、拉拉嶺間ノ戰鬪(五四三) 修理班及掩護小隊ノ魚鱗山附近ノ戰鬪(五四三) .....

戊 三月四日ノ狀況 ..... 五四五

先行部隊ノ獨斷追撃(五四五) 先行部隊ノ三門店、冷口間ノ戰鬪竝ニ冷口ノ占領(五四五) 先遣隊

主力ノ冷口到着(五四六) 戰鬪ノ成績(五四六) ..... 五五一

其ノ五 鯨江支隊喇嘛洞附近ノ戰鬪 ..... 五五一

甲 戰場ノ狀態竝ニ氣象 ..... 五五二

乙 戰鬪開始前ノ狀況 ..... 五五二

丙 戰鬪經過 ..... 五五二

(イ) 三月四日ノ狀況 ..... 五五二

前進陣地攻撃ノ部署竝ニ戰鬪經過(五五二) 主陣地攻撃ノ部署竝ニ戰鬪經過(五五二) 加藤小隊ノ戰鬪(五五二) 支隊長ノ部署ノ變更(五五二) .....

(ロ) 三月五日ノ狀況 ..... 五六一

加藤小隊ノ狀況(五六一) 支隊主力方面ノ狀況(五六一) 加藤小隊ノ狀況(五六一) 任務解除ノ旅團命令受領後ノ支隊長ノ處置(五六一) .....

(ハ) 三月六日ノ狀況 ..... 五六七

丁 戰鬪ノ成績 ..... 五六九

### 第五章 飛行隊ノ行動

#### 第一節 作戰開始前ノ行動及作戰準備

八年初頭ニ於ケル飛行隊ノ配置(五七三) 第八師團ニ對スル偵察隊ノ協力(五七三) 開魯方面ノ義

勇軍ニ對スル爆撃(五七四)

飛行隊ノ熱河省内作戰資料收集(五七五)

飛行隊ノ行動計畫並ニ命

二〇

第二節 軍ノ集中並ニ行動開始後ニ於ケル飛行隊ノ行動 ..... 五八七

集中(五七七) 軍ノ行動開始(五七九) 朝陽附近ノ戦闘ニ協力(五九〇) 寺本部隊ノ派遣(五九〇)  
 沙帽山附近ノ攻撃ニ協力(五九一) 赤峰東方陣地攻撃ニ協力(五九三) 葉柏壽、野雞溝附近ノ攻撃  
 ニ協力(五九三) 赤峰、凌源ノ占領(五九三) 凌源ニ飛行場設備(五九三) 承德ノ占領(五九三) 赤  
 峰及承德占領後ノ状況(五九六) 協力ノ重點變更(五九六) 第八師團方面ノ状況(五九七) 第六師  
 團方面ノ状況(五九七)

### 第六章 兵站ノ狀況

#### 第一節 軍司令官ノ處置

第一款 兵站部隊ノ編成

軍司令官ノ處置(六〇三)

第二款 兵站計畫、同説明並ニ兵站實施ニ關スル軍命令

兵站計畫(六〇六)

車輛設備規定ノ策定(六〇三)

後方主任者會議開催(六〇三)

兵站司令官並ニ

第三款 兵站ノ任務解除ニ關スル軍命令

#### 第二節 兵站實施ノ狀況

六二九  
六三二

第一款 集中及作戰初期ニ於ケル兵站監ノ部署並ニ補給 ..... 六三二

其ノ一 兵力部署並ニ兵站命令ノ下達 ..... 六三二

兵力部署(六三三) 兵站部隊運用ニ關スル命令ノ下達(六三五) 二十四日兵站命令ノ下達(六三七)

其ノ二 兵站施設及兵站諸部隊行動ノ概要 ..... 六四〇

第一兵站司令部ノ行動(六四〇) 北票ニ於ケル集積糧秣ノ狀況(六四〇) 朝陽ノ兵站施設(六四〇)

其ノ三 第八、第六師團方面ニ對スル補給 ..... 六四一

甲 補給實施ニ關スル兵站命令ノ下達、第一線行動開始期日變更ニ關スル

意見具申 ..... 六四一

朝陽附近占領時ニ於ケル兵站ノ狀況及兵站監ノ處置(六四二) 第一線兵團行動開始期日ノ延期ニ

乙 第八師團ニ對スル補給 ..... 六四六

第八師團ノ報告(六四七) 自動車ノ配屬及自動車隊長ノ意見具申(六四七) 第二野戰衣廠長ヨリ

丙 第六師團ニ對スル補給 ..... 六五二

第六師團凍傷患者多發ニ關スル處置(六五二) 騎 第四旅團ニ對スル空中補給(六五二)

丁 混成第三十三旅團ニ對スル補給 ..... 六五三

第二款 作戰ノ進捗ニ伴フ兵站ノ狀況

- 兵站末地ノ推進(六五四) 兵站線一部ノ整理(六五四) 第一線兵團ヨリ要求殺到ノ狀況(六五四) 兵
- 站監ノ處置(六五五) 第八師團ニ對スル補給(六五七) 迎支隊ノ轉屬ニ伴フ補給(六五〇) 第六師
- 團長ノ要求(六五八) 混成第十四旅團ニ對スル補給(六五八) 混成第三十三旅團ノ補給(六五八) 輕
- 便鐵道ニ依ル輸送狀況(六六一)

第三款 軍飛行隊ニ對スル處置

第四款 交通及輸送機關ノ整備

第五款 兵站線ニ對スル敵襲、政治工作

- 兵站線ニ對スル敵襲(六六四) 政治工作(六六五)

第六款 任務解除ノ軍命令ニ伴フ兵站監ノ處置

第七章 熱河經略戰初期ニ於ケル支那軍ノ行動

第一節 熱河經略戰開始前ノ狀況

第一款 張學良及南京政府ノ策動竝ニ湯玉麟ノ態度

- 張學良ノ策動(六七二) 南京政府ノ策動(六七二) 湯玉麟ノ態度(六七二) 汪兆銘事件ト湯玉麟(六七四)
- 朝陽寺事件(六七四) 南京政府ノ善後策(六七五) 朝陽寺事件ノ結果(六七五) 義勇軍ノ統制(六七六)
- 張學良ノ義勇軍指揮者ニ與ヘタル訓示(六七六) 東北失地恢復計畫ノ概要(六七七) 「ソ」支復交

第二款 熱河省民ノ狀態

- 湯玉麟ノ惡政(六八〇) 教育ノ狀態(六八〇) 民衆ノ反抗(六八〇) 陸軍訓練所ノ設立(六八〇)

第三款 熱河軍ノ狀況

- 其ノ一 熱河正規軍
  - 直系軍(六八二) 土著軍(六八二) 素質(六八三) 編成(六八三)
- 其ノ二 開魯附近義勇軍ノ狀態
  - 高蔭周(劉震東)軍(六八五) 何清明軍(六八五) 馮占海軍(六八五) 劉桂堂軍(六八六) 李海青軍

第四款 山海關事件竝ニ北支ニ於ケル支那軍ノ移動

- 其ノ一 山海關事件
  - 事件前ニ於ケル狀況(六八七) 山海關事件(六八七) 秦皇島方面ノ狀況(六八九) 京津方面ノ狀況
  - (六八九) 何柱國ノ行動(六八九) 張學良及國民政府ノ對策(六八九) 戰鬪後ニ於ケル支那軍ノ狀
  - 況(六八九)
- 其ノ二 平津地方ニ於ケル支那軍ノ移動
  - 張學良ノ抗日作戰部署(六九三)

第五款 支那軍ノ會戰準備

二四

甲 張學良ノ作戰計畫

七〇〇

作戰計畫策定ニ至ル迄ノ狀況(七〇〇)

作戰計畫ノ概要(七〇一)

七〇〇

乙 楊杰ノ北上

丙 張學良、楊杰連合ノ作戰計畫ノ概要

作戰計畫策定ニ至ル經緯(七〇三)

作戰計畫ノ大要(七〇三)

七〇三

第六款 東北軍ノ編成裝備、素質及訓練

甲 編成裝備

舊東北軍ノ編成改正(七〇八)

七〇八

乙 素質及訓練

東北軍ノ素質(七一〇)

東北軍ノ訓練(七一〇)

舊西北軍(七一〇)

七〇八

東北軍ノ訓練(七一〇)

山西軍(七一一)

七一〇

第二節 熱河省北部方面ノ戰鬪

第一款 義勇軍ノ狀況

七一一

戰鬪開始前ニ於ケル狀況(七一〇)

崔旅ノ狀態(七一一)

何清明ノ行動(七一一)

戰鬪開始後ノ狀況(七一〇)

七一一

第二款 孫殿英軍ノ戰鬪

七一四

甲 赤峰附近ノ戰鬪

七二四

戰鬪前ノ狀況(七二四)

戰鬪經過ノ概要(七二五)

乙 廣道河附近ノ戰鬪

七二五

陣地ノ狀況(七二五)

戰鬪經過ノ概要(七二五)

第三節 熱河省南部方面ノ戰鬪

第一款 第四軍團方面ノ狀況

七二六

甲 第一百十九、第一百八師沙帽山附近ノ戰鬪

七二六

部署(七二六)

二十七日ノ戰況(七二六)

守備ノ交代(七二六)

二十八日ノ戰況(七二六)

乙 第三百三十師葉柏壽附近ノ戰鬪

七二七

戰鬪前ノ狀況(七二七)

部署(七二七)

戰鬪經過ノ概要(七二七)

丙 第二百二十九師凌源附近ノ戰鬪

七一九

部署ノ概要(七二七)

戰鬪經過ノ概要(七二七)

丁 第一百十六師乾溝鎮、喇嘛洞附近ノ戰鬪

七一九

部署ノ概要(七二七)

戰鬪經過ノ概要(七二七)

戊 第四軍團總指揮ノ戰鬪指導

七二一

戰鬪開始前ニ總指揮部ノ知得セル狀況(七二一)

總指揮部ノ入營(七二一)

總指揮ノ處置(七二一)

後退ニ關スル部署(七六)

第二款 第五軍團方面ノ狀況

甲 第一百七旅南嶺、口北營子、朝陽附近ノ戰鬪

戰鬪前ノ狀況(七六)

南嶺附近ノ戰鬪(七七)

口北營子附近ノ戰鬪(七三)

朝陽附近ノ戰鬪

七二六

(七七) 戰鬪後ノ狀況(七三)

乙 騎兵第九、第十旅ノ狀況

騎兵第九旅ノ狀況(七九)

騎兵第十旅ノ狀況(七九)

七二九

丙 第五軍團總指揮ノ戰鬪指導

第四節

萬里ノ長城ニ向フ退却ト中央軍ノ北上竝ニ張學良ノ下野

七三〇

第一款 張學良ノ作戰指導

七三一

第二款 各軍團ノ退却

七三一

戰鬪開始後ニ於ケル指導(七三一)

第四軍團ノ退却(七三五)

第五軍團ノ退却(七三五)

七三四

第三款 中央軍ノ北上

中央軍北上ノ経緯(七三五)

北上兵力及時期(七三五)

七三五

第五節 張學良ノ下野ト北支ノ情勢

七三八

張學良下野ノ経緯(七三九) 何應欽ノ就任(七三九)

附録

第一 關東軍司令官ノ訓示 昭和八年一月二十七日

七四一

第二 二月十日午前十時作戰ノ爲 參謀長會同席上ニ於ケル 關東軍參謀長口演要旨

七四三

第三 支那軍ノ現狀竝ニ我方作戰ノ推移ニ伴フ變化ノ判斷

七四七

第四 裝甲自動車ノ地雷對策

七五三

第五 關東軍司令官ノ訓示 昭和八年三月四日

七五五

附圖

第一 熱河方面作戰地一覽圖

第二 熱河省及北支那方面反滿軍配置要圖

昭和八年二月中旬

第三 關東軍隸下兵團警備擔任區域要圖

昭和八年一月下旬以降

第四 熱河省内ニ於ケル關東軍諸隊

滿洲國軍ヲ含ム

行動經過要圖

昭和八年自二月下旬至三月下旬

第五 第六師團熱河作戰經過概要圖

昭和八年自二月二十日至三月下旬

- 第六 騎兵第四旅團行動經過概要圖 昭和八年自二月二十三日至三月三十一日
- 第七 第八師團熱河作戰經過概要圖 昭和八年自二月下旬至三月六日
- 第八 自錦州至朝陽 第八師團先遣隊行動經過概要圖 昭和八年自二月二十日至二十五日
- 第九 沙帽山附近混成第十四旅團戰鬪經過概要圖 昭和八年二月二十八日
- 第十 熱河經略戰ニ於ケル兵站施設要圖 昭和八年三月下旬
- 第十一 熱河省及北支那方面反滿軍竝ニ支那軍配置要圖 昭和八年一月二十日頃
- 第十二 熱河省及北支方面彼我態勢要圖 昭和八年二月二十七日頃

### 滿洲事變史第十三卷

#### 熱河經略戰(上)熱河省内ニ於ケル支那軍掃蕩戰(草案)

#### 第一章 作戰地一般ノ地理、氣象竝ニ作戰開始前ニ於ケル一般ノ狀況

##### 第一節 作戰地一般ノ地理竝ニ氣象 附圖第一參照

地形ノ大觀

熱河省ハ西北境ニ大興安嶺ノ末端蜿蜒トシテ起伏シ西域ニハ北ニ陰山山脈、西喇木倫、老哈兩河共ニ支流ノ間ニ起リテ遠ク北支那ニ趨リ七老圖山山脈ハ斜ニ之ニ交リテ東南走シ別ニ松嶺山脈ハ渤海海岸ト併行シテ東南境ヲ劃ス又東北境ハ一望千里ノ大平原ヲ成シテ縹緲滿洲ノ野ニ連ル

第六師團ノ作戰セル熱河省北部方面ハ西喇木倫、老哈、叫來西遼河、新開河 彰武西側ヲ東南等ノ諸河川概ネ東流シ其ノ流域到ル處平地ヲ成形シ其ノ西部熱河省中ハ平地、岡阜地相錯綜シアルモ一般ニ比高低ク地形平易ニシテ所々ニ沙漠地帯アリ

第八師團ノ作戰セル南部方面ハ比較的高峻ナル山地帯及其ノ間ヲ流ルル大凌河、小凌河、灤河及之ニ沿フ狹隘ナル平地ヨリ成ル



北部及中部地方ハ土地概シテ乾燥シ砂質ニ富ミ道路ハ人煙稀薄而モ一望際涯ナキ曠野中ヲ縱横スルヲ以テ行進方向ヲ惑ハシメ就中不毛ノ沙漠地帯ニ於テハ四方ニ大小ノ沙丘起伏シテ判然タル道路ナク一度大風起ランカ細沙天ニ漲リ天地晦冥咫尺ヲ辨ゼザルニ至リ先行者ノ足跡、轍跟モ辿ルニ由ナク宿營、給水ノ便亦容易ナラザルヲ一般トシ特ニ西喇木倫河南岸ノ沙漠地帯ハ起伏ニ富ミ地隙多ク且道路ハ曲坂路ヲ成セル箇所少カラズ

南部地方ハ土質概シテ堅硬ナリ而シテ道路ハ路面凹凸甚ダシク大部分礫石道ニシテ降雨ニ際シテモ南滿ノ如ク泥濘トナラズ加フルニ傾斜比較的緩カナルヲ以テ主要幹線道路ハ自動車ノ運行可能ニシテ特ニ冬季ハ凍結シ一般ニ通過自在ナリ然レドモ河床内ヲ通ズル部分多キヲ以テ豪雨ニ際シテハ交通杜絶スルヲ通常トス又西南部地方ハ山地帶多ク坂路ハ急峻ニシテ岩石路面ニ露出シ凹凸不齊、峠ヲ通ズル部分ハ路幅狹隘ニシテ野砲通過ノ爲ニハ大修理ヲ要スルモノアリ

宿營給養

北部地方ハ住民稀少ナルヲ以テ市街地ノ外部隊ヲ一地ニ舍營セシムルコト困難ニシテ村落露營又ハ露營ニ依ルノ外ナク強ヒテ舍營セントセバ廣範圍ニ分散スルヲ要ス又冬季ニ在リテハ特ニ防寒具ヲ必要トシ諸物資亦主要部落以外ニ於テハ概ネ追送ニ待タザルベカラズ飲用水ハ井水、河水ノ利用スベキモノ少ク大部隊ノ需要ヲ充タス爲ニハ自ラ作井ノ必要アリ

南部方面ハ概シテ人口稠密ニシテ宿營、給養ニ便ナリ

氣象

蒙古人部落ハ戰術上ノ價值少キモ滿、漢人ノ部落ハ周圍ニ圍壁ヲ繞ラシ村落防禦ニ有利ニシテ僻遠地ノ豪家ニハ側防設備、銃眼等ヲ設ケ小部隊ノ防禦ニ適スルモノヲ散見ス

熱河省ノ氣象ニ關シテハ從來信ズベキ統計ニ乏シク且各地方ニ於ケル氣象同一ナラザルモ一般ニ大陸的氣候ノ特徵顯著ニシテ寒暑ノ差甚ダシク又晝夜ニ於ケル氣温ノ差著シ

結氷ハ十月中旬乃至下旬ニ始リ十一月頃ヨリ一般ニ毛皮ノ衣服ヲ使用ス十二月、一月ハ寒氣凜冽ニシテ三月初ニ至リ稍々暖氣加ルモ此ノ頃往々ニシテ天候異變シ屢々降雪ヲ見又朔風烈シク黃塵天ニ漲リ夜間氷結スルモ晝間解氷シテ泥濘トナリ交通ニ不便ヲ感ズルコト少カラズ四月上旬ニ至リ全部解氷スルヲ例トス

最低氣温ハ一月ノ氷點下三十度攝氏、以下同ジヲ標準トスルモ本作戰ニ於テハ二月下旬ニ於テモ氷點下三十度ヲ超エタルコトアリ

降雪ハ一般ニ少ク一年四、五回ニ過ギズ又積雪三十糎ニ達スルコト稀ナリ

風ハ一般ニ十月以降北西ノ烈風多ク雪又ハ黃塵ヲ飛バシ軍隊ノ行動ヲ阻碍スルコト大ナリ

第二節 作戰開始前ニ於ケル一般ノ狀況 附圖第二參照

廣袤約十六萬平方浬、人口約二百三十萬ヲ有スル熱河省ハ滿洲國建設ト共ニ其ノ領域ニ加リシモ省長

湯玉麟ハ四圍ノ事情ニ制セラレテ態度鮮明ナラズ加之吉林、黑龍江兩省方面ヨリ敗殘兵匪ノ竄入シ來ル者次第ニ多キヲ加ヘ又平津地方ニ蟠踞スル張學良ハ約十五萬ノ東北軍ヲ擁シテ湯玉麟ヲ監視スルト共ニ滿洲國ノ擾亂ヲ目的トスル各種ノ工作第七章「熱河經略初期ニ於ケル支那軍ノ行動」參照ニ狂奔シ國民政府亦日本軍ノ關内進出ノ意圖ナキヲ看取スルヤ湯玉麟及張學良ヲ鞭撻シ以テ熱河ニ於テ日支兩軍ノ戰況ヲ交綏狀態ニ陥ラシメ列國ノ干涉ヲ誘致セント企圖シ茲ニ熱河ハ反滿抗日ノ策源地ト化シ住民ハ苛斂誅求ニ生色ナク而モ熱河混亂ノ餘波ハ全滿民心ノ安定ヲ阻碍スルコト頗ル大ナルモノアリ而モ一度竄入セル敗殘兵匪ハ陽春ト共ニ再ビ奉天、吉林、黑龍江省等ニ逸出スル虞アリシヲ以テ關東軍ハ機先ヲ制シテ熱河ヲ肅清スルニ決シ我ガ陸軍當局亦二月九日熱河省ノ討伐ニ關シ中外ニ聲明ヲ發セリ

當時熱河省内ノ反抗勢力ハ其ノ兵力約十三萬五千ニシテ主力ヲ以テ赤峰ヨリ建平赤峰東南方、葉柏壽北平南方約五、北章營子葉柏壽東南方約六十五、經テ乾溝鎮北章營子西南ニ互ル線ヲ、各一部ヲ以テ其ノ前方開魯奉天西北方約十五、與隆地開魯西南、朝陽與隆地南方、沙帽山朝陽西南方附近並ニ後方承德附近ヲ守備スルノ外河北省東北部ニ於ケル北支政權ノ正規軍約十五萬ノ支援ヲ受ケ抗日ノ氣勢ヲ昂ゲツツアリ昭和八年二月中旬頃ニ於ケル熱河省及北支那方面反滿軍配置ノ狀況附圖第二ノ如シ

## 第二章 熱河省内ニ於ケル支那軍掃蕩戰ノ概要

### 第一節 作戰準備ニ關スル關東軍司令部ノ處置附圖第三、第四參照

關東軍ノ準備 關東軍ハ熱河經略ノ止ムベカラザルヲ豫察シ夙ニ準備スル所アリ即チ昭和七年四月派遣セラレタル第八師團主力ヲ遼西地區ニ配置シ熱河省並ニ北支方面ニ對シ警戒セシムルト共ニ竊カニ熱河方面ニ對スル作戰準備ヲ行ハシメ且後顧ノ憂ヲ絶ツ目的ヲ以テ同年十月以降東邊道、同北隣地區、滿鐵線ト安奉鐵道トノ中間地域三角、地帶、遼河流域、吉林省東境方面等ノ各地ニ於ケル匪賊討伐ヲ實施セリ

山海關事

然ルニ昭和八年一月一日山海關ニ於テ滿洲國國境警備隊ハ何柱國軍ト衝突セシガ我ガ山海關守備隊及第八師團ノ一部ハ之ヲ支援シ四日遂ニ山海關ヲ占領セリ

關東軍司令官ハ熱河作戰ノ準備未完了ノ際不期ノ戰鬪ヲ惹起シ不知不識ノ間其ノ擴大ヲ見ルハ得策ニアラズト爲シ當初ヨリ本事件ノ不擴大方針ヲ堅持シテ第八師團ヲ指導スルト共ニ其ノ平和的處置ニ關シテハ支那駐屯軍之ニ當ルヲ至當トスベキ見地ノ下ニ同軍ト密ニ連絡シ爾後軍ハ一意熱河經略戰ノ準備ニ專念セリ

中央部トノ交渉

陸軍中央部ニ於テハ熱河經略ノ必要ニ關シテハ之ヲ認識セリト雖モ當時ニ於ケル内外ノ諸情勢ニ鑑ミ作戰開始ノ時期過早ナリトスル空氣一般ニ濃厚ナリシガ關東軍ハ之ヲ平津地方ニ及サザル限リ純然タ

ル滿洲國ノ國內問題ニ過ギズト爲シ其ノ實施ハ作戰上解氷期以前ヲ有利トスベキ見解ヲ持シ折衝ノ結果其ノ了解ヲ得タリ

在滿部隊ノ増加

一方在滿部隊ノ編成改正ニ伴ヒ第八、第十及第十四師團ハ留守若クハ殘置部隊ヨリ夫々左ノ兵力ヲ増加セラレ各師團ハ從來ヨリモ充實セル兵力ヲ以テ熱河作戰ニ臨ムコトナレリ臨參命第二十九號(第一卷第一三九頁)參照

- 歩兵 四大隊
- 騎兵 一中隊
- 野砲兵 一大隊
- 工兵 大隊本部及一中隊
- 輜重兵 一中隊

企圖ノ秘匿

企圖ノ秘匿ニ關シテハ軍司令部ニ於テモ特ニ注意ヲ倍蕙シ直接關係方面トノ連絡ニハ主任者直接之ニ當ルト共ニ印刷物ハ固ヨリ文書等ノ往復ヲモ之ヲ避ケ加之作戰計畫ハ長城以南河北省ニ作戰スルモノト熱河省内ニ作戰スルモノトノ二案ヲ作成シ其ノ何レニ依ルベキヤハ特定ノ者以外ニ明示スルコトナク只管真企圖ノ漏洩防遏ニ勉メタリ

準備命令ノ下達

一方軍司令官ハ本作戰開始ノ時期等ニ關シ中央部ト折衝ヲ重ヌルト共ニ準備ノ周到ヲ期スル爲一月二十七日隸下一般ニ對シ特ニ訓示附錄第一參照シ且翌二十八日準備命令四六六號ヲ下達シ大要左ノ如ク部署セ

リ

部署ノ大要

一 第六師團

二月二十四日迄ニ其ノ兵力ヲ新警備區域新河(開魯)錦州北方約二百七十三軒)附近ヲ東北流シ更ニ東南流シテ鄭家屯(奉天北方約二百軒)ニ於テ遼河ニ合ス、遼河、通江口(奉天北方約百軒)、彰武台門(奉天西北方約百軒)ヲ通ズル長橋並ニ熱河省境ヲ以テ圍繞スル地域及奉天、四平街間滿鐵本線沿線要地ニ集結シ其ノ新警備區域内ニ於ケル打通、四鄭四平街、鄭家屯、鄭家屯間及鄭通鄭家屯、通遼間鐵道ノ交通ヲ確保スルト共ニ熱河省内兵匪ノ東方脱出ヲ防止シ且赤峰方面ニ向ツテスル爾後ノ前進ヲ準備ス

二 第八師團

其ノ擔任警備區域繞陽河(含マズ)以西ニ於ケル奉天省ノ一部内ノ交通ヲ確保シ且關内及熱河省内兵匪ノ奉天省侵入ヲ防止スルト共ニ二月二十四日迄ニ其ノ主力ヲ繞陽河以西奉天省内ノ諸要地ニ集結シ承德方面ニ向ツテスル爾後ノ前進ヲ準備ス

三 騎兵第四旅團

自今軍司令官ノ直轄トシ第六師團部隊ノ新配置ニ就ク迄通遼及彰武附近ニ位置シ熱河省内兵匪ノ東方脱逸ヲ防止ス

四 混成第十四旅團

二月二十日以降行動ヲ開始シ得ルノ態勢ニ在ルモノトス  
第十師團長ノ指揮下ニ在ル其ノ隸屬部隊ハ二月二十日迄ニ奉天ニ於テ復歸セシム

五 獨立守備隊司令官ハ四鄭鐵道ノ保護ヲ第六師團長ニ引繼ギ且新ニ擔任スル警備區域

任區域ヲ除ク 奉天省ノ一部 第六、第八、第十四師團ノ擔

六 各師團長及獨立守備隊司令官ハ警備ニ關シ其ノ擔任スル警備區域内ニ於ケル其ノ隸下若クハ指

揮下ニ在ラザル日滿軍隊ヲ區處スルコトヲ得

德王ノ使

兵要地誌  
ノ研究

一月二十一日蒙古人德王ナルモノ日本人伊藤某等ノ附添ニテ關東軍司令部ニ出頭シ日本軍ノ爲盡スベ  
キヲ申出デタルヲ以テ之ヲ採用シ通遼ニ辦公所ヲ設ケ蒙人ノ宜撫竝ニ情報收集等ニ任ゼシム

豫想戰場ニ於ケル兵要地誌ニ關シテハ各當事者間ニ於テ銳意研究ヲ進メツツアリシガ軍司令官ハ特ニ  
一月三十一日及二月一日ノ兩日ニ互リ軍及關係兵團ノ幕僚ヲシテ旅客飛行機ニ依リ熱河省内ノ地形偵  
察ニ任ゼシメタリ其ノ結果山上殆ト雪ナク河川ハ氷結シアルモ諸所河底ノ砂礫露出シアルヲ以テ融氷  
ノ爲交通上大ナル支障ナカルベキモ一般ニ地隙頗ル多キヲ以テ豪雨時ニハ氾濫ノ爲交通杜絶ノ虞大ナ  
リト判斷セラレタリ

附記 古老ノ言ニ依レバ本年ノ如ク雪少キ年ハ降雨期早カルベシトノコトナリ

作戰計畫

作戰計畫ハ逐次推敲ヲ經テ二月九日左ノ如ク決定セシヲ以テ軍司令官ハ翌十日關係各兵團幕僚ヲ集メ  
之ヲ開示セリ 以下附圖 第四參照

附記 二月十日參謀長會同席上ニ於ケル「關東軍參謀長口演要旨」、同席上軍幕僚ノ開示セル「支那軍ノ現狀竝ニ我が作戰ノ推移

ニ伴フ變化ノ判斷」及「裝甲自動車ノ地雷對策」ハ附錄第二乃至第四ノ如シ

熱河經路計畫

第一 目的

熱河省ヲシテ名實共ニ滿洲國ノ領域タラシメ且滿洲國擾亂ノ策源タル北支學良勢力ノ覆滅的氣運ヲ  
醸成促進シ以テ滿洲國建國ノ基礎ヲ確立スルニ在リ

第二 用兵關係事項

其ノ一 作戰方針

熱河省内ニ於テ學良系軍ニ對シ最モ迅速且多大ノ打擊ヲ與ヘ以テ同省内ヲ平定スルト共ニ北支學良  
勢力ノ覆滅ヲ促進ス

之ガ爲熱河作戰ニ使用スル日本軍ノ一部及滿洲國軍ノ主力ヲ以テ先ヅ熱河省東境方面ニ作戰シテ該  
方面ノ兵匪ヲ平定スルト共ニ反抗分子ヲ成ルベク北方ニ牽制シ次デ日本軍ノ主力ヲ以テ急遽同省南  
部河北省省境ニ近ク兵ヲ進メ北支ト熱河省トヲ確實ニ分斷スル威力壁ヲ構成シ以テ北支學良勢力

ヲ威壓スルト共ニ熱河省内反抗分子ヲ孤立無援ニ陥ラシメ爾後之ヲ西方若クハ西南方ニ席卷壓倒ス  
此ノ際特ニ東方ニ向ツテスル兵匪ノ脱逸ヲ防止シ且滿洲國爾他ノ地域ニ於ケル警備ヲ嚴ニスルノ外  
「ソ」支兩國ニ對シ警戒ス

別命アル場合ノ外河北省内ニ於テ作戰行動ヲ實施スルコトナシ

結氷期間ニ主要作戰行動ヲ終了シ引續キ掃匪作業ノ大部ヲ完ウシ以テ成ルベク速カニ滿洲全面ニ互  
ル分散配置ニ就キ高粱繁茂期前ニ於テ新治安工作ノ大部ヲ完成スルニ勉ム之ガ爲本作戦ハ二月下旬  
ヨリ之ヲ開始ス

其ノ二 軍隊區分

第六師團

配屬部隊

- 騎兵第四旅團 騎兵第一旅團ノ騎砲兵中隊(一  
小隊欠)及自動車班ノ主力屬
- 騎兵第十聯隊
- 第十四師團派遣部隊 步砲兵各一  
大隊基幹
- 自動車一中隊
- 第二裝甲列車

區處部隊

滿洲國軍隊

- 洮遼軍約一萬二千 張海鵬及  
索景清
- 暫編第二軍 暫編建國第二  
軍トモ謂フ 約七千五百 程國  
瑞
- (以上前敵總司令官張海鵬統一指揮部隊)
- 獨立第一旅 獨立警備第一  
旅トモ謂フ ノ約二千五百 李壽  
山
- 護國游擊軍約一萬 劉桂  
堂
- (以上滿洲國軍總司令官張景惠直轄部隊)

第八師團

配屬部隊

- 混成第十四旅團 工兵第十四大  
隊ノ一中隊屬
- 戰車隊
- 十五榴門中隊
- 列車重砲兵隊
- 關東軍自動車隊 二中隊ト增加  
自動車隊欠

右ノ外作戰ノ初期 第二期作戰第四日迄ト豫定ス 關東軍自動車隊ノ増加自動車約二中隊ヲ配屬ス

區處部隊

滿洲國軍隊

救國游擊軍約六千強<sup>丁</sup>及警備區域内ニ於ケル其ノ他ノ滿洲國軍隊

軍直轄部隊

第十師團派遣混成旅團 步兵六大隊、砲兵三中隊、工兵二中隊、基幹隊

關東軍飛行隊

關東軍電信隊

關東軍增加自動車中隊 四中隊

第十及第十四師團輜重兵中隊

鐵道聯隊主力

第一、第二兵站司令部

補給諸廠

輸送機隊

右ノ外第六、第八師團ニハ所要ノ幕僚ヲ又兩師團及兵站司令部ニハ所要ノ憲兵ヲ配屬ス

附記 熱河作戰滿洲國軍ノ編成左表ノ如シ



其ノ三 作戰指導要領

(一) 第六師團方面

第一期

作戰準備完了セバ開魯、綏東開魯南東、方約百軒、阜新綏東南方、約八十軒附近ニ前進シ所在ノ敵ヲ擊滅シ次デ天山開魯西方、約八十軒、下窪天山南方、約百二十軒、朝陽ノ線ニ向ヒ敵ヲ西方ニ席卷ス

第二期

主力ヲ以テ赤峰方面ニ又有力ナル一部主トシテ滿洲國軍隊ヲ以テ林西赤峰北西方、約百五十軒、多倫林西西南方、約二百軒方面ニ向ヒ作戰シ敵ヲ多倫及北支方面ニ壓迫驅逐ス  
別ニ混成約一旅團ヲ以テ北票鐵道錦州鐵道トモ稱呼スノ修理完成後適時出發北票朝陽東北方、約三十軒、朝陽、建平及赤峰方面ニ作戰シ且北票、朝陽間輕鐵ノ敷設竝ニ朝陽寺合ム、朝陽東、方約四十軒、赤峰間ノ兵站路ノ掩護ニ任ズ  
特ニ右部隊ノ内歩兵約二大隊ヲ兵站司令官ノ指揮ニ屬シ右兵站路上兵站ノ直接掩護ニ任ゼシム  
全期間ヲ通ジ兵匪ノ東方省外ニ脱逸スルヲ防止シ且擔任區域内後方交通ハ自ラ確保スルモノトス

(二) 第八師團方面

第一期

(イ) 一部ヲ以テ北票方面ニ作戰シ北票鐵道修理ノ掩護ニ任ズ

(ロ) 有力ナル一部固有隸下部隊ノ初年兵ヲ主體トスヲ以テ同師團擔任區域綏陽河以西、奉天省内ノ警備特ニ後方交通路錦州、北票間ノ鐵道ヲ合ムノ確保ニ任ズ

別ニ一部列車重砲ヲ附スヲ以テ山海關及九門山海關北方、約十五軒附近ヲ確保シ北支方面ノ敵ニ對シ師團主力ノ側背ヲ掩護ス

本項部隊統一指揮ノ爲秋川大佐ヲ第八師團ニ配屬シ第八師團長錦州附近出發後本項警備ニ關シテハ獨立守備隊司令官ヲシテ區處セシム

第二期

(イ) 混成第十四旅團ハ綏中錦州西南方、約百十軒、凌源綏中西北方、約百三十軒、平泉凌源西南方、約六十五軒方面ニ作戰シ右作戰路沿線ノ要點ヲ確保シテ同地方ノ掃匪ニ任ズルノ外成ルベク速カニ界嶺口山海關西北西、方約四十二軒、冷口界嶺口西、方約三十八軒、喜峰口冷口西北西、方約五十軒等長城ノ重要關門ヲ確保シ軍主力ノ側面ヲ掩護ス

之ガ爲狀況ニ依リ一部隊ヲ長城北側山徑ヲ前進セシムルコトアリ又別ニ一部ヲ以テ朝陽合ム、太平房朝陽西南方、凌源、平泉間ノ兵站路ノ掩護ヲ確實ナラシメ特ニ歩兵一大隊ヲ兵站司令官ノ指揮

ニ屬シ之ガ直接掩護ニ任ゼシム

(ロ) 第八師團ノ主力ヲ以テ朝陽、太平房、凌源道方面ヨリ前進シ爾後其ノ他ノ部隊ト共ニ成ルベク速カニ承德ニ進入シ次デ古北口承德西南方約七十軒ヲ占領シ茲ニ北支ト熱河省トヲ遮斷スル威力壁ヲ完了ス

此ノ際一部隊ヲ以テ羅文峪喜峰口西南西、方約三十五軒、馬蘭關羅文峪西方約二十五軒ノ各關門ヲ確保ス

(ハ) 第八師團方面第二期作戰ハ必ズシモ第六師團第一期作戰ノ終了ヲ待ツコトナク開始スルコトアリ

(三) 兩師團作戰地域ノ境界

熱河省東端泡子彰武西南方約三十軒ヨリ朝陽寺ニ至ル省境、朝陽寺、朝陽、馬連圖朝陽西方約百軒、張三營馬連圖西方約百三十五軒ヲ連ヌル線線上ハ第六師團ニ含ム

(四) 軍直轄部隊

第十師團派遣混成旅團主力步兵及砲兵ハ奉天附近ニ位置シ狀況ノ急變ニ應ゼシム  
飛行隊ハ一部ヲ以テ第六師團方面、主力ヲ以テ第八師團方面ノ作戰ニ協力ス  
鐵道聯隊主力ハ義州、北票間ノ鐵橋修理及北票、朝陽間ノ輕鐵敷設竝ニ之ガ運轉ニ任ズ  
兵站司令部及輸送諸機關增加自動車隊、第十、第十四師團輜重兵隊、輸送機ノ大部ヲ以テ錦州—北票—朝陽—建平—赤峰道及朝陽—

太平房—凌源—平泉道ニ兵站路ヲ施設シ兵站業務ニ任ズ

之ガ掩護ノ爲前述兵力ヲ使用スルノ外工兵第十大隊ヲ兵站司令官ノ指揮ニ屬シ自動車道ノ補修ニ任ズ

作戰開始ニ先ダチ軍司令部ノ一部ヲ錦州ニ推進シ軍司令官ハ適時錦州ニ到ル

(五) 第三期作戰

(イ) 北支ト熱河省トヲ遮斷スル威力壁ヲ保持擴張シテ一面北支學良勢力ニ對シ脅威的態勢ヲ整フルト共ニ逐次威力圈ヲ熱河省要點ニ擴張シ兵匪ヲ西方若クハ西南方ニ驅逐シツツ省内ノ肅清ニ勉ム

(ロ) 狀況ニ依リ第十及第十四師團部隊ヲ原所屬ニ復歸セシム

(ハ) 第三期ニ於ケル第六、第八師團擔任區域ノ境界ハ追ツテ定ム

(六) 滿洲國軍ノ指導

滿洲國軍ノ主力ハ張海鵬統率ノ下ニ第六師團長ノ區處ヲ以テ主トシテ同師團作戰地域内ニ於テ行動ス

其ノ概要ヲ豫定スルコト次ノ如シ

護國游擊軍長劉桂堂約一萬

第一節 作戰準備ニ關スル關東軍司令部ノ處置



第二章 熱河省内ニ於ケル支那軍掃蕩戰ノ概要

魯北 開魯北方約百二十五軒、林東 魯北西南方約百五十軒、林西、多倫方面ニ

洮遼軍 司令官張海鵬約一萬二千

綏東—赤峰道 含マ 以北ノ地區ヨリ至寧(烏丹城) 赤峰北方約八十軒、熱水湯 全寧西南方約百十軒、豊寧 熱水湯西南方約百四十軒 方面ニ

暫編第二軍 司令官程國瑞約七千五百

獨立第一旅 長李壽山約二千五百

綏東—赤峰道 含マ 以南ノ地區ヨリ公爺府 赤峰西南方約五十軒 附近ヲ經テ圍場(錐子山) 公爺府西方約八十軒 方面ニ  
滿洲國軍ノ一部救國游擊軍 丁強約六千

第八師團長ノ區處ノ下ニ綏中—凌源—平泉道 含マ 以南ノ地區ヲ經テ喜峰口方面ニ

第三 政治工作

政治工作ハ概ネ之ヲ作戰行動間及作戰行動一段落後ノ二段ニ區分ス

前段

軍ノ作戰ニ追隨スル急速ナル切崩工作竝ニ之ガ應急後始末ヲ併行シ特ニ軍ノ主作戰路沿線ノ治安ヲ速カニ恢復スルニ勉ム

後段

別冊熱河省統治要領 省略ニ依ル

第四 謀略

敵軍内部ノ動搖擾亂ヲ誘發惹起セシメ以テ作戰行動ノ成果ヲ迅速且大ナラシムルヲ主眼トス  
之ガ爲謀略實施ノ重點ヲ湯玉麟竝ニ學良系軍ニ指向ス

省外北支學良系軍ニ對シテハ軍自ラ之ヲ行ハザルヲ本則トスルモ熱河經路ヲ轉機トシテ學良勢力ノ覆滅的氣運ヲ醸成促進ス

作戰行動終了スルモ有力ナル機關ヲ承德附近ニ配置ス

飛行隊使用計畫 本作戰ノ爲ノ飛行隊使用計畫左ノ如シ

熱河作戰ノ爲ノ飛行隊使用計畫

方針

關東軍飛行隊ハ主力ヲ以テ第八師團、一部ヲ以テ第六師團方面ノ作戰ニ協力ス

作戰ノ推移ニ伴ヒ偵察隊ノ一部若クハ主力ヲ第一線兵團ニ配屬ス

本作戰間敵ノ空中勢力ト衝突スルコトアルヲ顧慮ス

關内ニ對シテハ別命アル迄行動スルコトヲ禁ス

集中

第一節 作戰準備ニ關スル關東軍司令部ノ處置

各飛行隊ハ二月二十日迄ニ左ノ如ク集中ス

一通遼

偵察飛行一中隊七機

二錦州

關東軍飛行隊司令部

飛行第十大隊本部及一中隊偵察

飛行第十二大隊爆擊

輸送會社「ブスモス」三空中勤務及地上勤務者共

移動修理班野戰航空廠ヨリ

三綏中

飛行第十大隊ノ一中隊偵察

飛行第十一大隊本部及九一、九二ノ各一中隊戰闘

四奉天、哈爾濱

戰闘各一中隊

五軍空中輸送隊

二月二十五日行動ヲ開始シ得ル如ク連山ニ集中ス

但シ所要ノ人員器材ハ十七日迄ニ輸送ヲ完了スルコト

作戰指導

第一期

第六師團方面

一 同師團ノ作戰開始ニ伴ヒ先ヅ通遼飛行隊ヲシテ協力セシメ次デ日本軍開魯、綏東附近通過後錦

州方面ヨリ協力セシムルヲ必要トスルニ至ラバ通遼偵察隊ノ主力ヲ錦州方面ニ移動ス

此ノ間要スレバ錦州飛行隊ヲシテ第六師團主力ニ協力セシム

二 要スレバ爆撃隊ヲシテ協力セシムルコトアリ

三 成ルベク朝陽前進飛行場ノ利用ニ努ム

<sup>1</sup>(十日朝陽ヲ占領シ得ル豫定)

第八師團方面

一 偵察隊ノ一部ヲ以テ第八師團ノ北票線占領ニ協力セシム(一日頃開始ノ豫定)

二 在綏中偵察隊ヲ以テ要スレバ南部熱河省内ノ友軍移動ノ狀況及山海關方面部隊ニ協力セシ

- 三 戦闘飛行隊ハ出動準備ヲ完了シ待機セシム

二二

第二期

第六師團方面

- 一 偵察一中隊要スレバ爆撃隊ノ一部ヲ協力セシム
- 同方面ニ於テハ成ルベク朝陽前進飛行場ヲ使用スルニ努ム

第八師團方面

- 一 第八師團ノ主力前進開始後戦闘ヲ豫期シ得ルニ至ラバ偵察一中隊ヲ第八師團ニ配屬ス
- 二 在綏中偵察隊ハ第一期作戰ノ任務ヲ續行スルト共ニ混成第十四旅團方面ノ部隊ニ協力セシム
- 三 凌源前進飛行場ヲ使用シ得ルニ至リ第八師團司令部トノ通信之ヲ許スニ至ラバ偵察大隊ノ主力ヲ同師團ニ配屬ス

此ノ際右配屬飛行隊ヲシテ軍ノ爲戰略搜索ヲ擔任セシム

- 四 爆撃隊ハ主トシテ第八師團方面ノ作戰ニ協力セシム、輕爆中隊ハ凌源前進飛行場ヲ使用セシム
- 五 戦闘飛行隊ハ依然戦闘準備ヲ完了シ待機セシム
- 六 凌源飛行場ニハ狀況ニ依リ一部ヲ推進セシメ又在奉天戦闘隊ノ主力ヲ錦州方面ニ移動ス
- 六 軍空中輸送機隊 三M一、「スーパー」ハ連山飛行場ヲ基點トシ兵站輸送ニ任ズ

成ルベク武裝セシム(防禦機關銃)

補給

- 一 野戰航空廠ヨリ客車一、貨車一ノ修理車及人員約五十名ヲ以テ移動修理班ヲ編成シ飛行隊司令部ニ配屬シ作戰間ノ材料廠業務ヲ擔任セシム
- 二 全飛行隊ニ對スル彈藥及燃料ハ先ヅ約十五日分ヲ錦州及其ノ他ノ飛行場ニ準備ス
- 三 朝陽ニハ偵察一中隊分、凌源ニハ偵察二中、輕爆一中、戦闘隊一部ノ爲前進飛行場トシテ約二週間分ノ燃料及彈藥ヲ逐次前送ス
- 四 山海關飛行場ハ使用スルコトアルヲ顧慮ス

通信計畫

熱河作戰ノ爲ノ通信計畫左ノ如シ

附記 本計畫ハ「熱河作戰ノ爲ノ兵站、交通、通信計畫」中ニ包括セラレタルモノナルモ兵站ニ關シテハ第六章ニ記述セシヲ以テ便宜上通信計畫ノミヲ摘記セリ

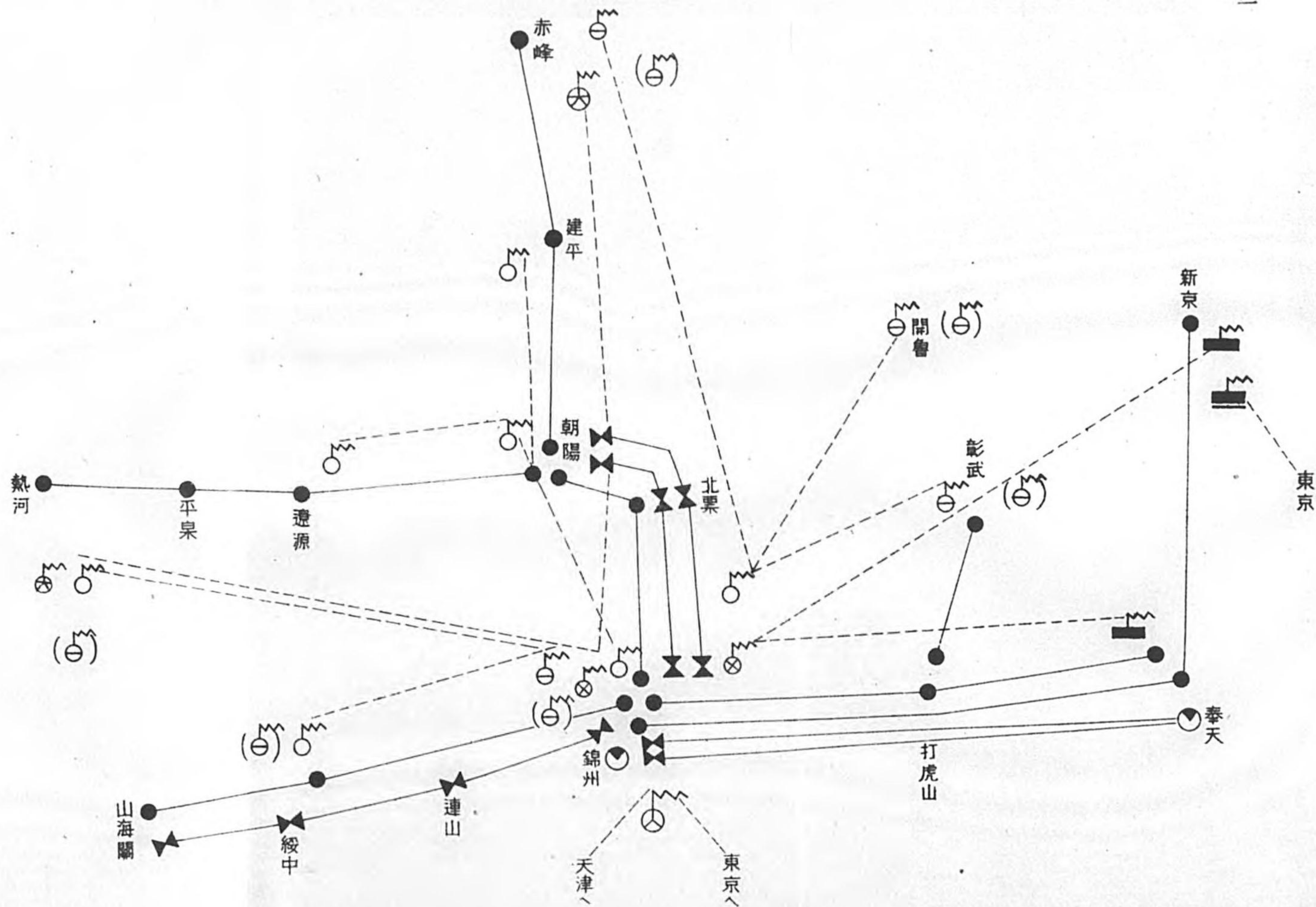
熱河作戰ノ爲ノ通信計畫

第一準備

- 一 有線一中隊、無線一號機ヲ主トス十五機分ノ要員並ニ器材ノ増加ヲ中央部ニ要求ス
- 二 滿洲國電政管理局ヲシテ奉山並ニ北票鐵道沿線地區ノ既設線ヲ増設セシム

# 熱河作戰爲、關東軍通信網圖

別紙第一

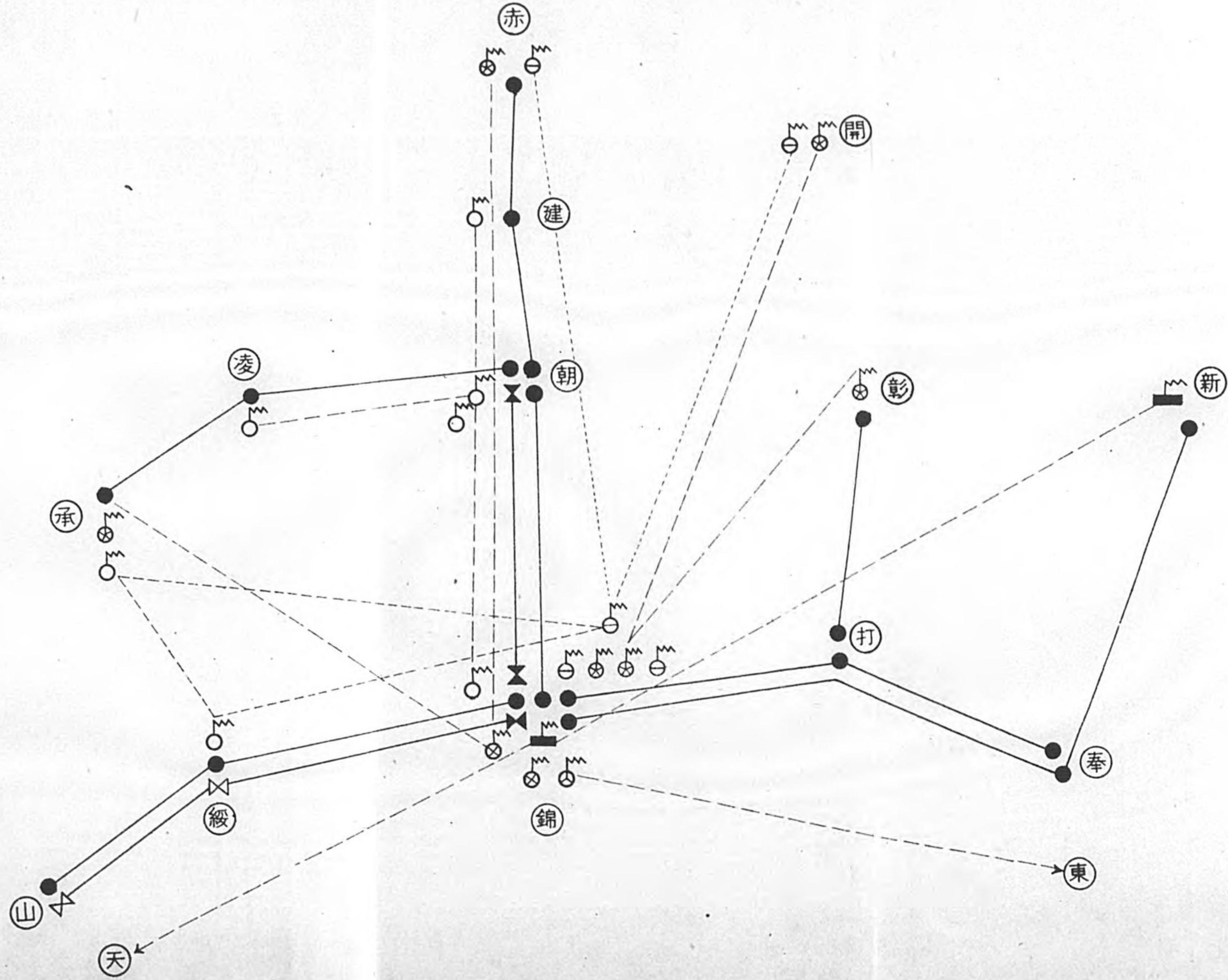


備考

- 一、〇十一號機 〇一號機 〇十號機 〇九號機 〇八號機 ヲ示ス
- 二、本圖外錦州新京間ニハ無線電話特殊通信部擔當アリ  
又鐵道沿線ニ鐵道運用並ニ鐵道守備用ノ電話ニ回線アリ
- 三、有線電信ハ所要ニ應ジ雙信法ヲ行フモノトス
- 四、滿鐵本線沿線關係ハ本計畫外トス

熱河作戰ノ爲ノ關東軍通信網要圖

別紙第二



備考

符號ノ註記ハ別紙第一ニ同シ

三 新京、錦州間ニ無線電話ヲ新設ス以上ノ準備ハ遅クモ二月中旬迄ニ完成ス

第二計 畫

- 一 熱河作戰ノ爲ノ軍通信網別紙第一ノ如シ
- 二 作戰地ニ於ケル既設線ノ利用ハ總テ軍電信隊長ニ於テ統制セシム
- 三 軍用通信外ノ通信取扱ニ就テハ軍用通信ヲ妨ゲザル範圍ニ於テ軍電信隊長ヲシテ規定セシム
- 四 今次作戰地域ニ於ケル軍事郵便ハ適宜ノ時期ニ之ヲ實施ス

附記 當初ノ計畫ニ於テハ中央部ニ要求セル器材未到着ノ場合ヲ顧慮シ別紙第一及第二ノ二案ヲ準備セシモ其ノ交付ヲ受ケルニ及ビ二月二十日第一ノ如ク決定セリ

部隊ノ編成並ニ轉屬

作戰準備ニ關シ部隊ノ編成ニ就キ直屬部隊長ニ對シ逐次命令セシ主ナル事項左ノ如シ

一 臨時派遣第一戰車隊長

八九式戰車十二輛、九二式装甲自動車三輛、自動貨車五輛、乘用自動車一輛、側車附自動車三輛、修理用自動車一組ヲ以テ本部一、小隊四及段列一ヲ編成ス關作命第四七〇號ヲ以テ發令

二 旅順重砲兵大隊長

二月十五日迄ニ臨時列車砲隊十加一門、十五榴一門ヲ二月二十日迄ニ臨時重砲兵中隊十五榴二門（牽引自動車共）ヲ編成ス

三 關東軍電信隊長

本部、有線二中隊、無線一中隊及材料廠一ヲ編成ス

四 關東軍自動車隊長

本部、七中隊及材料廠一ヲ編成ス

五 遼陽及鐵嶺衛戍病院長

遼陽衛戍病院長ハ關東軍臨時第一、第二野戰病院ヲ、鐵嶺衛戍病院長ハ關東軍臨時第三、第四野戰病院並ニ患者列車衛生員ヲ編成ス

更ニ各部隊ノ轉屬ニ關シ二月十一日左記命令ヲ下達セリ

關作命第四七二號

第一節 作戰準備ニ關スル關東軍司令部ノ處置

關東軍命令 二月十一日午前十一時  
於新京軍司令部

一 第十師團長ハ其ノ隸下部隊ヨリ旅團長ノ指揮スル歩兵約六大隊、砲兵約三中隊ヲ二月二十四日迄ニ奉天ニ派遣シ軍直轄タラシメ騎兵約二中隊ヲ二月二十一日迄ニ通遼附近ニ派遣シ第六師團長ノ指揮下ニ、工兵約二中隊ヲ二月十九日新京ニ於テ又輜重兵中隊ヲ二月二十日四平街ニ於テ共ニ兵站事務取扱ノ指揮下ニ入ラシムベシ

又關作命第四六六號ニ依リ配屬豫定ナリシ第二裝甲列車ハ依然第六師團長ノ指揮下ニ在ラシメ且裝甲單車各二ヲ二月十五日以降錦州ニ於テ第八師團長ノ、吉林ニ於テ鐵道聯隊長ノ指揮下ニ入ラシムベシ

二 第十四師團長ハ其ノ隸下及指揮下部隊ヨリ歩兵約一大隊及砲兵約二中隊ヲ二月二十一日迄ニ鄭家屯附近ニ派遣シ第六師團長ノ指揮下ニ、工兵約一中隊ヲ二月二十二日迄ニ綏中附近ニ派遣シ混成第十四旅團長ノ指揮下ニ、輜重兵中隊ヲ二月十六日以後四平街ニ於テ兵站監事務取扱ノ指揮下ニ又裝甲單車三ヲ二月十五日迄ニ鄭家屯ニ派遣シ第六師團長ノ指揮下ニ入ラシムベシ

三 第六師團長ハ其ノ隸下部隊ヨリ歩兵約二大隊ヲ二月二十一日以降奉天ニ於テ兵站監事務取扱ノ指揮下ニ入ラシムベシ

四 混成第十四旅團長ハ自今第八師團長ノ指揮下ニ入ルベシ

但シ歩兵約一大隊ヲ二月十六日以後奉天ニ於テ兵站監事務取扱ノ指揮下ニ入ラシムベシ

五 騎兵第一旅團長ハ其ノ隸下部隊ヨリ騎砲兵中隊一小隊及自動車班ヲ二月二十日迄ニ通遼附近ニ派遣シ騎兵第四旅團長ノ指揮下ニ入ラシムベシ

六 騎兵第四旅團長ハ自今第六師團長ノ指揮下ニ入ルベシ

七 戰車隊ハ其ノ編成完結セバ錦州附近ニ到リ第八師團長ノ指揮下ニ入ルベシ

八 關東軍自動車隊長ハ自動車隊ノ編成完結セバ其ノ一中隊ヲ奉天ニ於テ第六師團長ノ指揮下ニ又其ノ二中隊ヲ二月十九日奉天ニ於テ兵站監事務取扱ノ指揮下ニ入ラシメ其ノ他ノ主力ヲ以テ錦州及綏中附近ニ到リ第八師團長ノ指揮下ニ入ルベシ

但シ右ノ中二中隊ハ別命ナキ限り三月一日以降兵站監事務取扱ノ指揮下ニ入ラシムベシ

九 旅順重砲兵大隊長ハ臨時重砲兵中隊及列車重砲隊ノ編成完結セバ此等ヲ錦州附近ニ派遣シ第八師團長ノ指揮下ニ入ラシムベシ

十 集中竝ニ移動ノ爲ノ鐵道輸送ハ別ニ指示スル所ニ據ルベシ

十一 獨立守備隊司令官ハ秋川歩兵大佐ヲ二月十五日以降第八師團ニ配屬スベシ

十二 憲兵隊司令官ハ二月二十日以降所要ノ憲兵ヲ第六、第八師團及兵站監事務取扱ニ配屬スベシ

十三 二月十五日以降松室騎兵大佐ヲ第六師團ニ又吉岡參謀ヲ作戰開始後所要ノ期間第八師團ニ配屬ス

關東軍司令官 武藤 大將

下達法

6D、8D長ニハ全文電報、10D、14D、獨守司、14MB、1KB、4KB、戰車隊、自動車隊、重砲兵大隊長及松室大佐ニハ關係ノ項ノミ電報、吉岡參謀ニハ口達

松室大佐及吉岡參謀ヲ除ク受領者全部ニ印刷交付

二月十七日軍司令官ハ作戰ノ機熟セリト爲シ作戰行動開始ニ關シ左記軍命令ヲ下達セリ

作戰行動開始ノ軍命令ニ對シテ示達ニ訓

軍隊區分

第六師團

缺如部隊

歩兵約二大隊

配屬部隊

第十四師團ノ歩砲兵各、約一大隊

騎兵第四旅團配屬部隊故ノ如シ

騎兵第十聯隊

關東軍自動車隊ノ一中隊

裝甲列車 二

裝甲單車 三

區處部隊

滿洲國軍隊

洮遼軍司令官張海鵬約一萬二千

暫編第二軍長程國瑞約七千五百

獨立第一旅長李壽山約二千五百

護國游擊軍長劉桂棠約一萬

第八師團

配屬部隊

混成第十四旅團歩兵約一大隊欠、工兵第十四大隊ノ約一中隊屬

臨時派遣第一戰車隊

臨時重砲兵中隊

第一節 作戰準備ニ關スル關東軍司令部ノ處置



列車重砲兵隊

裝甲列車 三

裝甲單車 八

關東軍自動車隊 五中隊欠但シ三月二日迄ハ三中隊欠

區處部隊

救國游擊軍 長丁強約六千

警備區域内ニ於ケル滿洲國軍隊

軍直轄部隊

混成第三十三旅團

關東軍飛行隊

關東軍電信隊

鐵道第一聯隊ノ主力

臨時鐵道線區司令部

軍兵站部 第六章兵站ノ狀況ニ記述ス(第六〇三頁參照)

關作命第四七三號

關東軍命令 二月十七日午前九時於新京軍司令部

一 熱河省内及北支方面ニ於ケル反滿抗日勢力ノ狀況別紙ノ如シ 註、附圖第二參照

二 軍ハ速カニ熱河省内ニ於ケル此等反抗勢力ヲ擊滅セントス

三 第六師團長ハ主力ヲ以テ二月二十三日打通鐵道沿線附近出發開魯、綏東、阜新附近ニ於テ所在ノ兵匪ヲ擊滅シ次デ天山、下窪、朝陽ノ線ニ前進シ敵ヲ西方ニ壓迫シ更ニ赤峰及林西、多倫方面ニ向ヒ作戰シ敵ヲ多倫及北支方面ニ壓迫驅逐スベシ

特ニ兵匪ノ東方省外ニ脱逸スルヲ防止シ且擔任區域内後方交通ハ自ラ之ヲ確保スベシ  
又有力ナル一部ヲ以テ同二十三日朝陽寺附近出發北票鐵道方面ヨリ朝陽、建平附近ヲ經テ赤峰方面ニ作戰シ且北票、朝陽間輕便鐵道ノ敷設並ニ北票、赤峰間兵站線ノ掩護ニ任ズベシ

四 第八師團長ハ一部ヲ以テ二月二十三日行動ヲ開始シ急遽北票附近ヲ占領シ北票鐵道ノ修理ヲ掩護スベシ之ガ爲右行動間同方面ニ作戰スル第六師團ノ部隊ヲ統一指揮スベシ  
又有力ナル一部ヲ以テ繞陽河 錦州、北票間ノ鐵道ヲ含ム 以西奉天省内ノ警備特ニ後方交通ノ確保ニ任ジ且山海關及九門附近ノ守備ヲ嚴ニシ軍主力ノ側背ヲ掩護スベシ

爾餘ノ主力ヲ以テ概ネ二縱隊トナリ二月二十七日北票附近及綏中西北方熱河省境附近出發成ルベク速カニ凌源附近及其ノ以南ニ互ル線ニ進出シ且機ヲ失セズ其ノ一部ヲ以テ界嶺口、冷口、喜峰

口等長城ノ重要關門ヲ確保シテ軍主力ノ翼側ヲ掩護シ爾後主力ヲ以テ承德及古北口ヲ占領シ續イテ熱河省内所在ノ兵匪ヲ勦蕩スベシ

別ニ有力ナル一部ヲ以テ朝陽<sup>合マ</sup>、太平房、凌源、平泉間ノ兵站線ヲ掩護シ又各一部ヲ以テ羅文峪、馬蘭關等ノ各重要關門ヲ確保スベシ

五 兩師團作戰地域ノ境界ハ熱河省東端泡子ヨリ朝陽寺ニ至ル省境、朝陽寺、朝陽、馬連圖、張三營ヲ連スル線<sup>線上ハ第六師團ニ合ムトス</sup>

別命ナキ限り長城ヲ越エテ河北省内ニ作戰スベカラズ

六 獨立守備隊司令官ハ第八師團長錦州附近出發後本命令四ノ第二項ニ示ス奉天省内第八師團警備及守備部隊ヲ併セ指揮シ同項ノ任務ヲ繼承スベシ

七 混成第三十三旅團長ハ奉天附近ニ到着セバ一部ヲ以テ奉天鐵道、繞陽河<sup>合マ</sup>以西ノ重要鐵道橋ヲ確保シ主力ヲ以テ適時前進シ得ルノ態勢ニ在ルベシ

八 關東軍飛行隊長ハ一部ヲ以テ第六師團ノ作戰ニ、主力ヲ以テ第八師團ノ作戰ニ協力スベシ

九 鐵道第一聯隊長ハ前項北票附近作戰部隊ノ行動ニ伴ヒ成ルベク速カニ北票鐵道ヲ修理シ且北票、朝陽間ノ輕便鐵道ノ敷設竝ニ之ガ運行ニ任ズベシ

十 關東軍電信隊及臨時鐵道線區司令部ノ行動ニ關シテハ別命ス

十一 軍兵站部ハ錦州—北票—朝陽—建平—赤峰道及朝陽—太平房—凌源—平泉道ニ沿ヒ兵站線ヲ施設シテ兵站業務ニ任ズベシ

十二 予ハ新京ニ在リ三月初頭錦州ニ到ル

關東軍司令官 武藤 大將

下達法

6D、8Dニハ軍幕僚ヲシテ傳達、<sup>33MB</sup>電信隊、鐵道聯隊、線區司令部、獨守司、飛行隊、兵站監事務取扱ニハ印刷交付又ハ送付

軍司令官ハ長城線ヲ越エテ作戰スベカラザルコトニ關シテハ前記命令ニ於テ之ヲ示シタル所ナルモ中央部ノ意圖ニ基キ二月十九日重ネテ左ノ内訓ヲ示シ隸下一般ニ對シ戒ムル所アリタリ

内訓

熱河經路ハ純乎タル滿洲國國內問題ニシテ對支戰爭ニアラズ熱河經路ヲ直接動因トシテ我ヨリ求メテ對支戰爭ヲ惹起スルハ國策トシテ之ヲ採ラザル所ナリ

關作命第四七三號ニ於テ別命ナキ限り長城ヲ越エテ河北省内ニ作戰スベカラザルヲ示シアル所以亦茲ニ存ス

諸官宜シク隸下及指揮下諸團隊ニ嚴達シ熱河省ハ滿洲國領域ニシテ軍ノ自由ニ行動シ得ベキ疆域ナルモ長城ヲ隔ツル河北省ハ中華民國ノ領域ニシテ大命アルニアラザレバ軍トシテハ作戰行動ヲ許サレザルノ地域タルヲ辨ヘ局地ノ狀況若クハ戰術的利害等ニ眩惑シ大局ヲ誤リ國策ニ反スルガ如キ行動ヲ戒ムベク遺憾ナキヲ期スベシ

(特ニ山海關方面ノ守備隊ハ更ニ注意ヲ倍蕪シ越軌ノ行動アルベカラズ)

右ニ關シ

大元帥陛下御軫念遊バサルルヲ拜聞シ恐懼重ネテ訓示ス

昭和八年二月十九日

關東軍司令官 武 藤 信 義

軍豫備ノ使用

當時混成第三十三旅團ハ軍豫備トシテ奉天附近ニ集結シアリシガ軍司令官ハ二十三日迄ニ得タル情報ヲ綜合シ張學良ハ日本軍ガ長城ヲ越エテ前進スルコトナシト判斷シテ關内ニ在ル有力ナル部隊ヲ熱河省内ニ進メツツアルコトヲ知り之ヲ山海關方面ヨリ牽制スルノ必要ヲ認メ且滿洲國全般ノ情勢ハ軍豫備ノ使用上特ニ顧慮スベキモノナキニ鑑ミ二十四日午前九時軍命令ヲ下達シ主力ヲ以テ綏中附近ニ兵力ヲ集結シ主トシテ冷口<sup>合</sup>以東ニ於ケル長城ノ關門及乾溝鎮方面ノ敵ニ對シ行動シ得ルノ態勢ニ在ラシムル如ク部署セリ

### 第二節 作戰經過ノ概要

附圖第四、第五、第六、第七参照

熱河省北部方面ノ狀況

第六師團長ハ軍命令ニ基キ松田少將ノ指揮スル步兵第十一旅團ヲ基幹トスル部隊ヲ左縱隊ト爲シ鐵道輸送ヲ以テ朝陽寺方面ニ前進シ第八師團ト共ニ北票附近ノ敵ヲ攻撃シ爾後朝陽、建平附近ヲ經テ赤峰方面ニ作戰セシメ爾餘ノ主力ハ數縱隊トナリ右ヨリ騎兵旅團<sup>茂木少將ノ指揮スル、騎兵第四旅團基幹</sup>、右縱隊<sup>高田少將ノ指揮、中央縱隊<sup>騎兵第六聯隊長神代中佐ノ指揮スル歩、騎、砲、工兵部隊</sup>、左縱隊<sup>榎好榎<sup>榎好榎</sup>西方約五十軒</sup>、下窪ノ線ニ前進シ次デ騎兵旅團ハ梧桐好榎<sup>下窪西北方、約四十五軒</sup>馬蓮廠<sup>梧桐好榎西南、西方約五十軒</sup>ヲ經テ、右縱隊<sup>中央縱隊<sup>榎好榎</sup>ハ五十家子<sup>下窪西南方約四十軒</sup>ヲ經テ赤峰ニ向ヒ前進シ各縱隊相連繫シテ赤峰附近ノ敵ヲ包圍殲滅スル如ク部署セリ</sup></sup>

左縱隊ハ軍命令ニ依リ一時第八師團長ノ指揮ヲ以テ第八師團ノ一部ト共ニ二月二十五日朝陽ヲ占領シ三月一日同地附近出發赤峰ニ向ヒ前進ヲ開始シ二日老虎山<sup>朝陽西北方、約四十軒</sup>附近、四日黑水<sup>老虎山西北方、約四十軒</sup>附近ニ於テ何レモ陣地ヲ占領セル優勢ナル敵ヲ擊破シ五日夜十二時赤峰ニ到着シ第六師團長ノ隸下ニ復歸セリ

騎兵第四旅團ハ小柳津支隊<sup>騎兵第二十六聯隊<sup>騎兵第二中隊基幹</sup>ヲシテ洮遼軍ノ來著ヲ待ツテ林西方面ニ前進セシムル爲開魯ニ殘置シ又同地ニ於ケル調査ノ結果ニ基キ主力ノ進路ヲ開魯—八仙洞<sup>別名大泌塔拉又ハハセコト、開魯西南方約五十五軒</sup>—下窪道</sup>

ニ變更シ八仙洞附近ヨリ右縦隊ニ屬スル騎兵第十聯隊ト合シテ之ヲ區處シ、二十六日夕ニハ下窪ヲ攻略シ爾後潰走スル敵ヲ蹂躪シツツ急進ヲ續ケ三月一日夕赤峰東方高地ニ達ス然ルニ同高地ニハ優勢ナル敵兵陣地ヲ占領シアリシヲ以テ旅團ハ直チニ攻撃ヲ開始シ一晝夜ニ互ル激戰ノ後遂ニ之ヲ擊破シテ二日午後赤峰ヲ占領セリ

右縦隊ハ一部ヲ快速部隊步兵第四十五聯隊第三大隊(池田大隊)トシテ自動車ニ依リ先遣シ主力ハ之ニ續行ス快速部隊ハ所在ニ敵ヲ擊破シツツ二十八日下窪ニ到著ス縦隊主力ハ二十四日夜ノ行軍ニ於テ多數ノ凍傷患者ヲ發生セシガ依然豫定計畫ヲ變更スルコトナク前進ヲ續行シ三月一日下窪ニ到著セリ

右縦隊長ハ三月一日下窪ニ於テ師團命令ニ依リ『中央縦隊、池田大隊及自動車中隊ヲ其ノ指揮ニ復シ且成ルベク速カニ下窪出發、五十家子下窪西南方、約九十軒、小河沿ヲ經テ赤峰ニ向ヒ敵ヲ急追シ速カニ赤峰ヲ占領スベキ』任務ヲ受領シ主力ハ野砲兵第六聯隊長ヲシテ指揮セシメ自ラ新ニ步兵第二十三聯隊主力ヲ以テ編成セル快速部隊ト共ニ二日早朝下窪出發赤峰ニ向ヒ敵ヲ急追シ同日夜半赤峰ニ入城セリ

中央縦隊ハ二十三日騎兵第六聯隊ヲ以テ馮家窩棚彰武北方、約二十軒ヲ、步、砲、工兵部隊ヲ以テ彰武ヲ各々出發ス

騎兵部隊ハ二十八日下窪ニ到著セシガ縦隊主力ハ第一日ノ行軍ニ於テ激烈ナル吹雪ト寒氣トニ遭遇シ多數ノ凍傷患者發生セシヲ以テ在彰武鐵道掩護隊並ニ師團衛生班ノ救援ヲ受ケ患者ノ治療並ニ後送等

ノ爲哈拉套街彰武西北方、約四十軒ニ於テ二日間滞在ノ止ムナキニ至リ爾後再ビ前進ヲ續行セシモ患者多數ヲ連行セル爲行軍意ノ如クナラズ三月三日漸ク下窪ニ到著スルヲ得タリ

師團長ハ三月三日赤峰ニ於テ『有力ナル一部ヲ糧捕府赤峰西南方、約八十軒、隆化糧捕府西南方、約八十軒方面ニ派遣シ第八師團主力ノ承德方面ニ對スル作戰ニ策應スベキ』軍命令(關作命第四七九號、第四〇頁參照)ニ接シ直チニ高田支隊長步兵第三十六旅團長高田少將、赤峰先遣隊及池田部隊及騎兵第四旅團主力ヲ該方面ニ派遣セリ

高田支隊ハ三月五日朝陽地糧捕府北方、東方約十軒附近ヲ占據セル頑強ナル敵ニ對シ苦戰ノ後翌六日拂曉之ヲ擊退シ同日糧捕府ヲ占領セリ

是ヨリ先四日夕師團長ハ『師團ハ熱河省北部ヲ警備シテ治安維持ニ任ズベキ』軍命令ヲ受領セシヲ以テ六日騎兵旅團及高田支隊ニ對シ圍場(錐子山)方面ニ敗退セル孫殿英部隊ヲ驅逐シ赤峰ニ歸還スベキヲ命ゼリ

騎兵第四旅團ハ三月七、八兩日ニ互リ廣道河糧捕府西南西、方約二十軒附近ヲ占領セル優勢ナル敵ヲ力戰ノ後擊破シテ卡倫廣道河西、方約三軒附近ニ進出セシガ九日敵ノ一部辺牆山卡倫西南、方約六軒ヲ占領シアルヲ知り折柄來著セル高田支隊ト共ニ攻撃準備中敵兵退却セシヲ以テ直チニ追擊ニ移リ高田支隊ハ同地ノ掃蕩ヲ行ヒタル後糧捕府ヲ經テ赤峰ニ歸還ス

騎兵旅團ハ更ニ前進ヲ續行シ十一日錐山溝廣道河南方、約二十軒附近ニ於テ退却中ノ敵ト遭遇シテ之ヲ驅逐シタル

後歸途ニ就キ十四日赤峰ニ到着セリ

第六師團ハ爾後軍命令ニ基キ熱河省北部方面ノ警備ニ任ズルト共ニ作戰計畫ニ基キ多倫方面ニ對スル作戰ヲ準備中ナリシガ三月下旬長城線方面ニ轉用セララルニ至レリ

滿洲國軍ノ狀況

張海鵬ノ率キル滿洲國軍隊ハ二月上旬以來編成裝備ノ改編及出動準備ニ努力シツツアリシガ三月一日ヨリ逐次通遼附近ニ集結シ一部ハ我ガ騎兵旅團ノ小柳津支隊ノ指導ノ下ニ二日開魯出發林西ニ向ヒ其ノ他ノ主力ハ六日以後逐次開魯ヲ出發シテ赤峰ニ向ヒ前進セリ

熱河省南部方面ノ狀況

第八師團長ハ二月十八日命令ヲ下達シ步兵第四旅團長鈴木少將ノ指揮スル先遣隊ヲ以テ先ヅ北票ヲ、續イテ朝陽ヲ占領セシメ混成第十四旅團ヲ以テ二月二十六日迄ニ白石嘴邊門、綏中間ノ地區ニ集結シ凌源方向ニ向フ行動ヲ準備セシメ爾餘ノ主力ハ二十六日迄ニ朝陽附近ヨリ義州ニ互ル間ニ集結シ爾後ノ行動ヲ準備スベク部署セリ

然ルニ師團長ハ十九日午後一時頃『南嶺義州西北方約三十二軒隧道方向ニ爆音ヲ聞ク』トノ報告ニ接シ猶豫セバ北

票鐵道ノ術工物ヲ根柢ヨリ破壊セラレンコトヲ恐レ軍司令官ノ承認ヲ經テ先遣隊ニ出動ヲ命令セリ

以下附圖第七參照

先遣隊長ハ前記命令ニ基キ早川支隊步兵第三十一聯隊長大佐早川止ノ指揮スル同聯隊主力ヲ先遣シ先ヅ北票ヲ占領セシメ二十四日夕第

六師團左縱隊ヲ併セ指揮シ朝陽東方及北方高地ニ於ケル既設陣地ニ據レル敵ヲ擊破シテ二十五日正午

頃朝陽ヲ占領セリ

二十八日第八師團長ハ朝陽ニ於テ步兵第十六旅團長川原少將ノ指揮スル挺進隊ヲシテ速カニ平泉附近

ニ進出シ敵ノ退路ヲ遮斷セシメ騎兵隊ヲシテ葉柏壽附近ニ於ケル挺進隊ノ戰鬪ニ協力シタル後凌源附

近ニ前進セシメ師團主力ハ先ヅ凌源ニ向ヒ前進スル如ク部署ス

川原挺進隊ハ關東軍自動車隊ノ自動車ニ分乘シ暗雲低ク垂レ湖風厲ニ徹スル三月一日早曉朝陽ヲ發シ

朝陽—凌源—平泉道ヲ急進シ同日午後葉柏壽附近ニ於テ頑強ニ抵抗スル敵ヲ奮戰ノ後擊破シ翌二日綏

中方面ヨリ前進セル混成第十四旅團ノ米山先遣隊ト共ニ凌源ヲ奪取シ更ニ敵ノ大縱隊ニ追及シテ之ヲ

潰走セシメ敗走スル敵ヲ突破蹂躪シツツ急進ヲ續ケ三日午前一時三十分降雪ヲ冒シテ平泉ヲ占領シ同

地ニ兵力ヲ集結セリ

挺進隊ハ三日午後再ビ自動車追撃ニ移リ微弱ナル敵ノ抵抗ヲ排除シツツ前進シ四日天朝山承德東方約十軒附近

ニ於テ數百ノ敵ヲ擊破シテ遂ニ熱河省城承德ヲ占據シ一部ヲ更ニ灤平承德西方約十五軒附近ニ派遣シ主力ヲ以テ

承德ノ治安維持ニ任ジ且爾後ノ前進ヲ準備セリ

混成第十四旅團ハ第八師團命令ニ基キ二月二十六日綏中ヲ發シ主力ヲ以テ熱河省境白石嘴邊門附近ニ

進出シテ二十八日拂曉ヨリ沙帽山白石嘴邊門西北方約十軒附近ノ敵陣地ヲ攻撃ス

敵ハ地形ノ險ニ據リ衆ヲ恃ミ防戰是勉メタルモ旅團ノ猛攻ニ敵スベクモアラズ午前十時三十分頃全線

退却ニ移レリ是ニ於テ旅團長ハ步兵第二十八聯隊大隊長米山少佐ノ指揮スル部隊ヲ米山先遣隊ト爲シ

第二章 熱河省内ニ於ケル支那軍掃蕩戰ノ概要

自動車ニ依リ直チニ凌源ヲ經テ冷口ニ向ヒ急追セシム

米山先遣隊ハ前進後間モナク野雞溝沙帽山西方 約十六軒附近ニ於テ堅固ナル敵陣地ヲ攻撃シ翌三月一日之ヲ拔キ

二日哈叭嶺凌源東南方 約十二軒ノ敵ヲ一蹴シ午前十一時二十分頃川原挺進隊ト共ニ凌源ヲ占領シ引續キ冷口街道

ヲ冷口ニ向ヒ急進シ高家店凌源南方 約二十軒附近ニ於テ長蛇ノ如キ敵ノ大縱隊ヲ蹂躪シ更ニ拉拉嶺冷口北方、車廠

嶺拉拉嶺南、車廠嶺南 方約十軒駱駝嶺車廠嶺南 方約十軒ノ險ヲ突破シテ四日午後零時二十分遂ニ冷口關門ヲ占領セリ

是ヨリ先旅團長ハ步兵第二十五聯隊第二大隊長鯉江少佐ノ指揮スル一支隊鯉江支隊 稱スヲ界嶺口關門占領ノ

爲派遣セシガ同支隊ハ三月四日喇嘛洞沙帽山西方 約三十軒附近ニ於テ優勢ナル敵ト衝突シ奮戰ノ後六日遂ニ之ヲ

擊破シ旅團主力ノ進路ニ向ヒ轉進セリ

旅團主力ハ四日茶棚凌源南方 約三十軒ニ達シ宿營ス

以上ノ如ク三月二日相前後シテ凌源ニ入りシ川原挺進隊ト米山先遣隊トハ夫々優勢ナル敵ヲ擊破シツ

ツ四日正午頃殆ド時刻ヲ同ジウシテ承德及冷口ヲ夫々占領シ又同日第八師團主力ハ凌源ニ、混成第十

四旅團主力ハ茶棚ニ各々集結セリ

軍司令官ハ赤峰及凌源ノ占領目眩ニ迫レルヲ察知スルヤ爾後ニ於ケル各兵團ノ行動ヲ指導スルノ必要

ヲ認メ三月二日左記要旨ノ軍命令ヲ下達セリ

軍司令官ノ處置

軍命令關作命第 四七九號ノ要旨

一 各方面ノ狀況有利ニ進展シツツアリ

二 第六師團長ハ赤峰占領後少クモ有力ナル一部ヲ以テ圍場錫子山一帶、 含ム縣名、隆化方面ニ作戰シ第八師團

主力ノ承德方面ニ對スル作戰ニ策應セシムベシ

三 混成第三十三旅團長ハ熱河省内東南部ニ作戰シ所在ノ敵ヲ擊破シテ清河沿含ム、喜峰口東 南方約三十軒以東ニ

於ケル長城ノ重要關門九門及山海 關ヲ除クヲ確保シ第八師團ノ作戰ヲ容易ナラシムベシ

同旅團在錦州控置部隊及奉山鐵道守備ノ爲殘置セル部隊ハ三月四日以降任意之ヲ使用スルコトヲ

得自今救國游擊軍ヲ區處スベシ

四 第八師團ノ任務中關作命第四七三號ニ依ル界嶺口、冷口等混成第三十三旅團作戰地域内ニ於ケ

ル長城ノ重要關門ヲ確保スベキ件ハ混成第三十三旅團ノ行動開始ト共ニ之ヲ解除ス

五 第八師團ト混成第三十三旅團トノ作戰地域ノ境界ハ九門、白石嘴邊門綏中西北方 約三十五軒ノ省境、白石

嘴邊門、北章營子白石嘴邊門西、 北方約三十軒、都山北章營子西、 南方約百軒、太平寨都山西南方 約三十五軒ヲ連スル線線上ハ混成第三 十三旅團ニ含ムトス

六 關東軍飛行隊ハ一部ヲ以テ混成第三十三旅團ノ作戰ニ協力スベシ

七 關東軍兵站部ハ爾後直接混成第三十三旅團ノ補給ヲ擔任スベシ

附記 前記命令ハ時機既ニ遅ク混成第十四旅團米山先遣隊ハ此ノ日正午凌源ニ進入シ午後冷口ニ向ヒ前進セリ

三月三日軍司令官ハ錦州戰團司令所ニ前進シ翌四日長城線ノ確保後ニ於ケル諸隊ノ行動ヲ指示スルノ

必要ヲ認メ左記要旨ノ命令ヲ下達セリ

關作命第四八〇號

關東軍命令(要旨) 三月四日午前十時  
於錦州軍司令部

一 熱河省内主要反抗勢力ハ概ネ頽勢ニ陥リ西方及西南方ニ潰走中ナリ

二 軍ハ速カニ長城ノ重要諸關門ヲ確保シテ北支方面ニ對シ戰備ヲ整フルト共ニ熱河省内ニ於ケル敗竄兵賊ヲ掃蕩シテ治安ヲ恢復セントス

三 熱河省内ニ於ケル第六及第八師團ノ警備區域ヲ左ノ如ク定ム

第六師團 昭烏達盟

第八師團 卓索圖盟及熱河蒙古地域

四 第六師團長ハ赤峰、建平、全寧、林西、林東、天山、經棚 林西西方、開魯、魯北等師團警備區域内ノ諸要地ニ所要ノ兵力ヲ配置シ殘敵ヲ掃蕩シテ治安ノ維持ニ勉ムベシ

北票、朝陽間輕便鐵道ノ敷設並ニ第八師團警備區域内北票、赤峰間兵站線掩護ニ關シテハ第八師團部隊ノ到着迄依然之ニ任ズベシ

警備ニ關シ師團警備區域内ニ在ル滿洲國軍隊ヲ區處スルコトヲ得

五 第八師團長ハ速カニ長城ノ重要諸關門ヲ確保シテ北支方面ニ對シ戰備ヲ整フルト共ニ承德、豊

寧、隆化、圍場(錐子山)、糧捕府、平泉、凌源、朝陽、北票、阜新、蟒牛營子(凌南) 北票營子西、乾溝鎮等師團警備區域内ノ諸要地ニ所要ノ兵力ヲ配置シ殘敵ヲ掃蕩シテ治安ノ維持ニ勉ムベシ

混成第三十三旅團ヲ其ノ指揮下ニ入ル又警備ニ關シ師團警備區域内ニ在ル滿洲國軍隊ヲ區處スルコトヲ得

六 關東軍飛行隊長ハ現任務ヲ續行スルノ外一中隊ヲ赤峰ニ、偵察戰團各一中隊ヲ承德ニ推進シ得ル如ク準備スベシ

七 予ハ依然錦州軍司令部ニ在リ

關東軍司令官 武藤 大將

皇軍一度起ツヤ疾風枯葉ヲ卷クガ如ク一舉ニ熱河省内ノ支那軍ヲ掃蕩シ承德、赤峰ヲ拔キ第八師團ノ諸隊ハ更ニ長城線主要關門ニ逼リ茲ニ本作戰ハ一段落ヲ告グントスルニ至リタルヲ以テ軍司令官ハ三月四日隸下將兵ニ對シ訓示 附錄第五參照 ヲ與ヘ越エテ十一日錦州ヲ發シ新京軍司令部ニ歸還セリ

然ルニ平津地方ニ集中セル中央軍ハ舉ゲテ長城線ニ殺到シ其ノ抵抗意外ニ頑強ニシテ各所ニ於テ激烈ナル戰鬪開始セララルニ至レリ

長城方面ノ狀況

軍司令官ハ之ガ爲混成第三十三旅團及第六師團ノ一部ヲ第八師團長ノ指揮下ニ入ラシメシガ更ニ三月下旬ニ至リ遂ニ第六師團ノ主力ヲ長城線方向ニ轉用スルノ止ムナキニ至リ茲ニ戰局ハ「萬里ノ長城附

近ノ作戰」ニ推移セリ

### 第三章 熱河省北部方面ノ作戰

#### 第一節 作戰準備附圖第四、第五參照

##### 第一款 第六師團ノ作戰準備附圖第三、第四、第五參照

第六師團ハ昭和七年十二月渡滿直後熱河作戰ニ參加スベキ内示ヲ受ケシモ爾後警備勤務主力ヲ以テ吉林省南部及奉天省東北部ノ警備ニ任ジ一部ハ三角地帯、部隊ノ移動等ノ爲忙殺セラレ準備意ノ如ク進捗セズ而モ作戰開始時期ハ若干及哈爾濱方面ノ討伐ニ參加セリ

線上ゲラルベキ情勢ナリシヲ以テ昭和八年一月二十三日參謀長通牒ヲ以テ各隊ノ準備ヲ督促スル所アリ越エテ同二十八日熱河作戰ニ關スル軍司令官ノ訓示竝ニ準備命令關作命第四六六號(第六頁參照)ヲ受領スルヤ之ニ基キ本格的準備ヲ開始スルニ至レリ

師團ノ作戰準備ニ關スル主ナル事項左ノ如シ

特ニ著意セル事項

熱河作戰ノ特質ニ鑑ミ特ニ著意セル事項

- 一 宿營力竝ニ地方物資貧弱ナル沙漠及山間ノ僻地ニ於テ作戰スル爲糧秣特ニ人糧ハ之ヲ携行又ハ追送ニ依ルモノトシ馬糧ノ一部ハ現地物資ニ依リ得ルモノト判斷ス
- 二 道路不良且僅少ニシテ而モ四百軒以上ノ長距離ニ互ルヲ以テ輸送機關膨大トナリ部隊ノ行動ニ追隨セシメ難ク加フルニ沙漠地ノ特性上飲馬水ヲ求ムルコト至難ナルヲ以テ馬匹ノ連行ヲ極小ナ



情報収集  
並ニ地形  
偵察

- 一 情報収集所ノ設置
- 二 二月五日中蘭砲兵中佐ヲ長トスル情報収集所ヲ通遼ニ設ケ且挺身從軍ヲ熱望セシ滿洲在住日本人ノ請ヲ容レテ之ニ配屬シ又別ニ二月十五日糸井騎兵少佐ヲ長トスル情報収集所ヲ彰武ニ設置シ熱河省内ノ諸情報ヲ收集セリ
- 三 本作戰ノ特質ニ鑑ミ部隊ノ行動ハ最モ神速ニシテ一舉赤峰ニ向ヒ長驅シ得ルコト
- 四 部隊ノ行軍力ヲ減殺セザル爲防寒被服ノ携行ヲ制限ス

- 一 情報収集所ノ設置
- 二 二月五日中蘭砲兵中佐ヲ長トスル情報収集所ヲ通遼ニ設ケ且挺身從軍ヲ熱望セシ滿洲在住日本人ノ請ヲ容レテ之ニ配屬シ又別ニ二月十五日糸井騎兵少佐ヲ長トスル情報収集所ヲ彰武ニ設置シ熱河省内ノ諸情報ヲ收集セリ
- 附記 前記日本人ハ井上權藏、隈部廣泰、鳥井讓吉、後藤末人、富永末記ノ五名ニシテ何レモ少壯時蒙古留學生トシテ熊本縣ヨリ派遣セラレ主トシテ赤峰ニ在リテ該方面ヲ踏査シ滿蒙事情研究ニ從事シアリシ者ニシテ中蘭情報収集所所員トシテ活躍シ師團ノ前進ニ伴ヒ道案内、通譯、物資收集等ニ從事シ作戰行動ニ多大ノ便宜ヲ與ヘタリ
- 二 飛行機ニ依ル地形偵察

- 1 昭和八年一月三十一日鈴木參謀及中蘭砲兵中佐ヲシテ軍幕僚ト共ニ新京—通遼—開魯—赤峰—朝陽道ニ沿フ地區ヲ偵察セシム
- 2 二月十二日鈴木參謀ヲシテ彰武、綏東方面ヲ偵察セシム

作戰準備  
命令ノ下  
達

- 3 二月十八日鈴木參謀及各隊將校ノ一部ヲシテ彰武、綏東、下窪、朝陽、北票、阜新、新立屯ノ各地ニ沿フ地區ヲ偵察セシム

六師作命甲第二八號

第六師團命令 二月四日午前十時  
於奉天師團司令部

- 一 次期作戰準備ノ爲諸隊ノ警備區域ヲ左ノ如ク變更セララル
- 第十師團 吉林省ノ全部及黑龍江省ノ一部境界故
- 第十四師團 故ノ如シ
- 騎兵第一旅團

- 第六師團 新河、遼河及通江口、彰武台門ヲ通ズル長柵竝ニ熱河省境ヲ以テ圍繞スル地區
- 第八師團 繞陽河含マ以西ニ於ケル奉天省ノ一部
- 獨立守備隊 第六、第八及第十四師團ノ擔任區域ヲ除ク奉天省ノ大部

- 二 師團ハ吉林省地域内ノ警備ヲ第十師團ニ、奉天省地域内ノ現警備ヲ獨立守備隊ニ委讓シ師團ノ新警備區域内及奉天、四平街ニ兵力ヲ集結シ新警備區域内ニ於ケル打通鐵道及四鄭註、四平街、鄭家屯間通鐵道ノ交通ヲ確保スルト共ニ熱河省兵匪ノ東方脱逸ヲ防止シ且西方ニ向ツテスル爾後ノ前進ヲ

準備セントス

- 三 歩兵第四十五聯隊第二大隊ハ二月七日奉天出發二月八日中ニ四鄭、鄭通鐵道ノ警備ヲ獨立守備隊及騎兵第四旅團部隊ト交代シ爾後該鐵道ノ交通確保及附近ノ警備ニ任ズベシ
- 交代ニ際シ獨立守備隊ヨリ第十三裝甲列車ヲ鄭家屯ニ於テ繼承スベシ
- 四 吉林方面警備隊葛城部隊ヲ含ムハ二月十六日迄ニ第十師團ノ部隊ト其ノ警備ヲ交代シ爾後左ノ如ク行動スベシ

尙交代ニ際シ其ノ隸下裝甲列車三及裝甲單車七ヲ第十師團長ノ指揮下ニ入ラシムベシ

- 1 歩兵第十一旅團第四十七聯隊欠、野砲兵第一大隊(第二中隊欠)及工兵一小隊屬ハ二月十九日中ニ師團新警備區域内、伊胡塔通遼南方約六十軒以南打通鐵道ノ警備ヲ騎兵第四旅團ト交代シ爾後其ノ交通ヲ確保スルト共ニ熱河省内兵匪ノ東方脱逸ヲ防止シ且西方ニ向ツテスル爾後ノ前進ヲ準備スベシ歩兵第十三聯隊ノ第三、第十中隊及工兵小隊ハ二月二十日彰武ニ於テ其ノ指揮下ニ入ラシム
- 2 歩兵第四十七聯隊ハ二月十九日迄ニ奉天ニ移駐シ二月二十五日以後軍司令官ノ直轄タルベシ

- 五 瀋海鐵道沿線警備隊ハ二月十九日迄ニ獨立守備隊ト其ノ警備ヲ交代シ爾後左ノ如ク行動スベシ

交代ニ際シ其ノ隸下裝甲列車一ヲ獨立守備隊司令官ノ指揮下ニ入ラシムベシ

- 1 歩兵第三十六旅團第二十三聯隊欠、騎兵第六聯隊、野砲兵第二中隊及工兵中隊(一小隊欠)屬ハ二月二十二日迄ニ鄭通、四鄭鐵道全線及伊胡塔合マ以北打通鐵道上ノ要點ニ兵力ヲ配置シテ其ノ交通ヲ確保スルト共ニ熱河省内兵匪ノ東方脱逸ヲ防止シ且西方ニ向ツテスル爾後ノ前進ヲ準備スベシ
- 歩兵第四十五聯隊第二大隊、騎兵第六聯隊及工兵中隊一小隊欠ハ旅團長新警備地ニ到着ト共ニ其ノ指揮下ニ入ラシム
- 2 歩兵第二十三聯隊ノ一小隊ハ二月二十日山城鎮瀋海鐵道上奉天東北東方約百八十軒ニ於テ所屬聯隊長ノ隸下ニ復歸セシムベシ

六 歩兵兩旅團ノ警戒搜索ノ地境ヲ左ノ如ク定ム

遼陽窩棚鄭家屯南方約五十五軒—博王府遼陽窩棚西北西方約五十軒—伊胡塔打通鐵道上ノ驛—「パスハ」伊胡塔西南西方約六十軒—下窪「パスハ」西南西方約九十軒

連ナル線トシ線上ハ左旅團ニ屬ス

- 七 通化奉天東方約二百軒方面警備隊及三角地帶警備隊ハ二月十六日迄ニ其ノ警備ヲ獨立守備隊ト交代シ二月二十二日迄ニ四平街ニ兵力ヲ集結シ師團長ノ直轄タルベシ
- 八 奉天警備隊ハ左ノ如ク行動スベシ

- 1 騎兵第六聯隊ハ二月十七日奉天出發通遼ニ到リ歩兵第三十六旅團長ノ指揮下ニ入ルベシ

- 2 野砲兵第二大隊及輸送監視隊ハ二月十七日奉天出發遼源(鄭家屯)ニ到リ師團長ノ直轄タルベシ
- 3 奉天警備隊ハ二月十八日獨立守備隊ト奉天ノ警備ヲ交代スベシ
- 4 歩兵第十三聯隊第三、第十中隊ハ二月十九日奉天出發彰武ニ到リ歩兵第十一旅團長ノ隷下ニ復歸スベシ
- 5 工兵中隊ハ二月十九日奉天出發一小隊ハ彰武ニ到リ歩兵第十一旅團長ノ指揮下ニ、他ノ主力ハ通遼ニ到リ歩兵第三十六旅團長ノ指揮下ニ入ルベシ
- 6 野砲兵聯隊本部ハ奉天警備ヲ交代シ二月十九日奉天出發遼源ニ到リ聯隊長ハ該地部下大隊ヲ指揮スベシ
- 9 衛生班第二半部ハ歩兵第十一旅團長ノ區處ニ依リ遼源ニ又衛生班第一半部ハ歩兵第三十六旅團長ノ區處ニ依リ遼源ニ到リ待命スベシ
- 細部ニ關シテハ軍醫部長ヲシテ指示セシム
- 十 各隊ノ鐵道輸送及編成裝備ニ關シテハ別ニ指示ス
- 十一 師團司令部ハ當分ノ間奉天ニ位置ス

第六師團長 坂本 中將

然ルニ師團長ハ十一日部隊ノ轉屬ニ關スル軍命令(關作命第廿七二號(第二五頁參照))ヲ受領セシヲ以テ之ニ伴ヒ前記命令ヲ若干變更スルヲ必要トスルニ至リ十三日更ニ左記命令ヲ下達セリ

六師作命甲第三一號

第六師團命令 二月十三日午後二時  
於奉天師團司令部

- 一 騎兵第四旅團ハ自今予ノ指揮下ニ入ラシメラル  
騎兵第四旅團ハ引續キ第六師團新警備區域内打通鐵道ノ警備ニ任ジ二月二十一日到著スベキ第十四師團ノ歩兵部隊ト打通鐵道ノ警備ヲ交代シ二月二十二日中ニ通遼ニ集結スベシ爾後ノ任務ニ關シテハ別命ス
- 二 騎兵第十聯隊ノ主力ハ二月二十一日迄ニ通遼ニ於テ予ノ指揮下ニ入ラシメラル  
右聯隊通遼到著後ノ行動ニ關シテハ別命ス
- 三 第十四師團ノ歩兵約一大隊ハ二月二十一日迄ニ通遼附近ニ、同砲兵約二中隊ハ二月二十一日迄ニ鐵嶺ニ派遣シ予ノ指揮下ニ入ラシメラル  
右歩兵大隊ハ通遼附近ニ到著セバ直チニ騎兵第四旅團及歩兵第四十五聯隊第二大隊ト鐵道ノ警備ヲ交代シ四鄭、鄭通鐵道及師團警備區域内打通鐵道ノ確保ニ任ズベシ其ノ交代ハ遅クモ二月二十二日午前中ニ完了スルヲ要ス

前記砲兵二中隊ハ鐵嶺ニ位置スベシ其ノ任務ニ就テハ別命ス

四 歩兵第十一旅團現在打通鐵道方面ニ派遣中ノハ六師作命甲第二八號註、第四七頁參照ニ拘ラズ二月十九日乃至二十日迄ニ全部奉天ニ集結シ二月二十一日以降歩兵四中隊ヲ奉天ニ於テ兵站監事務取扱ノ指揮下ニ

入ラシムベシ旅團主力爾後ノ行動ニ關シテハ別命ス

尙第二裝甲列車ハ第十師團部隊ニ引繼ゴトナク成ルベク速カニ之ヲ通遼ニ輸送シ歩兵第四十五聯隊第二大隊ニ交付スベシ

五 歩兵第二十三聯隊第二大隊ハ六師作命甲第二八號ニ拘ラズ其ノ一中隊ヲ二月二十一日以降奉天ニ於テ兵站監事務取扱ノ指揮下ニ入ラシメ其ノ他ノ主力ハ二月二十二日迄ニ彰武ニ集結スベシ爾後ノ行動ニ關シテハ別命ス

六 歩兵第三十六旅團飯田大 隊欠ハ六師作命甲第二八號ニ拘ラズ二月二十二日迄ニ旅團司令部及歩兵第四十五聯隊ヲ通遼ニ、歩兵第二十三聯隊飯田大 隊欠ヲ鄭家屯ニ集結スベシ爾後ノ行動ニ關シテハ別命ス

秋山大隊歩兵第四十五聯隊第二大隊ハ旅團長現地到着ト共ニ其ノ隸下ニ復歸スルモノトス

七 騎兵第六聯隊ハ六師作命甲第二八號ニ拘ラズ師團直轄トシテ二月十八日迄ニ馮家窩堡彰武北方ニ到リ綏東方面ノ狀況搜索ニ任ズベシ

八 野砲兵第六聯隊ハ二月二十一日迄ニ通遼ニ集結スベシ

但シ其ノ大隊ノ現駐地出發ハ六師作命甲第二八號ニ依ルベシ爾後ノ行動ニ關シテハ別命ス

九 工兵中隊ハ六師作命甲第二八號ニ拘ラズ一小隊ヲ奉天ニ殘置シ主力ハ二月十九日奉天出發通遼ニ集結スベシ其ノ任務ニ關シテハ別命ス

十 關東軍自動車隊ノ一中隊及松室騎兵大佐ハ師團ニ配屬セラル其ノ行動及任務ニ關シテハ別命ス

十一 在吉林及山城鎮ノ衛生班ハ六師作命甲第二八號ニ拘ラズ二月二十二日迄ニ通遼ニ到ルベシ爾後ノ行動ハ別命ス

十二 輸送監視隊ハ二月二十二日迄ニ通遼ニ到ルベシ爾後ノ行動ハ別命ス

十三 予ハ司令部ト共ニ二月二十日通遼ニ到ル

第六師團長 坂 本 中 將

下達法

印刷交付

裝備ニ關スル指示事項  
出動ノ爲裝備ニ關シ特ニ指示セル事項左ノ如シ

一 兵器類

1 携行彈藥ノ標準ヲ左ノ如ク定ム

備考	兵種別		砲兵	騎兵	工兵	輜重兵
	小銃	輕機銃				
一 銃(門)宛ノ數量ヲ示ス 二 砲彈ハ榴彈、榴霰彈ノ比ヲ、山砲ニ在リテハ三對二、野砲ニ在リテハ二對三トス 三 本項ニ示ス以外ノ兵種ニ在リテモ概ネ之ニ準ズルモノトス 四 右ハ各自携行又ハ自隊馱馬ニ依リ携行スルモノニシテ之ガ爲ノ小行李ハ編成セザルモノトス	一八〇	一、一三五	三〇	一五〇	一三〇	六〇
	一、〇〇〇	一、〇〇〇		一、四〇〇		一、〇〇〇
	六四八〇			六〇〇〇		
	二					
	五					
	二〇〇					
	八					
	一六〇					
	一三六					

- 2 有刺鐵線 各大隊(獨立中隊)毎ニ一卷約三百米
- 3 麻袋 中隊三十箇ヲ標準トシ其ノ他ハ必要ニ應ジ現地調辨ス
- 4 信號彈 歩兵中隊以上ノ各本部ニ左ノ數量ヲ携行スルヲ標準トス

二 馬 匹

- 1 各歩兵聯隊竝ニ野砲兵第六聯隊假定數馬ノ馬數ヲ臨時百頭現在保管ノ假定數馬ヲ含ムニ増加ス依ツテ之ガ不足ハ各隊ニ於テ徵備所要ノ馬具共スルモノトス
- 2 各歩兵聯隊ハ右馬數ノ範圍内ニ於テ約三十頭内外ノ乘馬討伐隊ヲ編成スルモノトス

三 糧 秣

- 1 各人馬携帶
  - 人 甲二日分、乙二日分、罐詰肉二日分、食鹽四日分、携帶味噌三箇、携帶燃料一箇水砂糖等ハ適宜携ルコト
  - 馬 燕麥半定量二日分、支那馬ハ高粱一日分
- 2 行李携行
  - 人 甲三日分、乙一日分、罐詰肉五日分、携帶燃料三箇
  - 馬 燕麥完全定量四日分、支那馬ハ高粱四日分

黑龍、黃龍、吊星赤及白、流星ノ赤一星 各五發ヅツ  
 流星ノ赤二星及赤三星 各三發ヅツ  
 但シ流星ノ赤ハ白ニ代フルコトヲ得

3 支那馬車ノ人馬用 各八日分

四 被服

1 各人著裝

鐵帽、試製帽註、略、防寒覆面、防塵眼鏡、軍衣袴、冬襦袢、同袴下各一著、長靴、編上靴、卷脚絆(又ハ長靴)、外套、防寒毛「メリヤス」手袋一組、同靴下二足、靴下三足、携帶天幕、水筒、飯盒、同覆、雜囊

2 行李携行

防寒胴著各中隊二十著、靴下大各人一足、毛「メリヤス」襦袢、同袴下各人一著、毛布二名ニ一枚、豫備編上靴各中隊十足、被服補修材料主トシテ編上靴補修材料、大隊、獨立中隊毎ニ一箇、患者用毛布大隊十五枚、獨立中隊五枚

五 行李、事務用消耗品其ノ他ノ物品

1 事務用消耗品、圖囊其ノ他ニ携行スルモノノ外ハ行李ニ收容シ得ル程度但シ蠟燭ハ必ズ携行スルヲ要ス

2 行李 聯隊本部一箇、大隊本部二箇、中隊一箇、一出納官吏ニ付金櫃一箇、將校行李半數

3 沸水車、調理用庖丁、罐切

4 醫杖、擔架、獸醫材料

以上行李携行

六 行李用車輛

1 前各項ノ行李携行諸品運搬ノ爲要スル車輛ハ支那馬車ヲ以テ充當シ左記ノ通概定ス

步兵旅團司令部	一輛
步兵 聯隊	四七輛
騎兵 聯隊	一九輛
砲兵 聯隊	一二〇輛
工兵 中隊	八輛
衛生班 <small>衛生材料ヲ除ク</small>	約 二〇輛

右配當車輛數ヲ増加セザル範圍ニ於テ餘積アルトキハ前各項以外ニ適宜増加携行スルコトヲ得

但シ一車輛ノ積載量ハ馬車ノ人馬糧携行數以外ニ八十貫ヲ超過スルコトヲ得ズ  
聯隊内大隊等ノ所要車輛ハ定メラレタル範圍内ニ於テ聯隊ニテ配當數ヲ決定スルモノトス

2 前記配當車輛ハ各自隊ニ於テ現ニ備役シアルモノ及新ニ備役セルモノヲ携行スルモノトシ自隊備役ヲ不便又ハ不能トスルモノハ其ノ所要數ヲ速カニ師團經理部ニ通報スルモノトス本通報ニハ全所要數、自隊備役數、差引不足請求數ヲ明瞭ナラシムルモノトス

在奉部隊、步兵第二十三聯隊竝ニ前項末段ノ車輛ハ師團經理部ニ於テ備役シ在奉部隊及步兵第二十三聯隊ノ分ハ奉天ニ於テ其ノ他ノ部隊ニハ集中地ニ於テ交付ス

3 自動車ハ左ニ示スモノノ外各部隊ハ携行セザルモノトス  
乗 用 車 步兵旅團ニ一輛  
「サイドカー」 步兵聯隊ニ一輛

### 七 裝備用諸品ノ不足品整備

裝備用諸品ノ内各部隊ニ不足スルモノハ速カニ補充ヲ請求スルモノトス但シ試製帽、防寒覆面、防塵眼鏡ハ請求ヲ待タズ補充ス

### 八 兵器、荷物ノ處理

1 防寒帽、同外套、同胴著、同大手袋、同長靴、同短靴ハ最寄軍倉庫ニ返納スルモノトス

2 其ノ他ノ諸品中濾水器、事務用消耗品、謄寫版、日用品、編上靴、毛布、行李ノ殘部等直チニ追送ヲ要スルモノト當分使用ノ見込ナキモノトニ區分シ軍帽ハ當分使用セザルモノニ入ル内地出發前示シタル相

包要領ニ依リ梱包シ前者ハ在通遼師團野戰倉庫ニ其ノ他ハ奉天製麻會社倉庫ニ送付シ師團兵器掛及經理部ノ指示ヲ受ケ格納スルモノトス

3 梱包材料ハ在來ノモノヲ使用シ不足スルモノハ各々自隊ニ於テ調辨スルモノトス但シ調辨不能ノモノハ速カニ師團經理部ニ請求スルモノトス

4 携行増加兵器一覽表以外ノ兵器及剩餘彈藥竝ニ内地ヨリ携行セルモノ以外ノ毛布、陣中用具等ハ總テ後繼部隊ニ引繼ギ後繼部隊ナキモノハ軍倉庫ニ返納スルモノトス

### 九 其ノ他ノ注意

1 前項中直チニ著手シ得ルモノハ逐次實行シ發送地ヲ指定セザレバ發送シ得ザルモノハ發送準備ヲ整ヘ置クモノトス

2 集中地迄ハ防寒具類ハ携行(著用)セシムルコトヲ得ルモ出發前必要ナキニ至ラバ之ヲ梱包シ確實ニ格納ノ處置ヲ取ルモノトス

3 酒保ハ集中地ニ於テ開設スルコトヲ得但シ所屬部隊集結地出發後ハ當分集結地附近ニ殘置スルモノトス

#### 附記

防寒被服ノ携行ニ關シテハ種々研究セラレ師團軍醫部長及中崗砲兵中佐等ヨリ携行スルヲ可トスベキ意見具申アリタルモ機動力發揮ヲ主トスベキ作戰上ノ要求ニ基キ前記ノ如ク決定セルモノトス

但シ騎兵第十聯隊ハ其ノ必要ヲ認メ之ヲ携行セリ

通信ニ關スル準備要領

通信ニ關スル準備要領左ノ如シ

一方針

無線及補助通信ヲ主トシ有線ヲ從トス

二 無線

1 師、旅團司令部間

三號無線

2 旅團、聯隊、大隊間

五號無線

3 從來ノ師團通信隊ノ三號無線班ノ外新ニ教育中ノモノ名十一及留守部隊ヨリ派遣セラルル無線

電信教習所全員ヲ以テ之ニ充ツ

三 空地連絡

1 六師作命丙第三四號ニ示セル要領ニ依リ各隊ハ資材ヲ準備シ教育ヲ進ムルモノトス

2 次期作戰ニ方リテハ偵察飛行一中隊師團ニ協力スル筈

四 鳩

六師作命丙第三〇號及同第三四號ニ依リ鳩班ヲ通遼、彰武ノ線ニ速カニ先遣シ訓練ヲ開始ス

五 信號彈

別記 裝備ニ關スル指示事項中兵器類ノ4(第五四頁)參照ニ依リ信號彈ヲ準備ス

不足分ハ速カニ師團兵器部ニ請求スルモノトス

六 有線

1 保線及運搬ノ困難ナルニ鑑ミ成ルベク其ノ數量ヲ減ズ

2 駐留間及前哨等ニ用フルヲ豫想ス

3 有線要員モ空地連絡等ヲ兼務セシム

4 歩兵聯隊携行器材標準左ノ如シ

(イ) 隊ト同行スルモノ

電話機 三箇

線 五卷

(ロ) 他ハ通遼歩四七ニ在リテハ奉天軍倉庫ニ保管ヲ依頼シ所要ニ應ジ招致ス

5 師團通信隊有線小隊

電話機 四箇

線 八卷

七 其ノ他

各隊、各人ハ日章旗ヲ携行ス



附記 第六師團通信部隊(配屬部隊ヲ含ム)ノ編成裝備ノ概要左ノ如シ

隊下部隊

師團通信隊(三號無線電信七分隊、五號無線電信七班、其ノ他有線、鳩、視號班等人員百名)

配屬部隊

關東軍無線電信小隊(一號無線電信六分隊)

第十四師團通信隊ノ一部(三號無線電信二分隊)

作戰計畫

師團長ハ軍ノ作戰計畫ニ基キ二月十四日左記作戰計畫ヲ策定シ翌十五日各團隊長又ハ命令受領者ヲ集メ之ヲ開示スルト共ニ所要ノ訓示ヲ與ヘタリ

熱河作戰計畫ノ要旨 挿圖第一參照

其ノ一 作戰方針

一 師團ハ熱河省内師團作戰地境內ニ於テ學良系軍ニ對シ最モ迅速且多大ノ打擊ヲ與ヘ以テ同地方ヲ平定シ北支學良勢力ノ覆滅ヲ促進ス  
之ガ爲師團及師團配屬部隊並ニ滿洲國軍ノ主力ヲ以テ熱河省東境ニ近ク作戰準備ヲ整ヘ其ノ完了後數縱隊トナリ前進ヲ開始シ隨時隨處ニ敵ヲ擊滅シツツ爲シ得ル限り速カニ先ヅ林西、全營(烏丹城)、赤峰ノ線ニ進出ス  
爾後熱河省南部河北省ノ境ニ近ク威力壁ヲ構成スル第八師團ト策應シ熱河省内反抗分子ヲ孤立無援ニ陥ラシメ之ヲ西方若クハ西南方ニ席卷壓倒ス

此ノ際特ニ東方ニ向ツテスル兵匪ノ脱逸ヲ防止ス別命アル場合ノ外熱河省内ニ於テ作戰行動ヲ終了シ引續キ掃匪作業ヲ完了ス  
作戰ハ二月下旬ヨリ之ヲ實施ス

其ノ二 軍隊區分

鐵道掩護部隊

第十四師團ノ歩兵一大隊

第二裝甲列車

第十三裝甲列車

裝甲單車

三

騎兵旅團

騎兵第四旅團

騎兵第一旅團ノ騎砲兵中隊

同

自動車班ノ主力

右縱隊

師團司令部

步兵第三十六旅團 步兵第二十三聯隊第二大隊欠

騎兵第十聯隊

野砲兵第六聯隊 一中隊欠

工兵第一中隊 一小隊半欠

師團通信隊ノ主力

自動車中隊

輸送監視隊

師團衛生班 半部欠

中央縱隊

步兵第二十三聯隊第二大隊 一中隊欠

騎兵第六聯隊

野砲兵第六聯隊ノ一中隊

工兵半小隊

師團通信隊ノ一部

師團衛生班六分ノ一

左縱隊

步兵第十一旅團 四中隊欠

第十四師團野砲兵一大隊

工兵一小隊

師團通信隊ノ一部

師團衛生班三分ノ一

區處部隊

護國游擊軍 長劉桂堂 約一萬

洮遼軍 司令官張海鵬 約一萬二千

暫編第二軍 長程國瑞 約七千五百

獨立第一旅 長李壽山 約二千五百

兵站監事務取扱配屬部隊

步兵第十一旅團ノ四中隊

步兵第三十六旅團ノ一中隊

其ノ三 部署並ニ作戰指導ノ大要

作戰準備

一 鐵道掩護部隊 步兵一大隊第二、第十三  
裝甲列車、裝甲車三 ハ集中地ニ到着セバ直チニ現掩護部隊ト交代シ作戰全期間ヲ  
通シ四鄭、鄭通鐵道及繞陽河以北打通鐵道ノ確保竝ニ附近ノ警備ニ任ジ特ニ兵匪ノ東方脱逸ヲ防  
止シ且師團補給發起點ノ確保ニ任ズ

二 各縱隊ハ概ネ左ノ如ク集結シ爾後ノ前進ヲ準備ス

集結完了ハ二月二十二日トス

師團隸下竝ニ配屬部隊

騎兵旅團 騎兵第四  
旅團基幹

通遼附近

右縱隊 師團司令部、步兵第三十六旅  
團主力、野砲兵聯隊主力基幹

主力ハ通遼、一部ハ鄭家屯附近

中央縱隊 步兵一大隊、騎  
兵第六聯隊基幹

彰武及馮家窩堡附近

左縱隊 步兵第十一  
旅團基幹

奉天及鐵嶺

師團區處部隊

護國游擊軍

魯北附近

洮遼軍

通遼、達爾罕王府附近

暫編第二軍  
獨立第一旅

彰武 含マ、 新立屯、白土廠邊門附近

作戰第一期

一 騎兵旅團ハ先ヅ通遼西方地區ニ現存スル敵ヲ擊滅シ次デ主力ヲ以テ開魯附近ヲ經テ興隆地ニ向  
ヒ前進ス

有力ナル一部ヲ以テ天山附近ヲ經テ林西方向ノ敵ヲ掃蕩シ且滿洲國軍ノ誘導ニ任ゼシム

二 右縱隊ハ先ヅ通遼西方地區ニ現存スル敵ヲ擊滅シ爾後綏東附近ヲ經テ下窪ニ向ヒ前進ス

途中綏東ニ步兵約一中隊ヲ殘置シ後方連絡線ノ確保ニ任ゼシム

三 中央縱隊ハ所在ノ敵ヲ擊破シツツ綏東ニ前進シ後右縱隊ニ合ス

四 左縱隊ハ此ノ間朝陽ニ前進シ爾後ノ前進ヲ準備ス

五 護國游擊軍ハ阿魯科爾沁大王府及其ノ北方地區ニ、洮遼軍ハ三成隆及公爺府ヲ經テ天山及西五

十家子附近ノ線ニ又暫編第二軍及獨立第一旅ハ生金阜 註、生金溝トモ稱ス  
北票北方約三十軒 北票ノ線ニ前進ス

六 騎兵旅團、右縱隊及左縱隊ハ興隆地、下窪及朝陽ニ於テ夫々一舉ニ赤峰迄前進シ得ル如ク諸準

備ヲ完了ス

作戰第二期

一 前進準備完了セバ各縱隊ハ一齊ニ前進ヲ開始シ所在ノ敵ヲ擊滅シツツ騎兵旅團ハ梧桐好懶、馬  
蓮廠ヲ經テ赤峰西北側地區ニ進出シ赤峰附近敵ノ北方及西方ニ向ツテスル退路ヲ遮斷シ、右縱隊

ハ白塔子、小河沿ヲ經テ又左縱隊ハ建平ヲ經テ共ニ赤峰ニ向ヒ前進シ各縱隊相連繫シテ赤峰附近ノ敵ヲ包圍殲滅ス

二 此ノ間護國游擊軍ハ林東ヲ經テ林西ニ、洮遼軍ハ「ハイスンスム」ヲ經テ全寧ニ又暫編第二軍及獨立第一旅ハ概ネ新店赤峰南方約三十五軒、瓦房新店南南西方約三十軒ノ線ニ進出ス此ノ間狀況ニ依リ洮遼軍ノ一部ハ赤峰ノ攻撃ニ參加スルコトアリ

三 本前進間右縱隊ハ下窪ニ步兵約一中隊ヲ殘置シテ後方連絡線ノ確保ニ任ゼシメ左縱隊ハ北票、朝陽間輕便鐵道ノ敷設並ニ朝陽寺、赤峰間兵站線ノ掩護ニ任ズ

### 作戰第三期

一 本期間ニ於ケル師團ノ作戰ニ關シテハ狀況ニ應ジ更ニ決定ス

二 護國游擊軍ハ多倫諾爾方面ニ、洮遼軍ハ熱水湯附近ヲ經テ豐寧方面ニ、暫編第二軍及獨立第一旅ハ糧捕府方面ニ前進ス

### 作戰全期

一 全期間ヲ通ジ兵匪ノ東方省外ニ脱逸スルヲ防止ス

二 騎兵旅團ハ烏丹城方面ニ對シテハ特ニ注意ヲ拂フヲ要ス

三 各縱隊ノ進路及戰鬪地境別紙要圖註、挿圖第一參照ノ如シ

四 全期間ヲ通ジ軍飛行隊ノ一部ハ師團ノ作戰ニ協力ス

### 其ノ四 補給

一 師團各縱隊ハ前進發起ニ方リ八日分ノ糧秣及所要ノ彈藥ヲ自隊ニ於テ携行スルモノトス

二 師團各縱隊ハ第二期作戰發起ノ際第一期作戰間費消セシ彈藥及糧秣ヲ充足スルモノトス之ガ爲師團ノ補給機關ハ下窪ニ交付所ノ開設ヲ計畫準備ス

三 各縱隊ハ行動間糧秣ハ爲シ得ル限り現地調辨ニ依リ以テ追送糧秣ノ減少ニ努力スルモノトス

四 赤峰到著迄ハ右縱隊ノ進路上ニ後方補給路ヲ設置スルモ左縱隊方面兵站線路設定セラレバ師

五 赤峰到著迄ハ右縱隊ノ進路上ニ後方補給路ヲ設置スルモ左縱隊方面兵站線路設定セラレバ師團ノ全補給ハ該兵站ニ依リ右縱隊方面ノ補給ヲ停止ス

### 其ノ五 通信

#### 一方針

各縱隊間ノ連絡ハ無線電信ニ依ルヲ主體トシ飛行機ヲ併用ス而シテ作戰初期ニ於テハ一號無線電信機ヲ主トシ三號無線電信機ヲ副トスルモ作戰ノ進捗ニ伴ヒ後者ノ活動ヲ期シ赤峰城攻撃時期ニ於テ全通信機關ノ最大能力ヲ發揮セシム

#### 二 作戰第一期

錦州ヲ統制地トスル「ツ」型註一、四ノ一號無線電信機ニ依ル通信系ヲ以テ師團司令部、騎兵旅團及左縱隊並ニ軍司令部トノ通信ニ任ゼシメ且三號無線機ヲ各縱隊ニ分屬セシメテ縱隊間及縱隊内ノ通信ニ任ゼシム其ノ要領ハ別ニ定ム

三 作戰第二期

中央縱隊並ニ右縱隊ニ對スル三號無線電信機ノ配屬ヲ改變シ益々中距離無線ヲ以テスル連絡ヲ確保シ且赤峰城攻撃時期ニ於テハ五號無線電信機ノ主力ヲ以テ攻撃ノ重點タル右縱隊ニ配屬シ第一線連絡ニ任ゼシム

四 作戰第三期

赤峰占領後新ニ策定ス

五 空地連絡

對空班ノ主力ハ常ニ師團司令部ト行動ヲ共ニシ布板信號並ニ通信筒釣取ヲ以テ空地連絡ニ任ゼシム

尙三號無線電信機ヲ以テ通遼ニ在ル飛行場ト常ニ連絡ヲ確保ス

其ノ六 衛生

一 師團衛生班ノ三分ノ一ハ左縱隊ニ配屬シテ其ノ患者ノ收容及後送ニ任ゼシメ其ノ他ノ主力ハ師

團長直轄トシテ右縱隊及中央縱隊方面患者ノ收容及後送ニ任ゼシム

之ガ爲最初主力ハ通遼ニ開設シ爾後作戰ノ進捗ニ伴ヒ逐次綏東、下窪等ノ要點ニ躍進セシム

二 赤峰到著後ノ患者後送ハ朝陽寺―赤峰道上兵站ニ依ルモノトス

附記

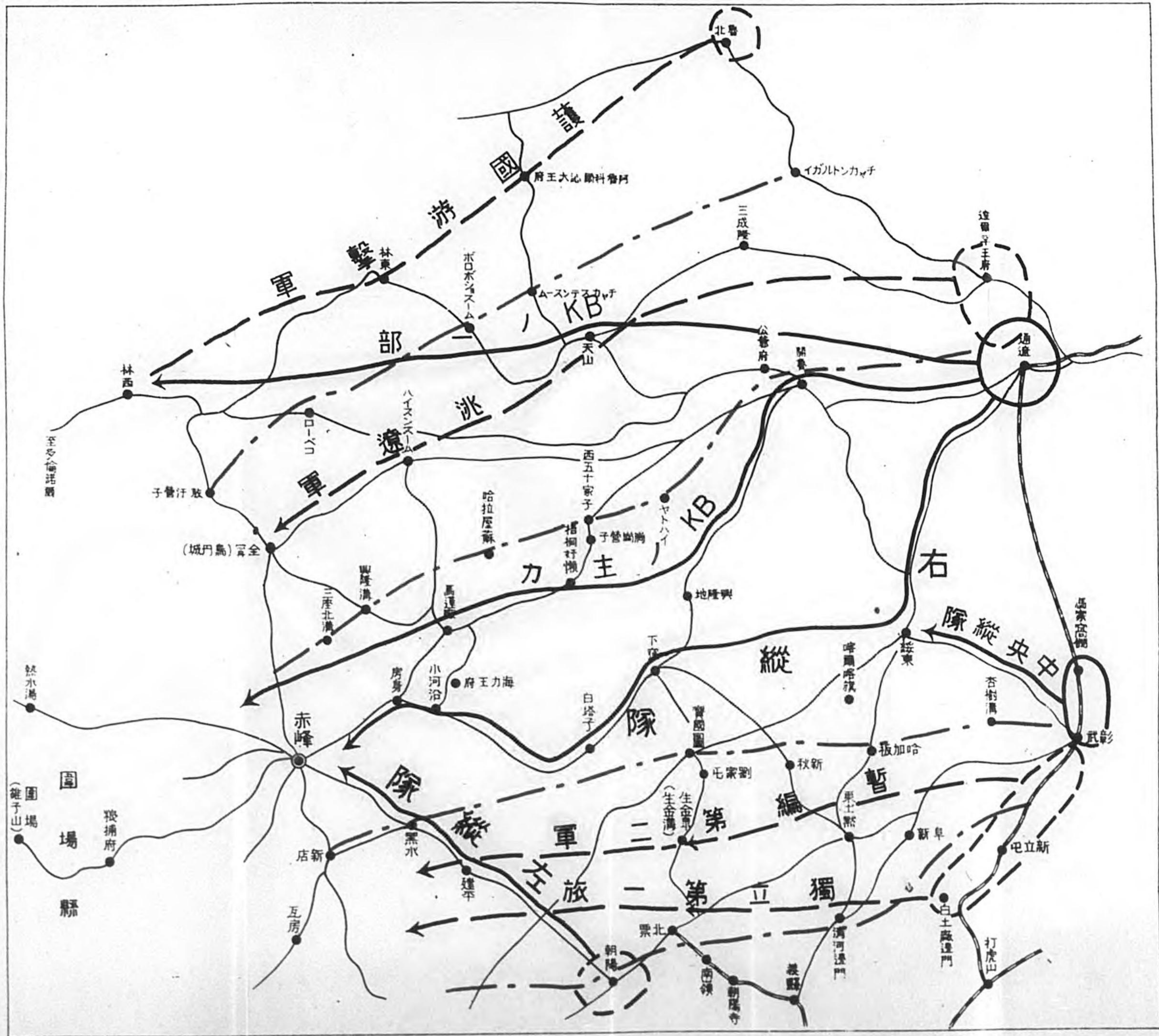
一 師團ハ途中開魯及其ノ南方地區特ニ興隆地及下窪ノ線ニ於テハ相當頑強ナル敵ノ抵抗ヲ受クルモノト豫想シテ計畫ヲ立案セリ

二 滿洲國軍隊ノ用法ハ大體ニ於テ軍ノ企圖ニ基ケルモノナルモ特ニ作戰地境ヲ定メ日本軍隊トノ混淆ヲ避クル如ク考慮セリ

但シ滿洲國軍隊相互間並ニ我ガ軍事顧問又ハ指導員間ニ指揮關係若クハ統一指揮ノ權力者等存セザルノミナラズ新編ノ軍隊ナリシ爲師團ハ統帥上頗ル不便ヲ感ジタリ

第六師團及區處部隊作戰地境並進路要圖

第一圖插



## 第二款 騎兵第四旅團ノ作戰準備

騎兵第四旅團ハ二月二日以來主力ヲ以テ通遼ニ、一部ヲ以テ彰武ニ位置シ打通鐵道ノ警備ニ任ズルト共ニ熱河作戰ニ關シ準備スル所アリシガ更ニ軍命令ニ基キ第六師團長ノ指揮下ニ入り十四日同師團ノ作戰計畫ヲ受領スルヤ茲ニ本格的準備ヲ行フコトトナレリ

大行李ノ編成

### 一 大行李ノ編成

旅團ハ今次作戰ニ於テ大行李ノ良否ガ作戰ニ影響スル所大ナルモノアリト判斷シ二月十六日大行李ノ編成ヲ終ルヤ綿密ニ検査ヲ行ヒ之ヲ司令部構内ニ宿營セシメ且嚴ニ之ヲ監視シテ其ノ逃走ヲ

防ギタリ

馬車ハ三馬又ハ四馬曳ト爲シ且行李用人馬ノ糶秣積載ノ爲從來ノ作戰ニ於テハ之ヲ携行スルコトナク現地物資ニ依ルヲ常トセリ百輛ニ付二十輛ノ割ヲ以テ之ヲ増加セシヲ以テ其ノ數モ亦著シク増大シ主力方面ニ於テハ約二百餘輛一車輛ハ約六十貫

積ト又彰武ニ在リシ騎兵第二十五聯隊第二中隊(一)小隊(欠)ニ於テハ約七十五輛ニ達セリ

而シテ旅團ノ作戰資材ハ通遼出發後概ネ十二日ヲ費シテ承德ニ進入シ得ル如ク人馬各一千三百トシテ糧食十四日分、「ガソリン」九百罐ヲ又馬糧ハ不毛地帯ノ通過日數ヲ四日ト豫定シ四日分ヲ準備セリ

二 馬匹ノ補充

旅團ハ當時迄ノ行動ニ依ル缺馬及病馬ノ補充竝ニ宣撫班、通譯、道案内者等ノ爲相當多數ノ馬匹ヲ必要トセシヲ以テ檢査ノ上地方馬ノ徵傭ヲ實施セリ

附記 旅團ハ前年來滿洲各地ニ於ケル作戰ノ經驗ヲ有シ二月初通遼ニ到著シ爾後約二十日間ノ餘裕アリシヲ以テ各隊ニ細部ノ指示ヲ與フルノ要ヲ認メザル狀況ニ在リ從ツテ車馬ノ準備以外ハ熱河作戰ノ爲特別ニ處置セシコトナク又第六師團ニ於テ防寒被服ヲ使用セザルコトハ之ヲ承知シアリシモ旅團ハ諸調査ノ結果其ノ必要ヲ認メ之ヲ携行セリ

第二節 集中竝ニ赤峰ノ占領附圖第四、第五參照

第一款 第六師團長ノ處置

其ノ一 集中竝ニ行動發起ニ關スル部署

第六師團長中將坂本政右衛門ハ二月十七日作戰行動實施ニ關スル軍命令關作命第四七三號(第三二頁參照)ヲ受領スルヤ翌十八日先ヅ軍隊區分ヲ定メ且朝陽寺方面ニ作戰スベキ左縱隊ノ爲左記命令ヲ下達セリ

軍隊區分

鐵道掩護部隊

第十四師團步兵一大隊

第二裝甲列車

第十三裝甲列車

裝甲單車 三

騎兵旅團

騎兵第四旅團

騎兵第一旅團騎砲兵中隊一小隊欠

騎兵第一旅團自動車班ノ主力

右縱隊

長 步兵第三十六旅團長 高田少將

步兵第三十六旅團第二十三聯隊第二大隊及一中隊ト一小隊欠

騎兵第十聯隊

野砲兵第六聯隊一中隊欠

工兵第一中隊一小隊半欠

自動車一中隊

中央縱隊

長 騎兵第六聯隊長 神代中佐

第二節 集中竝ニ赤峰ノ占領



步兵第二十三聯隊第二大隊 第六中隊欠

步兵第十三聯隊第九中隊 一小隊欠

騎兵第六聯隊

野砲兵第六聯隊ノ一中隊

工兵半小隊

無線二分隊

左縱隊

長 步兵第十一旅團長 松田少將

步兵第十一旅團 五中隊欠

第十四師團ノ野砲兵一大隊

工兵一小隊

師團通信隊ノ一部

師團衛生班三分ノ一

師團直轄部隊

步兵一中隊ト一小隊

師團通信隊ノ主力

臨時自動車班

輸送監視隊

師團衛生班 三分ノ一欠

六師作命甲第三二號

第六師團命令 二月十八日午前八時於奉天師團司令部

註、附圖ノ如シ

一 熱河省內及北支方面ニ於ケル反滿抗日勢力ノ狀況別紙

第八師團ハ一部ヲ以テ二月二十三日行動ヲ開始シ急遽北票附近ヲ占領シ北票鐵道ノ修理ヲ掩護シ

他ノ一部ヲ以テ繞陽河合マ以西奉天省內ノ警備特ニ後方交通錦縣(錦州)、北票ノ確保ニ任ジ爾餘ノ

主力ヲ以テ概ネ三縱隊トナリ二月二十七日北票附近及綏中西北方熱河省境附近出發成ルベク速カ

ニ凌源(舊建昌)附近及其ノ以南ニ互ル線ニ進出ス

二 師團ハ一部ヲ以テ朝陽寺方面ヨリ、主力ヲ以テ打通鐵道沿線方面ヨリ赤峰方面ニ向ヒ作戰シ第

八師團ト策應シテ師團作戰地境內ニ於ケル反滿抗日勢力ヲ擊滅セントス

三 松田少將ハ步兵第十一旅團第十三聯隊第九中隊及兵站監、第十四師團ノ野砲兵一大隊本部及、工兵一小

隊、衛生班三分ノ一ヲ指揮シ二月二十二日迄ニ朝陽寺附近出發北票鐵道方面ヨリ朝陽、建平附近

ヲ經テ赤峰方面ニ作戰シ且北票、朝陽間輕便鐵道ノ敷設竝ニ北票、赤峰間兵站線ノ掩護ニ任ズベシ

北票附近ノ作戰間ニ限リ第八師團長ノ指揮ヲ受クベシ

北票附近ヨリ赤峰方面ニ向ツテスル前進開始ハ別命スルモ二月二十七日ト豫定ス

新配屬部隊ハ奉天ニ於テ其ノ指揮下ニ入ラシム

四 滿洲國軍ハ豫定ノ如ク集結シ二月二十三日ヨリ前進ヲ開始ス

五 第八師團竝ニ滿洲國軍トノ作戰地境ハ師團作戰計畫註、挿圖ニ示シタルガ如シ

六 二月二十二日以降通遼ニ連絡スベシ

第六師團長 坂本 中將

下達法

命令受領者ヲ集メ印刷交付

第六師團  
主力ノ集  
中狀態

第六師團ノ集中ハ主力方面ニ於テハ順調ニ進歩ス但シ通遼附近ニ於ケル車馬ノ徵備ハ騎兵旅團ニ於テ既ニ實施シタル後ナリシ爲所得數意ノ如クナラズ又馬格貧弱ナルモノ多ク遂ニ牛ヲ混用スルノ止ムナキ狀態ナリキ  
尙滿洲國軍隊多數通遼附近ニ集中シタル爲宿營給養ノ實施竝ニ車馬ノ徵備等ニ相當混雜ヲ惹起セリ

左縱隊  
下車點  
關スル  
第八師團  
ノ交渉

朝陽寺ニ向ヒ鐵道輸送中ナリシ左縱隊ハ途中錦縣ニ於テ第八師團長ヨリ企圖秘匿ニ關スル願慮上同驛ニ下車ヲ要求セラレシヲ以テ左縱隊長ハ左縱隊ノ朝陽寺附近集中ハ軍命令ニ基ク第六師團命令ニ依ルモノニシテ二月二十三日朝陽寺ヲ出發スル迄ハ依然第六師團長ノ隸下ニ在ルヲ以テ第八師團ノ要求ハ不適當ナリトノ見解ヲ持シ折衝スル所アリシガ現地ニ於ケル協定成立シ義縣(義州)ニ下車スルコトトナレリ第二九八頁參照但シ遲著セシ步兵第四十七聯隊ハ朝陽寺ニ、第十四師團野砲兵大隊野砲兵第二十八聯隊第一大隊ハ義縣ニ下車セリ

附記 右ノ經緯ハ軍ニ於テ各師團參謀長ヲ召集シタル際第六師團ノ一部ヲ第八師團正面ニ派遣スル件ヲ豫メ指示セシ所ナルモ爾後兩師團間ニ於テ之ニ關スル連絡協定等不十分ナリシニ起因スルモノナリ

師團長ハ二月二十一日通遼ニ到リ師團主力ノ前進ニ關シ左記師團命令ヲ下達セリ

六師作命甲第三四號

前進ニ關  
スル師團  
命令

第六師團命令 二月二十一日午後八時  
於通遼師團司令部

一 熱河省内及北支方面ニ於ケル反滿抗日勢力ノ狀況別紙註、附圖ニ參照ノ如シ

第八師團ハ先遣隊ノ一部ヲ以テ二月二十一日ヨリ南嶺朝陽寺西北方約八軒半附近ノ敵ヲ攻撃シ引續キ北票ヲ占

領シ先遣隊ノ主力ヲ以テ二月二十五日朝陽ヲ攻撃シ爾後綏中西北方熱河省境附近ヲ出發スル他ノ

一 縱隊ト共ニ凌源附近及其ノ以南ニ互ル線ニ進出スル筈

二 師團ハ一部ヲ以テ朝陽寺方面ヨリ、主力ヲ以テ打通鐵道沿線方面ヨリ赤峰方面ニ向ヒ作戰シ第

八師團ト策應シテ師團作戰地域内ニ於ケル反滿抗日勢力ヲ擊滅セントス  
左縱隊ハ朝陽寺方面ニ前進シ第八師團ノ一部ト共ニ北票及朝陽寺附近ノ敵ヲ攻撃シ爾後朝陽、建平附近ヲ經テ赤峰方面ニ作戰シ且北票、朝陽間輕便鐵道ノ敷設竝ニ北票、赤峰間兵站線ノ掩護ニ任ズ

師團區處部隊タル滿洲國軍ハ豫定ノ如ク集結シ二月二十三日頃ヨリ前進ヲ開始スル筈

飛行第二中隊ハ當分ノ間主力ヲ以テ騎兵旅團及右縱隊、一部ヲ以テ中央縱隊進路上ノ敵情搜索竝ニ戰鬪協力ニ任ズル筈

三 第八師團竝ニ滿洲國軍ト師團トノ作戰地域ハ師團作戰計畫<sup>註、挿圖ニ示シタルガ如シ</sup>  
第一參照

四 鐵道掩護部隊ハ依然現任務ヲ續行シ特ニ綏東方面ヨリ東方ニ向ツテスル敵ノ脱逸防止ニ注意スベシ之ガ爲彰武、甘旗卡、阿爾鄉、彰古台附近ノ警備ヲ嚴ニスベシ

五 騎兵旅團ハ明後二十三日通遼出發有力ナル一部ヲ以テ天山附近ヲ經テ林西方向ニ前進シ該方面ノ敵ヲ掃蕩シ且滿洲國軍ノ指導ニ任ゼシメ主力ハ右縱隊ニ策應シ所在ノ敵ヲ擊滅シツツ通遼―開魯―「メンチカスーム」―梧桐好懶道ニ沿フ地區ヲ梧桐好懶ニ向ヒ前進シテ下窪附近ニ於ケル右縱隊ノ攻撃ニ參加シ爾後馬蓮廠ヲ經テ赤峰ニ向フ前進ヲ準備スベシ  
但シ一部ハ開魯―興隆地道ヲ前進スルコトヲ得

尙烏丹城方面ノ狀況ニ注意スルヲ要ス

六 右縱隊ハ明後二十三日早朝通遼出發所在ノ敵ヲ擊滅シツツ通遼―餘糧堡〔「シャナアイラ」(東)〕―興蒙公司―薄力火燒廟―八仙洞―興隆地―下窪道ニ沿フ地區ヲ前進シテ下窪ヲ占領シ爾後小河沿ヲ經テ赤峰ニ向フ前進ヲ準備スベシ

右縱隊配屬ノ自動車中隊ハ二月二十六日以後予ノ直轄トス

七 中央縱隊ハ明後二十三日早朝彰武附近出發所在ノ敵ヲ擊滅シツツ綏東附近ヲ經テ前進シ右縱隊ト協力シテ下窪ヲ占領スベシ

本期間敵ノ東方脱逸防止ニ努力スベシ

八 師團衛生班ハ明二十二日中ニ第三部ノ一部ヲ彰武ニ、主力ヲ通遼ニ開設シテ患者ノ收容及後送ニ任ゼシメ第二部ヲ通遼ニ於テ待命セシムベシ

九 師團通信隊ハ師團司令部ト軍竝ニ隸下各縱隊、騎兵旅團及鐵道掩護隊間ノ通信連絡ニ任ズベシ

十 輸送監視隊ハ約二百ノ車輛ヲ以テ明後二十三日以後軍需品ノ輸送ニ任ズベシ

細部ニ關シテハ別ニ示ス

右行動間掩護ノ爲步兵一小隊ヲ配屬ス

十一 師團直轄歩兵部隊ハ師團司令部並ニ師團輸送機關ノ直接掩護ニ任ズベシ

其ノ細部ニ關シテハ別命ス

十二 予ハ當分ノ間通遼ニ在リ

第六師團長 坂本 中將

下達法

各隊命令受領者ヲ集メ印刷交付

附記 當初軍ノ調査ニ依レバ通遼「ホースタイ」橋—綏東—下窪道ハ自動車ヲ通ズル良道トノコトナリシヲ以テ師團ハ之ヲ主力縱隊ノ進路ト定メ作戰計畫ヲ立案セシガ爾後ノ調査ニ依レバ綏東ニ在リシ縣廳ガ八仙洞ニ移リテ以來該道ハ沙ニ埋リテ廢道トナリシコト及李海清軍ノ主力ガ通遼—八仙洞道ニ沿ヒ位置スルコト判明セシヲ以テ前記命令ヲ以テ變更シ且之ニ伴ヒ騎兵旅團ノ進路モ亦若干變更セリ

當時滿洲國軍隊ノ集中ハ著シク遲延セルノミナラズ僅カニ集中シ得タルモノト雖モ馬匹、車輛等ノ徵發意ノ如クナラザル等ノ爲出發準備完了スルニ至ラズ中ニハ向背未ダ分明セザルモノ等アリ  
師團長ハ暫編第二軍及獨立第一旅ヲシテ下窪南方地區ヲ經テ赤峰北方地區ニ前進スル如ク新ニ區處シ師團ハ豫定ノ如ク前進ヲ開始セリ

附記 滿洲國軍ノ行動ニ就テ(附圖第二、第五參照、以下同ジ)

一 集中

熱河作戰ニ出動セル滿洲國軍ノ大部ハ第六師團ト協力シ赤峰方面ニ向ヒ作戰スル目的ヲ以テ洮遼軍ヲ以テ通遼附近、獨立第一

旅及暫編第二軍ヲ以テ彰武(含マズ)及新立屯附近ニ集中セシモ各兵團駐屯地出發ノ爲ノ諸準備並ニ鐵道輸送意ノ如ク進捗セザリシ爲集中遲延シ通遼方面ニ於テハ二月二十一日第一旅隊(旅隊ハ二月十一日石頭城下(哈爾濱西南方約百軒)出發四百數十軒ノ道ヲ匪賊ヲ驅逐シツツ行軍セシモノニシテ行軍長徑著シク延伸セリ)ノ一團及暫編騎兵第三旅隊(一月十八日以後通遼ニ駐屯シタルモノナルモ新募ノ部隊ニシテ編成未了結ナリ)ノ主力ヲ集中シ得タルニ過ギズ新立屯方面ニ於テハ二月二十日迄ニ暫編第二軍ノ大部ヲ集中シ得タルモ大行李車輛ノ徵發、軍需品ノ整備等ノ爲ニ二十三日第六師團ト同時ニ前進ヲ開始シ得ザル狀況ナリ

二 前進部署ノ大要

- 1 洮遼軍ハ一般方向ヲ烏丹城ニ取り二十三其ノ一部ヲ以テ日本軍騎兵旅團ト共ニ通遼ヲ出發シ爾餘ノ主力モ續イテ同地出發先ツ開魯ニ向ヒ前進シ更ニ爾後ノ前進ヲ準備ス
  - 2 暫編第二軍ハ彰武、下窪ヲ連ヌル線(含マズ)以南ノ地區ノ敵ヲ掃蕩シツツ赤峰東方小河沿ニ向ヒ前進ス
  - 3 獨立第一旅ハ彰武、下窪ヲ連ヌル線以北ノ地區ヲ下窪ヲ經テ小河沿東北方約十三軒海力王府ニ向ヒ前進ス
- 滿洲國軍ハ日本軍ノ行動地域ヲ避ケ主力ヲ以テ烏丹城方面ニ向ヒ前進ヲ部署セリト雖モ其ノ進路ハ反軍匪賊充滿シ加フルニ不毛僻遠ノ地ニシテ宿營給養ノ困難滿洲國軍ハ天幕ヲ携行シアラズヲ豫想セシヲ以テ司令官以下幹部中異論ヲ唱ヘ又ハ不平ヲ訴フル者等頗ル多カリシモ顧問タル日本將校ノ指導激勵ニ依リ二十二日夜半漸ク其ノ前進ヲ決意スルニ至レリ

其ノ二 行動開始ヨリ下窪占領迄ノ狀況

二月二十三日諸隊ハ所命ノ如ク前進ヲ開始セシガ此ノ日ヨリ天候激變シテ氣温急激ニ低下シ加フルニ強烈ナル吹雪アリ特ニ中央縱隊方面ニ在リテハ多數ノ凍傷患者發生セルノ報アリ之ガ爲二十四日師團

軍醫部長一等軍醫正 越川 彰ヨリ 防寒被服ノ追送支給ヲ待ツテ前進スルヲ可トスベキ意見具申等アリタルモ師團長ハ之ガ爲作戰ヲ拘束セラルルハ不可ナリトシテ依然豫定ノ如ク前進ヲ續行スルト共ニ沿道ノ患者ヲ收容スル目的ヲ以テ右縦隊ノ快速部隊歩兵第四十五聯隊第三大隊(池田大隊)ニ對シ自動車中隊ヲ二十五日中ニ通遼ニ歸還セシムベキヲ命ゼリ

附記 師團司令部附松室騎兵大佐ハ軍司令部ニ對シ私信ヲ以テ狀況ヲ報告シ防寒短靴等ノ空中輸送ヲ必要トスベキ希望ヲ開陳セリ

師團長ハ幕僚及經理部長ヲ伴ヒ二十五日午後九時自動車ニテ通遼ヲ出發シ午後三時薄力火燒廟ニ到着ス

各隊ノ出發以來發生セシ凍傷患者數ハ右及中央縦隊ヲ合シ約六百名ニ上リタルモノノ如ク司令部内憂色アリ然レドモ師團長ハ二十六日夜迄ニ諸情報ヲ綜合シ『第八師團ノ先頭ハ本日午前十時三十分朝陽北門ニ達シ又騎兵第四旅團ノ舊前衛タル騎兵第二十六聯隊長 大佐 黒谷正忠 新ニ黒谷支隊ト稱スハ午後二時興隆地出發下窪ニ向ヒ前進中ニシテ同地附近ニ在リシ敵ハ既ニ退却ヲ開始セルコト及興隆地以南ハ積雪ナク且地方物資ノ收集利用等モ容易ナルベキコト』等ヲ知リ師團主力ヲ速カニ下窪ニ集結セシメ爾後ノ前進ヲ準備スルニ決シ騎兵旅團、騎兵第十聯隊及歩兵第四十五聯隊池田大隊ニ對シ『速カニ下窪ヲ占領シ爾後ノ前進ヲ準備スベキ』ヲ命ジ翌二十七日自ラ八仙洞ニ到リ左縦隊ニ對シ『準備完了次第適時現在地出發赤峰占領ノ目的ヲ以テ建平ヲ經テ赤峰ニ向ヒ前進スベキ』命令ヲ下達シ本命令ハ當時相互間ノ連絡杜絶シアリシ爲左縦隊ハ受領シアラズ翌

二十八日更ニ前進シテ午後四時下窪ニ到着セリ

師團長ハ午後九時三十分軍兵站監發左記電報ニ接ス

輸送機ハ昨二十七日及本二十八日防寒具投下ノ爲師團ノ指示セル興隆地及下窪上空ニ到リタルモ受領者ナク下窪ニハ騎兵隊ラシキモノアリタルモ受領ヲ肯ンゼザル爲投下スルコトヲ得ズ歸還セリ

明一日モ更ニ實施スル豫定ニ付受領位置ヲ的確ニ示シ錦州ニ至急返

右ニ對シ師團ハ直接錦州飛行隊長ト連絡ノ上翌三月一日七機ノ旅客機ヨリ防寒外套及防寒靴投下補給ヲ受ケタリ

各隊ノ大行李ハ各所ニ荷物及患者ヲ殘置シ師團ノ輸送監視隊未ダ到着スルニ至ラズ之ガ爲師團ニ於テハ後方主任參謀及經理部部員一名ヲ下窪ニ殘置シ其ノ整理ニ任ゼシメタリ

其ノ三 赤峰ノ占領

師團長ハ下窪ニ於テ二十八日夜迄ニ左記情報ヲ知ル

- 一 關内ヨリ前進セル孫殿英軍ハ烏丹城及赤峰附近ニ兵力ヲ集結中ナリ
- 二 騎兵第六聯隊及歩兵第四十五聯隊第三大隊右縦隊ノ快速部隊ハ二十八日下窪ニ到着ス但シ其ノ大行李ハ未著ニシテ携帶口糧亦一日分ヲ有スルノミナリ
- 三 右縦隊主力ハ二十七日夜八仙洞、興隆地中間地區ニ宿營シ本二十八日夜興隆地ニ宿營ス

- 四 騎兵旅團主力ハ敵ノ抵抗ヲ打破シ二十八日小哈拉道口ニ到着ス
  - 五 第八師團主力及松田旅團ハ明三月一日朝陽出發前進開始ノ豫定ナリ
- 當時師團中央縱隊騎兵第六聯隊ヲ除クノ狀況ニ關シテハ知ル所ナシ
- 師團長ハ第八師團方面ノ戰況ノ進展竝ニ騎兵旅團方面ノ狀況ニ鑑ミ師團主方ヲ永ク下窪ニ停止セシムルコトナク速カニ前進シテ騎兵旅團ニ協力セシムルヲ至當ナリト判斷シ左記命令ヲ下達セリ
- 六師作命甲第三八號

第六師團命令 二月二十八日午後九時四十分  
於下窪師團司令部

- 一 師團當面ノ敵ハ主力ヲ以テ下窪—元寶窪—五十家子—白磨石溝—小河沿道ヲ、一部ヲ以テ下窪—白塔子—小河沿道ヲ赤峰方向ニ向ヒ退却中ナリ
- 又關内ヨリ北進中ノ孫殿英軍ハ烏丹城及赤峰附近ニ集結中ニシテ其ノ一部副軍長劉月亭ハ滿洲國ニ對シ歸順ノ色アリ
- 左縱隊ハ三月一日朝陽出發、赤峰ニ向ヒ前進ノ筈
- 二 師團ハ赤峰ニ向ヒ敵ヲ追擊セントス
- 三 騎兵第四旅團ハ曲家灣子—小哈拉道口—赤峰道ヲ引續キ赤峰ニ向ヒ敵ヲ追擊スベシ
- 騎兵第十聯隊ハ自今騎兵第四旅團長ノ指揮下ニ入ル

- 四 騎兵第六聯隊ハ明三月一日早朝下窪出發、元寶窪—五十家子—白磨石溝—小河沿—赤峰道ヲ赤峰ニ向ヒ敵ヲ追擊スベシ
- 五 池田大隊ハ自今予ノ直轄トナリ明三月一日朝下窪出發、騎兵第六聯隊ト同一ノ道路ヲ赤峰ニ向ヒ敵ヲ追擊スベシ
- 三號無線一分隊ヲ屬ス
- 六 右縱隊及中央縱隊ハ下窪ニ集結シ速カニ爾後ノ前進ヲ準備スベシ
- 七 予ハ暫ク下窪ニ位置ス

第六師團長 坂 本 中 將

下達法

騎兵旅團、中央縱隊ニハ要旨ヲ電報シ其ノ他ニハ印刷交付ス

附記 騎兵第十聯隊ハ本師團命令ノ受領ニ先ダチ二月二十五日午後八時仙洞東北方地區ニ於テ騎兵第四旅團主力ト相會シ爾後同旅團長ノ區域ヲ受ケ行動ヲ共ニシツツアリ

師團長ハ下窪ニ於テ三月一日午後二時迄ニ左ノ狀況ヲ知得ス

- 一 約二千ノ敵ハ興隆窪赤峰東方約二十二軒附近ヲ赤峰ニ向ヒ退却中ナリ
- 又赤峰ニ在ル敵ハ烏丹城方向ニ退却セル模様ナルモ其ノ若干ハ同地附近ニ殘存ス

- 二 右縦隊主力及自動車中隊ハ本一日夕刻下窪ニ到着スル豫定ナリ
  - 三 騎兵旅團ハ本一日正午概ネ元寶隆赤峰東北東方約二十七軒ニ達シ更ニ敵ヲ追撃中ナリ
  - 四 第八師團方面ハ豫定ノ如ク前進中ナリ
- 以上ノ狀況ニ基キ師團長ハ急速ナル追撃ヲ決行スルヲ必要ナリトシ左記命令ヲ下達セリ
- 六師作命甲第四一號

第六師團命令 三月一日午後二時三十分 於下窪師團司令部

- 一 敵ノ義勇軍註、其ノ實質ニ據ミ當時我が軍ニ於テハ一般ニ偽勇軍ト稱ヘタリ主力ハ赤峰ヲモ放棄シ烏丹城方向ニ退却セルガ如キモ赤峰赤峰西南方約五十軒方向ニモ退却セル模様アリ
- 又約二千ノ敵ハ三月一日正午頃赤峰東方約二十二軒興隆窪附近ヲ赤峰方向ニ退却中ナリ
- 赤峰ニハ尙若干ノ敵存在セルモ兵力未ダ詳カナラズ
- 騎兵第四旅團ハ三月一日正午概ネ元寶隆ニ達シ續イテ急追中ナリ
- 二 師團ハ敵ヲ急追シテ速カニ赤峰ヲ占領セントス
- 三 騎兵第四旅團ハ赤峰ヲ占領セバ同地ヲ確保シ師團主力ノ來著ヲ待ツト共ニ特ニ烏丹城方面ノ敵情ヲ搜索スベシ
- 四 右縦隊ハ成ルベク速カニ下窪出發、五十家子、小河沿ヲ經テ赤峰ニ向ヒ敵ヲ急追シ速カニ赤峰ヲ占領スベシ

ヲ占領スベシ

- 自今舊中央縦隊、池田大隊及自動車中隊ヲ右縦隊長ノ指揮下ニ入ル
- 步兵約一中隊ヲ下窪ニ殘置シ附近ノ警備特ニ殘置物品及患者ノ護衛ニ任ゼシムベシ
  - 五 左縦隊ハ豫定ノ進路ヲ赤峰ニ向ヒ敵ヲ急追スベシ
  - 六 予ハ明二日下窪出發、右縦隊ノ先遣部隊ト共ニ赤峰ニ向ヒ前進ス

第六師團長 坂本 中將

下達法

4KB、11iB ニハ先ヅ要旨ヲ電報シ後印刷交付

師團長ハ二日午前五時下窪出發、右縦隊快速部隊ノ後方ヲ赤峰ニ向ヒ急進ス途中嘎岔小河沿南西方約八軒ニ達セシ際前ニ快速部隊ノ潰走セシメタル敵ノ敗殘兵ヨリ數發ノ射撃ヲ受ケシヲ以テ師團司令部ノ將校以下射撃ヲ以テ之ヲ擊退シ爾後不良ナル道路ヲ自動車ヲ驅ツテ午後十一時五十分赤峰ニ入城セリ

當時騎兵旅團ハ赤峰東方高地ニ於テ陣地ヲ占領セル約二千ノ敵匪ヲ攻撃シ一晝夜ニ互ル激戰ノ後遂ニ之ヲ擊退シ赤峰ヲ占領シアリタリ

附記 滿洲國軍ノ行動ニ就テ

一 洮遼軍

第二節 集中並ニ赤峰ノ占領

二月二十三日第一枝隊及暫編騎兵第三枝隊ハ騎兵第四旅團ニ引續キ吹雪ヲ冒シテ前進ヲ開始シ其ノ各一部ハ二十四日午後開魯ニ入城ス爾餘ノ主力亦逐次通遼附近ニ集中ノ後同月二十六日ヨリ三月二日迄ノ間ニ第三、第二、第四枝隊ノ順序ニ同地ヲ出シ開魯ニ向ヒ前進ス

軍司令部ハ三月三日通遼出發四日開魯ニ到着セシモ張海鷗ハ日本軍ノ赤峰占領ヲ疑ヒ且前方ニ數萬ノ殘敵アリトノ住民ノ言ヲ信ジ前進ノ意志ナシ

然レドモ其ノ第一枝隊ハ日本軍小柳津支隊ト共ニ四日同地ヲ出發シテ西喇木倫河以北ノ地區ヲ林西ニ向ヒ前進セリ

又暫編騎兵第三枝隊ハ輸送機關ノ未著、馬ノ損壞、小銃ノ未著、軍費ノ不足等ヲ口實トシテ前進ヲ躊躇シ四日一旦出發セシモ前地ノ宿營、給養至難ナルノ故ヲ以テ主力ハ開魯ニ後退シ僅カニ其ノ一部我ガ顧問ノ強要、激勵ニ依リ八仙洞ニ向ヒ前進セリ

爾後軍ノ主力ハ逐次開魯ニ到着シ不毛地域ニ於ケル宿營、給養ノ便ヲ顧慮シ六日先ヅ暫編騎兵第三枝隊ヲ以テ爾後毎日一枝隊ヅツ第二、第三、第四枝隊ノ順序ニ漸ク開魯ヲ發シ開魯—八仙洞—興隆地—梧桐好蘭—馬運廠道ヲ馬運廠ニ向ヒ前進ス

軍司令部ハ八日午前六時開魯出發自動車ニ依リ各枝隊ヲ超越前進シ下窪ニ一泊ノ上九日午後四時赤峰ニ入城セリ同夜張海鷗ハ第六師團ト連絡ノ結果烏丹城方面ニハ既ニ日本軍騎兵第十聯隊ヲ基幹トスル部隊派遣セラレ且同方面ハ敵ニ關シ危險ノ顧慮ナキヲ知リタルヲ以テ直チニ各枝隊ニ赤峰ニ向ヒ前進ヲ命ジタリ

第三枝隊ノ一部ハ七日夜半開魯出發軍司令部ノ護衛ニ任ジツツ強行軍ヲ以テ下窪ヲ經テ赤峰ニ向ヒ三百五十餘軒ノ行程ヲ僅カニ四日間ヲ以テ踏破シ十一日午前十一時無事赤峰ニ到着セシガ人馬共ニ志氣旺盛ナリ其ノ他ノ枝隊モ亦十二日以後逐次赤峰ニ到着セリ

第一枝隊方面ニ在リテハ道路不良特ニ部落少ク宿營、給養上多大ノ困難アリシモ之ヲ克服シ途中少數ノ敵ヲ驅逐シツツ十一日大板上(林西東方約四十軒)ニ進入シ劉桂堂ノ指揮スル護國游擊軍ハ林東ニ到着ス

是ヨリ先開魯ニ於テ抗日義勇軍タリシ崔興武軍ハ團長李守信之ガ代表トナリ既ニ關東軍ニ對シ歸順ノ意ヲ表シ日本軍ノ前進ニ伴ヒ林西ニ移動セシガ前記滿洲國軍相互間ニ感情上幾多憂慮スベキ點アリシヲ以テ第一枝隊及劉桂堂軍ハ各到着地ニ待機シ日

本軍小柳津支隊ノミ林西ニ入城セリ

爾後第一枝隊ハ更ニ大板上ヨリ轉進シ十六日烏丹城ニ到着セリ

二 暫編第二軍及獨立第一旅

程國瑞麾下ノ暫編第二軍ハ二月二十六日新立屯ヲ發シ翌二十七日阜新(彰武西南方約八十軒)ニ進入シ東土默特王府(阜新西南方約十八軒)南北ノ線ニ在ル馮占海軍ト對峙シアリシガ三月九日更ニ下窪及其ノ南方ノ線ニ進出セリ次テ南進シテ蒙古營子(東土默特王府西南方約五十軒)ニ到着スルヤ同地附近ニ在リシ定國軍(川島芳子ノ操縱スル義勇軍)トノ間ニ紛争ヲ惹起シ部落ニ於テ掠奪等ヲ爲シ民團ト衝突セル等ノ關係上爾後關東軍ノ指示ニ依リ三月二十日通遼ニ輸送セラレ同地ニ於テ日本軍獨立守

備隊ノ手ニ依リ武裝ヲ解除セララルニ至レリ

獨立第一旅ハ三月四日彰武、新立屯、白土廠邊門間ノ地區ニ進セシガ三月上旬頃下窪南方地區ヲ經テ赤峰ニ向ヒ前進セリ

三 護國游擊軍

劉桂堂麾下ノ護國游擊軍ハ最初魯北附近ニ在リテ向背ヲ疑ハレシガ逐次前進ヲ開始シ三月一日天山ニ到着セリ

第二款 騎兵第四旅團ノ行動 附圖第六參照

其ノ一 行動發起ヨリ二月二十八日迄ノ狀況

甲 出發ニ關スル旅團長ノ部署

騎兵第四旅團長少將茂木謙之助ハ二月二十一日夕出發ニ關スル第六師團命令ヲ受領セシカバ翌二十二日午後一時之ニ基キ左記要旨ノ命令ヲ下達セリ

軍隊區分

右縱隊

第二節 集中並ニ赤峰ノ占領



前衛

司令官騎兵第二十六聯隊長 黒谷大佐

騎兵第二十六聯隊 第二中隊及騎兵砲一分隊欠

機關銃二分隊

本隊 (同行軍序列)

無線班 二分隊欠 前衛ノ後方ニ續行ス

旅團司令部

騎兵第二十五聯隊第二中隊ノ一小隊 二分隊欠

機關銃中隊 二小隊(二分隊欠)欠

騎砲兵中隊 一小隊欠

通信班 無線班欠

左縦隊

長 騎兵第二十五聯隊長 山岡大佐

騎兵第二十五聯隊 第二中隊欠

機關銃一小隊 二分隊欠

無線一分隊

小柳津支隊

長 騎兵第二十六聯隊第二中隊長 小柳津大尉

騎兵第二十六聯隊第二中隊

騎兵砲一分隊

機關銃一小隊 二分隊欠

無線一分隊

自動車班

長 騎兵第四旅團自動車班長 堀内大尉

騎兵第四旅團自動車班

騎兵第一旅團自動車班

騎四旅司作命第一七八號

騎兵第四旅團命令(要旨) 二月二十二日午後一時於通達

一 軍ハ二月二十一日ヨリ逐次行動ヲ開始シ第八師團ヲ以テ錦州方面ヨリ、第六師團ヲ以テ打通鐵道沿線方面ヨリ先ヅ赤峰、承德ノ線附近ニ向ヒ前進シ熱河省内ノ掃匪ニ任ズ

第六師團ハ三縱隊トナリ二月二十三日概ネ打通鐵道及朝陽寺附近出發、左縱隊ヲ以テ朝陽―赤峰道ヲ赤峰ニ、中央及右縱隊ヲ以テ彰武及通遼ヨリ先ヅ下窪附近ニ向ヒ前進ス

飛行第二中隊ハ明二十三日以後主力ヲ以テ旅團及師團右縱隊ニ協カス

二 旅團ハ二月二十三日通遼出發先ヅ開魯ニ向ヒ前進シ同地ノ兵匪ヲ擊滅セントス

三 装甲自動車班ハ午前五時通遼出發右縱隊ノ進路ヲ前進シ開魯方面ノ敵情ヲ搜索スベシ

四 右縱隊前衛ハ午前五時通遼西端出發道德營子(「チャカントラガイ」)ヲ經テ開魯方面ニ前進スベシ

五 右縱隊タル諸隊ハ午前五時通遼出發江木大尉ノ指揮ヲ以テ前衛ノ後方ニ續行スベシ集合ノ細部ニ關シテハ別命ス

六 左縱隊ハ午前五時通遼出發茂林廟(「モリンスーム」)ヲ經テ「チェールト」王府(卓王府)附近ニ向ヒ前進シ同地附近ノ兵匪ヲ擊滅スベシ

七 小柳津支隊ハ午前五時迄ニ其ノ宿营地附近ニ集合シ右縱隊本隊ニ續行スベシ

八 佐藤大尉註、騎兵第二十五聯隊第二中隊長ハ部下中隊一小隊(二分隊)欠及旅團大行李ヲ併セ指揮シ小柳津支隊ノ後方ニ續行スベシ

九 右縱隊諸隊大行李ハ午前五時迄ニ旅團司令部西側廣場ニ集合シ吉村特務曹長ノ指揮下ニ入ラシ

ムベシ

十 自動車班装甲自動車班欠ハ諸隊出發後宿营地ヲ出デ右縱隊ノ後方ニ續行スベシ

十一 予ハ右縱隊本隊ノ先頭ニ在リテ前進ス

旅團長 茂、木 少 將

諸隊ノ集合及通遼宿营地内ノ進路ニ就テハ更ニ別命ス

附記 騎兵第四旅團編成裝備ノ概要左ノ如シ

1 旅團司令部、通信班、軍無線ノ一部、騎兵二聯隊、機關銃一中隊、騎砲兵一中隊(一小隊欠)及自動車班ヨリ成ル

2 通信班ハ四號無線電信機四機、軍無線ノ一部ハ一號無線電信機二機ヲ有ス

3 騎兵第二十五聯隊ハ本部、三中隊、騎兵砲小隊(緊密克式山砲二門)及輕機關銃小隊(重、輕機關銃各二分隊)ヨリ成ル  
第一中隊ハ輕機關銃四挺、輕迫擊砲一門ヲ有シ中隊長以下總員約八十名ヲ二小隊、直轄輕機關銃二分隊及迫擊砲分隊ニ區分ス

4 第二、第四中隊ハ輕機關銃三挺及輕迫擊砲一門ヲ有シ中隊長以下約八十五名ヲ三小隊ニ區分ス  
騎兵第二十六聯隊ハ本部、三中隊及輕機關銃小隊ヨリ成ル

5 中隊ハ輕機關銃四挺及輕迫擊砲一門ヲ有シ中隊長以下約八十五名ヲ三小隊ニ區分ス  
輕機關銃小隊ハ輕機關銃四挺、機關銃二挺、騎兵砲緊密克式山砲二門ヲ有ス

6 機關銃中隊ハ機關銃八挺ヲ有シ二小隊ニ區分ス  
騎砲兵中隊(一小隊欠)ハ騎砲二門トス

7 自動車班ハ装甲自動車四輛、四輪自動貨車十四輛、六輪自動貨車十五輛、患者車二輛、附屬車一輛ヲ有ス  
第二節 集中竝ニ赤峰ノ占領

乙 行動經過ノ概要

二十三日ノ狀況

騎兵旅團ノ右縱隊小柳津支隊、旅團大行李及自動車班ヲ含ムハ二十三日午前六時前衛ノ先頭ヲ以テ通遼西端ヲ出發ス途中ハ皚皚タル積雪ノ曠野ニシテ秒速約十米ノ西北風ハ雪ト沙トヲ混ジテ膚ヲ劈クガ如シ

附記 部隊ガ營ヲ興安嶺方面ノ作戦ニ於テ寒風ヲ衝イテ行軍セシ際ニ於テモ未ダ防寒帽ノ鼻蓋ヲ使用スルノ必要ヲ感ゼザリシガ此ノ日ノ行軍ニ在リテハ之ヲ使用スルニアラザレバ鼻部ニ疼痛ヲ感ズル程度ニシテ顔面輕度ノ凍傷ニ罹リタル者數名ヲ出セリ

又道路ハ沙漠地帯ヲ通ジ沙雪相混ジテ蹄底ニ凍結シ車輪ハ沙中深ク没入シ加フルニ吹雪ノ爲通視竝ニ連絡至難ニシテ諸隊就中砲兵及自動車班裝甲自動車ハ出發以來故障續出セル爲止ムヲ得ズ之ヲ道徳營子ニ殘置シ乘員ヲ校以下十二名(輕機關銃四挺ヲ卸下携行ス)ハ自動車班長ノ部下ニ復歸セリノ行軍澁滞シ又沿道ハ人家極メテ少ク休憩ノ實施及馬ノ水與等困難ナリシガ主力ハ午後六時過、自動車班ハ同七時辛ウジテ金家店(「バースカ」東)ニ達シ宿營セリ

附記 旅團長ハ此ノ夜無線ニ依リ軍及師團ト連絡セントセシガ冷却セル電球ヲ急ニ暖メタル爲曇リヲ生ジ通信不可能ナリキ

左縱隊タル騎兵第二十五聯隊第二中隊欠、機關銃一小隊ハ二十二日午前八時三十分及同九時三十分彰武出發ノ二列車ニテ通遼ニ輸送セラレシガ途中機關車故障ノ爲到着遲延シ翌二十三日午前二時頃通遼ニ下車集結シ大休止ノ後同六時同地出發、「チエールト」王府ニ向ヒ前進セリ

途中吹雪ニ惱マサレテ行軍澁滞シ目的地ニ達スルヲ得ズシテ午後六時頃「ソアンアイラ」「チエールト」王府東南方約七軒ニ達シ宿營セリ

二十四日ノ狀況

右縱隊ハ二十四日午前五時宿營地ヲ出發ス此ノ日雪歇ミタルモ西北風依然強烈ナリ旅團長ハ午前九時五十分開魯ニ到着スルヤ諸隊ニ大休止ヲ命ジ且小柳津支隊ヲシテ洮遼軍ノ來著ヲ待ツテ林西方向ニ前進セシムル爲同地ニ殘置シ且諸調査ノ結果「所命ノ進路タル西喇木倫河右岸ニ沿フ道路ハ不良ニシテ特ニ梧桐好懶北方ノ沙漠地帯ハ車輛ノ通過不可能ナルコト及李海青ノ率キル兵匪ハ興蒙公司方向ヨリ西方ニ退却中ナルコト」ヲ知り豫定ノ進路ヲ變更シ八仙洞ヲ經テ梧桐好懶附近ニ進出シテ下窪ニ對スル攻撃ヲ準備スルニ決シ前衛ヲシテ午前十一時、本隊ヲシテ午後零時三十分各宿營地出發大段地ヲ經テ八仙洞ニ向ヒ前進セシメタリ

附記 開魯ニハ李守信ノ蒙古兵數百殘留シアリテ旅團ヲ迎フ旅團長ハ大休止間特ニ李守信ヲ招致シ小柳津支隊長ヲ紹介シ今後其ノ指導ヲ受クベキヲ命ジ暫ク會談セリ爾後李ハ小柳津支隊長ト起居ヲ共ニシ克ク其ノ指導ニ服シ且支隊ノ爲大イニ盡力スル所アリキ

右縱隊前衛ハ旅團命令ニ基キ大行李ノ追及ヲ待ツコトナク開魯ヲ出發シ西喇木倫河ノ氷上ヲ通過シテ南岸ニ移リ大段地附近ニ於テ約三百ノ敵匪ヲ擊退シ爾後沙漠地ヲ通過シテ午後九時三十分頃中乃店子八仙洞北方約十四軒ニ達シ恰モ同地ニ宿營シアリシニ、三十ノ敵匪ヲ擊退シテ部隊ヲ集結セリ然ルニ同地ニハ若干ノ陋屋アルノミニシテ井戸ナク物資亦一物モナキ狀況ナリシヲ以テ翌二十五日早曉出發シ八仙洞ニ向ヒ前進ス

途中大叭嘎屯八仙洞北方約三軒附近及八仙洞北方約六百米ノ無名部落附近ニ於テ二、三百ノ敵匪ヲ擊退シ午前十

時三十分八仙洞ニ到着セリ然ルニ第六師團右縱隊快速部隊亦同地ニ到着セシヲ以テ之ト連絡ノ上同部隊出發後續イテ前進シ二十六日午前零時三十分興隆地ニ到着宿營セリ

右縱隊本隊ハ住民ノ案内ニ依リ前衛ノ進路ヲ前進セシガ西喇木倫河以南ノ沙漠地帯ニ於テ特ニ車輛部隊ノ行軍滯滯シ爲ニ多大ノ時間ヲ費シ途中日没トナリ道路亦不明ニシテ前衛トノ連絡絶エ追及スベクモアラズ

「ホーチンスム」(北)附近ノ戰

然ルニ午後十時頃雪中ニ畑地ヲ發見シ且犬ノ吠聲ヲ聞キシヲ以テ人家アルモノト判斷シ附近ヲ搜索セシニ丘阜ノ蔭ニ一軒家アリ家人ノ言ニ依リ前方約一軒ノ集團家屋内ニ李海青ノ率キル七、八百ノ敵匪宿營シアルコトヲ知ル

當時大行李、自動車班及騎兵第二十五聯隊主力ハ遠ク後方ニ在リテ旅團長ノ手裡ニ在リシモノハ旅團司令部、騎兵第二十五聯隊第二中隊ノ半小隊、機關銃隊(二小隊、二分隊欠)、騎砲兵中隊(一小隊及通信班、無線二ノ分隊欠)、ミナリ然レドモ旅團ハ李海青軍ニ對シテハ嘗テ二回ニ互リ之ヲ潰走セシメタル經驗ヲ有スルヲ以テ兵力ノ懸隔ヲ意ニ介スルコトナク使用シ得ル最大限ノ徒步部隊ヲ集メ夜襲ヲ決行ス敵ハ我が奇襲ニ遭フヤ周章狼狽シテ潰走セリ

「ホーチンスム」(西)附近ノ戰

夜襲部隊ハ更ニ夜行軍ヲ續行シ二十五日午前二時頃「ホーチンスム」(西)西南側地區ニ達シ騎砲兵中隊トノ連絡恢復ノ爲暫時停止シテ其ノ到着ヲ待ツ間兵力未詳ノ敵ノ夜襲ヲ受ケタルヲ以テ直チニ應戰

シ之ヲ東南方ニ擊退セリ續イテ退却中ナル敵ノ大行李ヲ發見シテ之ヲ襲ヒ更ニ拂曉約三百ノ敵騎後方ヨリ前進シ來レルヲ發見セシヲ以テ直チニ攻撃ヲ加ヘタルニ敵ハ急遽反轉シテ東南方ニ退却セリ

是ヨリ先大行李(騎兵第二十五聯隊第二中隊、一、自動車班及騎砲兵中隊ハ行軍遲滯シ「ホーチンスム」(北)北側地區ニ於テ進退谷ルノ狀況ニ在リシガ午前四時旅團司令部ヨリ太田黒中尉連絡ノ爲馳來リ左記要旨ノ命令ヲ傳達セリ

旅團命令ノ要旨

旅團主力ハ午前二時頃兵力未詳ノ敵ノ夜襲ヲ受ケタルモ之ヲ東南方ニ擊退セリ大行李ハ現在地附近ニ位置シ至嚴ナル警戒裡ニ夜ヲ徹シ拂曉ヲ待ツテ追及スベシ

斯クテ前記諸隊ハ二十五日午前五時三十分東天漸ク白ミタルヲ以テ直チニ前進ヲ開始シ同六時十分頃北方及西方ヨリ逃走シ來レル合計約三百ノ敵騎ニ遭遇シ射撃ヲ以テ之ヲ東南方ニ潰走セシメ更ニ旅團主力ニ追及スベク前進ヲ續行セリ

旅團長ハ更ニ追撃ヲ續行セントシタルモ前日正午以來ノ行動ニ依リ人馬ノ疲勞甚大ナリシ爲約四時間ノ大休止ヲ實施シテ人馬ノ給養並ニ部隊ノ集結ヲ圖リ(騎兵第二十五聯隊主力、騎砲兵中隊及大行李到着ス)午前十時再ビ出發シ(午前十一時自動車班追及ス)途中第六師團右縱隊ノ進路ヲ先行セル騎兵第十聯隊ト相會シ午後三時過共ニ八仙洞ニ到着宿營ス

左縱隊ハ二十四日午前六時過「ソアンアイラ」ヲ出發シ八段（「オーボエーラ」）ニ向ヒ前進セシガ極寒ノ沙漠地ヲ通過ノ爲特ニ大行李ノ行動著シク滯留シ午後五時三十分辛ウジテ「スプト」(西)ニ達シ一泊ノ上翌二十五日午前六時宿營地出發衙門營子地形圖上ノ衙門營子ニ向ヒ前進シ同八時「ホーチンスムー」(西)ニ達シ偶々同地ニ休止中ノ旅團主力ニ合セリ

二十六、二十七、日ノ狀況

騎兵第二十六聯隊主力旅團長ハ前衛タル上記部隊ガ主力ト連絡絶ユルニ至リハ二十六日午前七時興隆地ニ於テ休憩中旅團ヨリ派遣セラレタル自動貨車四輛ニ依リ糧秣人糧一日分、馬糧一日半分ノ補給ヲ受ケ勇躍前進ヲ續行シ午前九時新ニ配屬セラレタル無線電信一分隊自動貨車搭載竝ニ第三中隊ノ一小隊騎兵砲一分隊亦聯隊ニ追及シテ其ノ指揮下ニ入り更ニ午前十時三十分友軍飛行機ヨリ「下窪附近ノ敵匪ハ西方及西南方ニ退却中ナリ」トノ通報ニ接ス是ニ於テ聯隊長ハ無線ヲ以テ二十四日以來ノ行動ヲ旅團長ニ報告シ更ニ午後二時興隆地ヲ出發同八時三十分下窪ニ到着シ次デ同夜十一時三十分左記要旨ノ旅團命令ヲ受領セリ

旅團命令ノ要旨

- 一 旅團ハ午後六時興隆地ニ達シ二十七日赤峰ニ向ヒ追撃ス之ガ爲二十七日十二古子梧桐好嶺西南ニ方約十五軒前進ス
- 二 貴隊ハ二十七日捷路ヲ經テ十二古子ニ前進スベシ
- 三 配屬自動車ハ興隆地ニ來リ燃料ヲ補給セシムベシ

聯隊ハ右命令ニ基キ翌二十七日午前七時宿營地出發途中數次ニ互リ微弱ナル敵匪ヲ撃退シ午後五時頃十二古子ヲ占領シ更ニ同地西北方約四軒ナル北營ニ約二百ノ敵匪アルヲ知り直チニ之ヲ攻撃シテ同七時同地ヲ占領シ宿營ニ移ル

同日夜半聯隊ハ糧秣人糧一日分、馬糧半日分ノ補給ヲ受クルト共ニ「自今搜索隊トナリ二十八日小哈拉道口附近ニ、

三月一日赤峰附近ニ前進シ同地附近ノ敵情ヲ搜索スベキ」旅團命令ヲ受領セリ

旅團主力ハ二十六日午前五時二十分八仙洞出發、騎兵第十聯隊ヲ併セ區處シ新ニ騎兵第二十五聯隊一中隊欠ヲ前衛トシテ興隆地ニ向ヒ前進セシガ沿道數十軒ニ互リ我が快速部隊及騎兵第二十六聯隊主力ノ追撃ニ依リ潰走セル敵ノ遺棄セシ行李及人馬ノ死體散亂シアル狀景ヲ目撃シツツ前衛ハ午後四時、本隊ハ同六時目的地タル興隆地ニ到着セシモ大行李及自動車班ノ到着ハ夜半以降トナレリ道路ハ良好ナルモ敵ノ遺棄セル行李及人馬ノ死體ニ依リ行軍滯留ス

旅團主力ハ二十七日午前六時出發興隆地西方ノ沙漠地帯ヲ横斷シ途中少數ノ敵匪ヲ驅逐シツツ午後三時頃馬家店ニ達シ附近ノ諸部落ニ分散宿營セリ而シテ此ノ日行程少ク且午後ハ道路良好ナリシ爲大行李及自動車班ハ同五時三十分宿營地ニ到着シ旅團主力ハ其ノ糧秣ヲ使用スルヲ得タリ

搜索隊ハ二十八日午前六時三十分北營出發小哈拉道口ニ向ヒ前進セシガ途中新窩舖、曲家灣子、五牌子等ニ於テ微弱ナル敵ヲ撃退シ午後四時頃頭牌子附近ニ於テ約三百ノ敵匪ヲ攻撃シ之ヲ西方ニ撃退シ

二十八日ノ狀況

テ同五時十分頭牌子ニ達シ宿營ス

旅團主力ハ同日午前五時馬家店出發小哈拉道口附近ニ向ヒ前進セシガ同十一時頃飛行機ノ通報ニ依リ『敵ノ大縱隊ハ曲家灣子附近ヲ退却中ニシテ其ノ大部ハ烏丹城方向ニ移動中ナル』ヲ知り騎兵第十聯隊ヲシテ馬蓮廠附近ニ宿營シテ敵方ニ對スル警戒ニ任ゼシメ其ノ他ヲ以テ午後六時頃五牌子附近ニ達シ宿營ス

此ノ日亦道路比較的良好ニシテ大行李及自動車班迅速ニ宿營地ニ到着セシガ既ニ携行セル馬糧ハ連日ニ互ル不毛地ノ通過ニ依リ其ノ全部ヲ消耗シ附近一帶ヲ隈ナク搜索シテ粟、稗、高粱等若干ヲ收集セシモ所要量ヲ充タス能ハザリキ

所見 騎兵大部隊ノ積雪不毛地ニ於ケル連續機動作戰實施ニ就テ

一、支那馬車ヲ以テスル大行李ノ編成要領

大行李ガ部隊ニ追隨シ得ル爲ニハ各車ノ積載量ヲ輕減スルヲ要スルヲ以テ車輛數ヲ增加スベキハ止ムヲ得ザル所ナリ而シテ本作戰ノ結果ニ徴スルニ初期ニ於テ一車四馬曳トシ積載量ヲ二百五十疋以內トスレバ可ナルガ如シ  
爾後日々其ノ糧秣ヲ使用シテ空車輛ヲ生ズベキヲ以テ他車ノ積載品ヲ若干ツツ之ニ積ミ換フレバ車輛ノ破損、馬ノ疲勞ヲ緩和スルヲ以テ追隨困難ナラズ

二、部隊ノ行動實施要領

- 1 部隊ハ特ニ馬ノ疲勞ヲ輕減スル爲歩度ハ通常常歩ヲ用フルヲ可トシ行軍行程ヲ增大スル爲ニハ休憩回數ヲ減ズルヲ要ス
- 2 日々ノ行軍ハ夕食ヲモ携行シ早朝出發シテ日没前宿營地ニ到着スルヲ可トス蓋シ斯クノ如クスルトキハ警戒上便ナルノミ

ナラズ宿營、給養上モ井泉ノ搜索、現地物資ノ收集其ノ他就宿準備等ニ便ニシテ從ツテ睡眠時間モ亦比較的多クシ得ルノ利アレバナリ

3 大行李ノ追隨ヲ容易ナラシムル爲ニハ部隊ノ行軍ハ隔日毎ニ行程ヲ加減スルヲ可トス本作戰間ニ於テモ概ネ此ノ要領ニ依リ行軍ヲ實施セシガ行程ヲ短縮シタル日ニ於テハ大行李糧秣ヲ使用シ得タリ

4 本作戰ノ如ク敵中深く挺進シテ行動スル場合ニ於テハ騎兵約一中隊ヲ常時大行李擁護タラシムルヲ要ス而シテ大行李ガ旅團主力ノ位置ニ在ル場合ニ於テハ該中隊ヲシテ側背ノ搜索、警戒及司令部ノ直接警戒ヲモ兼ネシメ又戰團ニ方リテハ豫備隊タラシメ得ベシ

其ノ二 赤峰附近ノ戰鬪

甲 戰場ノ狀態並ニ氣象

赤峰附近ハ市街ヲ中心トシテ四周ニ山ヲ繞ラシ西路嘎河ノ諸支流相會スル盆地ニシテ市街東北方ニハ岩石峨々タル赤峰<sup>高地</sup>聳エテ四周ヲ俯瞰シ其ノ稜線ハ東南方ニ恰モ赤峰市街ヲ抱クガ如ク半圓形ニ趨リ一間房附近ニ於テ鞍部ヲ成形ス

平地並ニ丘阜地ハ一般ニ沙漠狀ヲ呈シ一間房附近ハ東西ニ對シ緩徐ナル斜面ヲ成スモ小ナル起伏多ク伏臥セバ敵火ヲ避クベキ死角隨處ニ之ヲ求メ得ベシ

赤峰城門ハ煉瓦ヲ以テ築キ城門上部ニ射擊設備ヲ有シ門扉ハ木造ナルモ鐵板ヲ以テ覆ヒ且城内ノ主ナル道路ハ屈曲シテ赤峰東方高地ヨリ通視スルヲ得ズ更ニ城門内部ニ一箇ノ望樓ヲ有ス

三月一、二日共日中ハ快晴ナリシモ一日ハ月齡五ニシテ夕刻ヨリ東北風起リ夜半ハ星光淡ク殆ド暗黒

ニシテ相當寒冷ヲ覺エタリ

乙 三月一日夜迄ノ狀況

(イ) 搜索隊ノ行動挿圖第二、第三參照

二月二十八日夜搜索隊長長騎兵第二十六聯隊長大佐黒谷正忠ハ頭牌子ニ宿營中在五牌子騎兵第四旅團長ヨリ『旅團ハ明三月一日赤峰ニ向ヒ敵ヲ追撃スル爲先ヅ元寶隆附近ニ向ヒ前進スベキヲ以テ搜索隊ハ明一日老爺廟附近ニ前進シ赤峰附近ノ敵ノ有無及其ノ陣地ヲ偵察スベキ』命令ヲ受領セシヲ以テ翌三月一日午前六時宿營地ヲ出發シ隨處ニ敵ノ敗殘兵ヲ驅逐シツツ同十一時三十分那清溝西南方約三軒附近ニ達スルヤ友軍飛行機ニ依リ『赤峰東方高地ノ敵陣地ニハ守兵ヲ又赤峰市内ニハ匪賊及住民ノ影ヲ認メザル』旨ノ通報ヲ受領シ更ニ他ノ飛行機ノ通報ニ依リ『午前十時四十分約二千ノ匪賊ハ建昌營子、元寶隆間ヲ赤峰方向ニ退却中ナル』コトヲ知ル

搜索隊ハ午後三時三十分老爺廟ニ達スルヤ兵力一千ヲ下ラザル敵ハ二縱隊トナリ砲手營子ヨリ西方及西南方ニ退却中ナルヲ目撃シ直チニ河岸ニ展開シテ之ヲ攻撃シ西方ニ潰走セシム  
此ノ頃搜索隊長ハ我が旅團主力其ノ先頭ヲ以テ西路嘎河ニ達シ續イテ前進中ナルヲ目撃セシヲ以テ直チニ赤峰東方高地ニ進出シ敵ノ退路ヲ遮斷スルニ決シ此ノ旨旅團長ニ報告スルト共ニ以下挿圖尖兵中隊(一)小隊(二)機關銃一小隊局嶺底下西方高地ニ向ヒ急進セシメ主力ハ嶺底下西北側高地ニ向ヒ前進ス

尖兵中隊ハ午後五時頃嶺底下西側高地ニ又主力ハ樹林子ヨリ直路前進シテ嶺底下西北側高地ニ到着ス  
搜索隊長ハ赤峰東方高地ノ敵ハ其ノ兵力大ナラザルヲ視察シ直チニ嶺底下西方鞍部附近ノ敵陣地ヲ攻撃スルニ決シ左記命令ヲ下達セリ

搜索隊命令 三月一日午後五時 於嶺底下西北側高地

- 一 兵力未詳ノ敵ハ赤峰東方高地ニ陣地ヲ占領シアリ
- 二 搜索隊ハ速カニ該陣地ノ敵ヲ攻撃セントス
- 三 右ヨリ第一中隊一小隊欠、機關銃二分隊局、第三中隊一小隊欠、旅團機關銃二分隊局ハ第一線トナリ即時嶺底下西北方高地ニ展開シ敵ヲ攻撃スベシ

搜索隊攻撃ノ重點ハ嶺底下—赤峰道鞍部北側高地トス

- 四 騎兵砲分隊ハ嶺底下西北側高地ニ陣地ヲ占領シ嶺底下西方鞍部附近ノ敵ヲ射撃シ第一中隊ノ攻撃ニ協力スベシ

- 五 聯隊機關銃二分隊ハ嶺底下西北側高地ニ陣地ヲ占領シ主トシテ第一中隊ノ攻撃ニ協力スベシ
- 六 芳野小隊第三中隊一小隊及輕機關銃二分隊ハ豫備隊トス嶺底下西北側高地端ニ位置スベシ
- 七 予ハ嶺底下西北側高地ニ在リ爾後第一中隊ノ後方ヲ前進ス

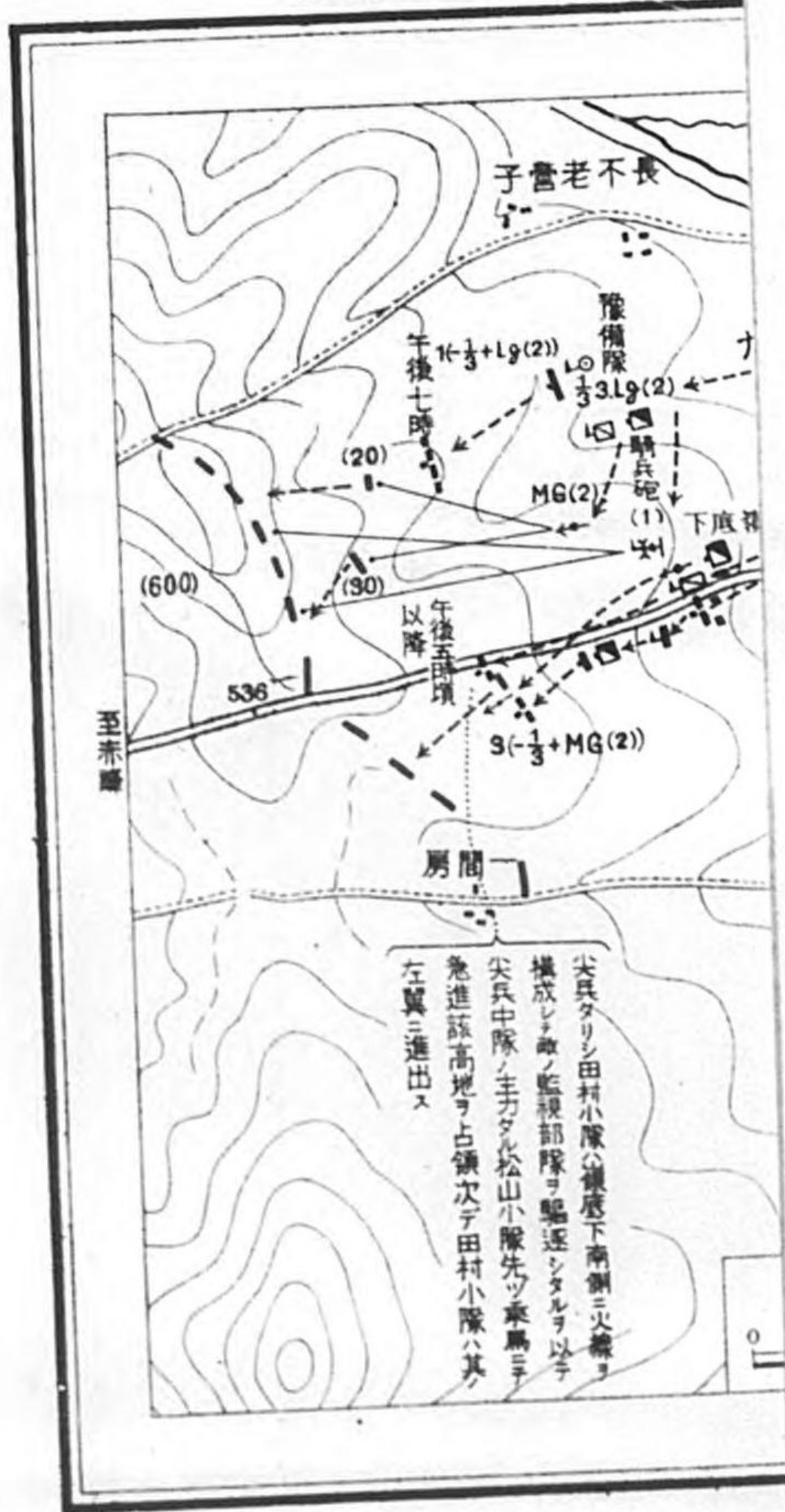
搜索隊長 黒谷大佐

下達法

第一中隊、輕機關銃小隊長、豫備隊長ヲ集メ口達、後筆記セルモノヲ送付ス。  
 第三中隊、旅團機關銃分隊長ニハ筆記セルモノヲ送付ス。  
 右命令ニ基キ各隊ハ所命ノ如ク午後五時二十分乃至同三十分ノ間ニ展開シ續イテ攻撃前進ヲ開始ス。  
 此ノ頃敵ハ逐次陣地ノ守兵ヲ増加シ嶺底下—赤峰道以北ノ陣地ノミニテモ其ノ數五、六百ヲ下ラザル  
 ガ如ク我が前進ヲ認ムルヤ一齊ニ射撃ヲ開始ス我が第一線各隊ハ漸次敵ニ近接シ陣前約七百米ニ達シ  
 タルモ夕開戰場ニ薄リシ爲彼我ノ銃聲漸次緩慢トナレリ

地搜索隊戰經要圖

自一月一日午後四時三十分頃  
 至一月一日午後七時頃



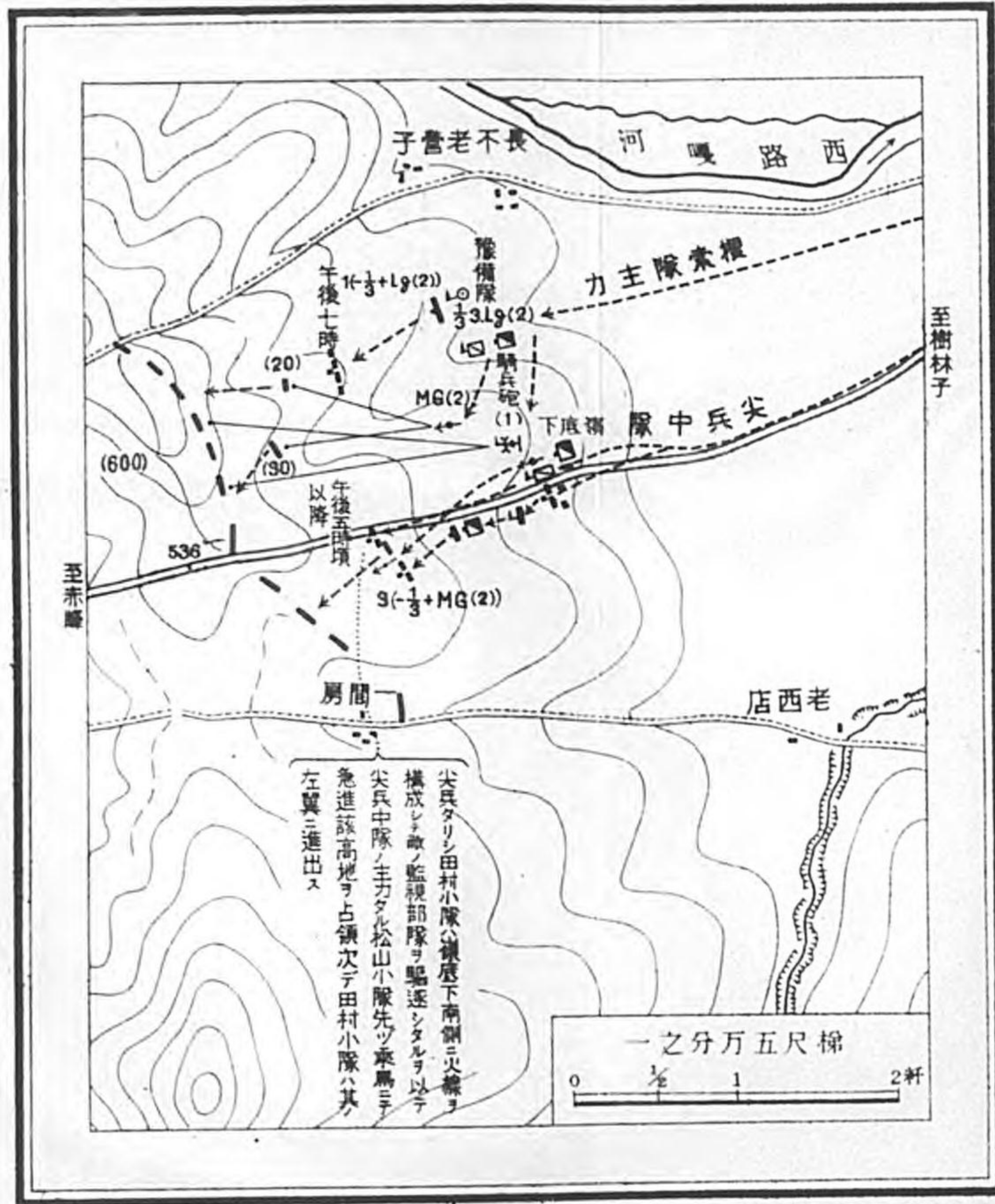
敵情ハ貴官ノ知ル通り

第二節 集中竝ニ赤峰ノ占領



赤峰東方高地搜索隊戰鬥經過要圖

昭和八年三月一日自午後四時三十分至  
 午後七時頃



插圖第二



是ヨリ先搜索隊長ハ赤峰東方高地ヲ攻撃中一日午後元寶隆發左記要旨ノ旅團命令ヲ受領スルト共ニ旅團前衛タル騎兵第二十五聯隊主力ハ既ニ日沒前嶺底下ニ到着セルヲ知ル

騎兵第四旅團命令ノ要旨

- 一 旅團ハ赤峰東方高地ニ向ヒ追撃ヲ續行スル目的ヲ以テ旅團主力ハ明二日午前六時出發先ヅ砲手營子ニ向ヒ前進セントス
- 騎兵第二十五聯隊 第二中隊ハ赤峰東方高地ニ前進セシム
- 二 搜索隊ハ赤峰東方高地ノ敵陣地ヲ偵察シ爲シ得レバ赤峰東端ヲ占領スベシ
- 尙明二日搜索隊ハ主力ヲ以テ依然赤峰東端ニ在リテ搜索ヲ續行シ旅團主力ノ來著ヲ待ツテ入城スベシ

附記 騎兵第二十五聯隊第二中隊ハ旅團大行李ノ掩護ニ使用セラレアリ

是ニ於テ搜索隊長ハ午後七時旅團長ニ對シ現在迄ノ狀況ヲ報告シ且本夜夜襲ヲ以テ前面ノ敵陣地ヲ攻略スルヲ可トスベキ意見ヲ具申セシガ同八時三十分嶺底下ニ到着セシ旅團長ヨリ左記要旨ノ命令ヲ受領セリ

騎兵第四旅團命令ノ要旨

- 一 敵情ハ貴官ノ知ル通り

第二節 集中竝ニ赤峰ノ占領

- 二 旅團ハ本夜敵陣地ニ對シ夜襲シテ之ヲ奪取シ續イテ赤峰東端ヲ占領セントス
- 三 舊搜索隊配屬故ノ如シハ第一線トナリ敵陣地左翼ニ對シ夜襲シ之ヲ奪取スベシ
- 四 爾餘ノ部隊ハ第二線部隊トス

右命令ニ基キ聯隊長ハ左記命令ヲ下達セリ以下挿圖 第三參照

騎兵第二十六聯隊命令三月一日午後九時三十分 於嶺底下西北側高地

- 一 敵ハ依然陣地ヲ守備シアリテ其ノ陣地ハ少クモ二線註、聯隊長ノ判斷ナリアルモノノ如シ  
旅團騎兵第十聯隊屬ハ本一日夜前面ノ敵ヲ夜襲シ續イテ赤峰東端ヲ攻略ス
- 二 聯隊第二中隊、第一中隊ノ一小隊及騎兵砲一分隊欠、旅團機關銃二分隊、無線一分隊及自動貨車二輛屬ハ本夜十二時ヲ期シ前面ノ敵ヲ夜襲セントス  
旅團主力ハ第二線部隊トナリ其ノ一部ハ聯隊ノ左側ヲ警戒スル筈
- 三 第一中隊一小隊欠ハ右第一線、第三中隊一小隊欠ハ左第一線トナリ第一中隊基準、午前零時現在地出發  
敵陣地ヲ夜襲スベシ
- 敵ノ第一線陣地夜襲後ハ暫時隊伍ヲ整ヘタル後別命ニ依リ敵ノ後方ニ向フモノトス第三中隊ハ午後十時其ノ線ヲ撤シ聯隊主力ノ位置ニ來リ夜襲ヲ準備スルモノトス
- 四 第三中隊ノ一小隊、輕機關銃小隊騎兵砲一分隊欠、旅團機關銃二分隊ハ豫備隊トス芳野中尉ノ指揮ヲ以テ第一線ノ中央後百米ヲ續行スベシ

- 五 各中隊ハ全數下馬トシ手馬ハ現在地ニ位置スベシ  
各中隊ハ手馬掩護トシテ下士官以下五ヲ附スベシ
- 六 無線班ハ手馬ト共ニ現在地ニ位置スベシ
- 七 予ハ豫備隊ト共ニ前進ス

聯隊長 黒谷騎兵大佐

### 下達法

各隊命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

右命令ニ基キ各隊ハ準備ヲ整ヘ第三中隊亦午後十一時主力ノ位置ニ到著ス  
此ノ間敵ハ陣地ノ全線ニ互リ斷續的ニ射撃ヲ繼續シツツアリシモ夜十二時稍々前頃ヨリ全ク射撃ヲ中止セリ

聯隊ハ二日午前零時三十分第一中隊第一小隊長中尉 西平健太郎ノ誘導ニ依リ前進ヲ開始シ敵ヨリ射撃ヲ受クルコトナク既設散兵壕ニ達セルモ敵ノ片影ダニ認メザリシヲ以テ不審ヲ懷キタル儘前進ヲ續行シテ遂ニ同二時二十分頃稜線上ニ進出シ眼下ニ赤峰市街ノ煌々タル電光ヲ望見ス  
是ニ於テ聯隊長ハ敵ハ既ニ赤峰城内ニ退却セルモノト判斷シ直チニ赤峰入城ノ準備ヲ爲ス爲一旦熟地タル嶺底下ニ兵力ヲ集結シタル後方向ヲ判定シテ手馬ノ位置ニ集結セントシ後退スルコト約二百米

偶々嶺底下附近旅團主力方面ニ於テ激烈ナル銃砲聲ヲ聞キ且五三六北側高地附近ニ迫撃砲ノ火光ヲ望見セシヲ以テ旅團主力ガ敵襲ヲ受ケツツアルモノト判斷シ嶺底下ニ急行シテ救援セントセシモ旅團主力ノ露營火ハ敵襲ノ際急ニ消滅セラレテ全ク暗黒トナリ爲ニ行進方向ノ維持困難トナリシヲ以テ先ヅ南方ノ敵迫撃砲陣地ヲ夜襲セントシテ同方向ノ上空ニ燿ク星光ヲ目標トシテ南進シ鞍部附近ニ達スルヤ突如兵力未詳ノ敵ト遭遇シタルヲ以テ直チニ射撃ニ依リ之ヲ擊退シ敵ノ遺棄セル輕迫撃砲二門ヲ鹵獲セリ

附記

聯隊長ハ當時赤峰東方高地ニ在リシ敵ハ數日來我ガ聯隊ノ迫撃ヲ受ケタル敗敵ノミニシテ其ノ兵力モ亦大ナラザルモノト判斷シアリタリ

此ノ頃嶺底下南側地區ノ銃砲聲熄ミ戰場再ビ靜寂ニ歸セシヲ以テ聯隊ハ友軍相擊ヲ戒ムル爲メ喇叭ヲ吹奏シツツ嶺底下西方約百米ノ地點ニ達シ人員ヲ點呼シ更ニ前進シテ其ノ先頭タル第一中隊ガ部落西端ニ達セントスル際俄然嶺底下南方ニ再ビ銃聲起リ敵兵夜襲シ來レルコトヲ知ル第三中隊ハ直チニ展開シテ敵ノ左翼ニ對シ猛射ヲ加フ第一中隊ハ騎兵第二十五聯隊第一中隊ノ直後ニ在リシ爲應戰シアラズ時ニ午前三時頃ナリ同四時頃敵ハ全ク退却セシヲ以テ聯隊ハ直チニ部落西南側ニ兵力ヲ集結ス此ノ間聯隊長ハ旅團長ニ聯隊夜襲ノ狀況ヲ報告スルト共ニ更ニ天明後旅團主力ノ前進ヲ容易ナラシムル爲メ旅團命令ニ基キ同四時五十分命令ヲ下達シ第一中隊一小隊欠、機關銃二分隊屬ニ對シ前ニ進出セシ赤峰東方高地ヲ再ビ占領スベキヲ命ジ爾餘ハ手馬ノ位置ニ集結スル爲メ同五時頃移動ヲ開始ス

附記

- 一 此ノ頃搜索隊手馬ノ位置ニ於テハ拂曉時約二百ノ敵兵北方ヨリ夜襲シ來リシガ同位置ニ在リシ三等戰醫正鈴木春次ハ所在ノ手馬擁護兵約十名及第三中隊機關銃一分隊並ニ手馬兵等ヲ併セ指揮シテ應戰シ遂ニ之ヲ西北方ニ擊退セリ
- 二 敵陣地ノ守兵ハ我ガ聯隊ノ夜襲決行前嶺底下ヲ夜襲セント欲シ移動ヲ開始セシモノノ如シ之ガ爲陣地ハ空虚トナリ又移動セシ敵ノ一部ハ方向ヲ失シ天明時迄附近ヲ徘徊セシモノノ如ク聯隊ハ五十乃至百ノ敵ト不期ニ各所ニ於テ衝突セリ

赤峰東方高地騎兵第六十二聯隊夜襲經過要圖

昭和八年三月一日夜

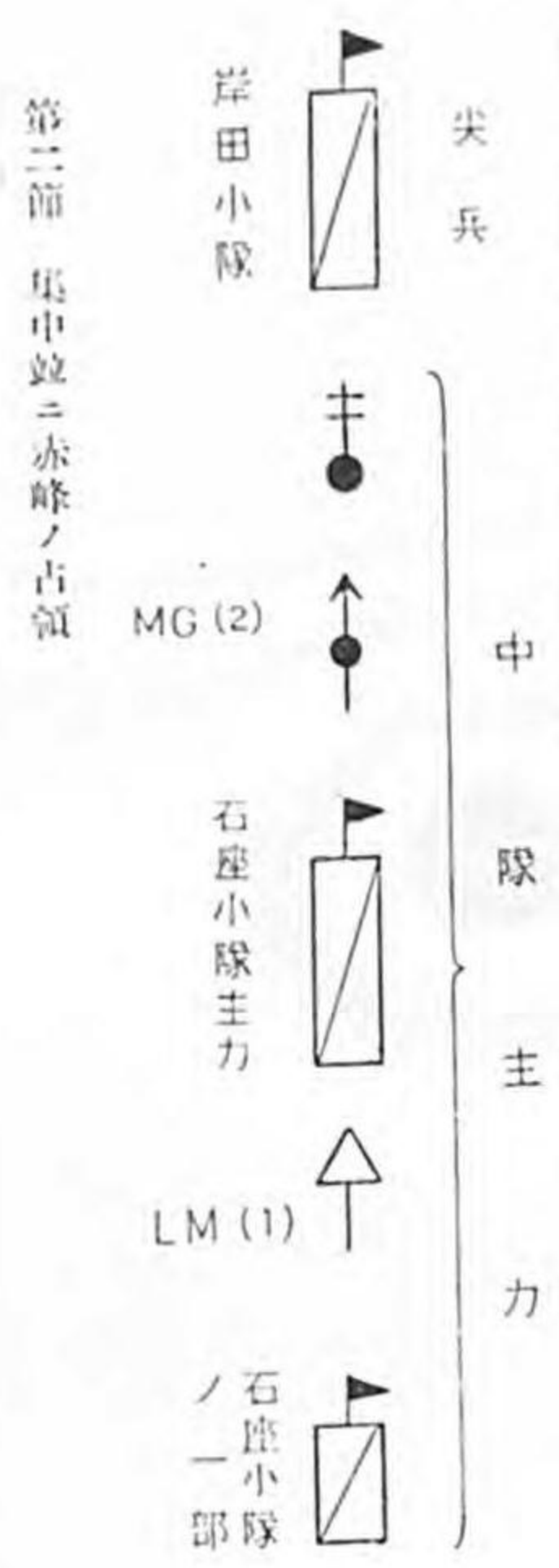
插圖第三



(ロ) 旅團主力方面ノ狀況 挿圖第四参照

旅團主力 騎兵第十聯隊屬 騎兵第二十五聯隊 一中隊欠、旅團機關銃二分隊屬 ヲ前衛トシテ三月一日午前六時五牌子附近ヲ出發シ先ヅ元寶隆附近ニ向ヒ前進セシガ途中小哈拉道口ニ於テ馬糧ヲ發見シ小休止間ヲ利用シテ前夜來ノ馬糧不足ヲ補ヒ續イテ前進ス午後二時頃元寶隆東北方ニ達スルヤ飛行機ノ通報ニ依リ「赤峰附近ハ積雪ノ爲偵察困難ナルモ同地東方高地ニハ敵兵アラザルガ如ク尙約一千ノ敵兵ハ午前十時四十分建昌營子「興隆窪道ヲ赤峰ニ向ヒ退却中ナル」コトヲ知り前衛ヲシテ赤峰東方高地ニ向ヒ前進シ搜索隊ノ直接支援ニ任ゼシメ主力ハ搜索隊ノ攻撃ヲ受ケテ潰走セル敵ノ遺棄死體其ノ他車輛、彈藥、被服等ノ散亂セル道路ヲ砲手營子ニ向ヒ前進ス

嶺底下ニ向ヒ前進中ノ前衛 長騎兵大佐山岡潔、騎兵第二十五聯隊(第二中隊欠、旅團機關銃二分隊屬) ハ午後四時稍々前尖兵中隊 第一中隊(一小隊欠、ノ先頭ヲ以テ新店 嶺底下東北東方約二軒 附近ニ達ス 當時ニ於ケル尖兵中隊ノ行軍順序左ノ如シ



第二節 集中竝ニ赤峰ノ占領

此ノトキ豫テ搜索隊ト連絡シ且嶺底下附近地形偵察ノ爲砲手營子附近ヨリ派遣シタル機關銃小隊長

中尉 稻波弘次 及尖兵長少尉 岸田秀雄 共ニ歸來シ左ノ報告竝ニ意見具申ヲ爲ス 以下挿圖 第四參照

- 一 搜索隊ハ嶺底下西方高地ニ集結シ五三六附近ノ敵陣地ヲ攻撃準備中ナリ
- 二 若干ノ車輛ヲ有スル約三百ノ敵ハ老西店 嶺底下東南 方約二軒 附近ヲ先頭トシテ西方ニ向ヒ前進中ナリ
- 三 中隊ハ速カニ之ヲ攻撃スルヲ可トス

尖兵中隊長 大尉 太田紋三郎 ハ右意見具申ヲ採用シ直チニ乘馬攻撃ヲ敢行スルニ決シ前衛司令官ニ此ノ旨報告スルト共ニ搜索隊ニ通報シ下士斥候ヲ派遣シテ瓦房 老西店東 方約一軒 附近ノ搜索竝ニ地形偵察ニ任ゼシメ中隊ハ直チニ東南方ニ向ヒ攻撃前進ヲ開始ス然ルニ老西店內ニ停止シアリシ約百ノ敵ハ狼狽シテ西方ニ潰走シ別ニ瓦房、老西店間ヲ西進中ナル敵部隊ハ反轉シテ紅廟子方向ニ退却ヲ開始ス時ニ中隊長ハ前方ニ派遣セル下士斥候ヨリ「地形ハ乘馬部隊ノ通過困難ナリ」トノ報告ニ接シ且同斥候ハ地隙ニ沿ヒ通過點ヲ索メテ西南方ニ移行スルヲ望見ス

是ニ於テ中隊長ハ機關銃小隊長ヲシテ迫撃砲分隊ヲ併セ指揮シ前面ノ敵ヲ射撃セシムルト共ニ斥候ヲ目標トシテ一伍縱隊トナリ地隙 幅八米、深サ十米 ヲ通過シテ對岸ニ進出シ先頭ノ岸田小隊先ヅ敵ニ追及シテ之ヲ蹂躪セリ中隊長ハ石座小隊ヲシテ岸田小隊ノ左翼ヨリ敵ヲ攻撃セシメ更ニ家屋内ニ遁入セル敵ニ對シ一分隊ヲ以テ掃蕩ニ任ゼシメ爾後主力ヲ以テ右前方ノ高地方向ヨリ徒歩ニテ攻撃前進セシガ敵ハ逐次

東南方ニ退却セリ

時ニ午後五時三十分ニシテ夕陽既ニ沒シ赤峰方向ノ銃聲亦熄ム是ニ於テ中隊長ハ石座小隊ヲシテ戰場掃除ヲ行ハシメ主力ハ暗ヲ衝イテ同八時頃嶺底下ニ集結ス

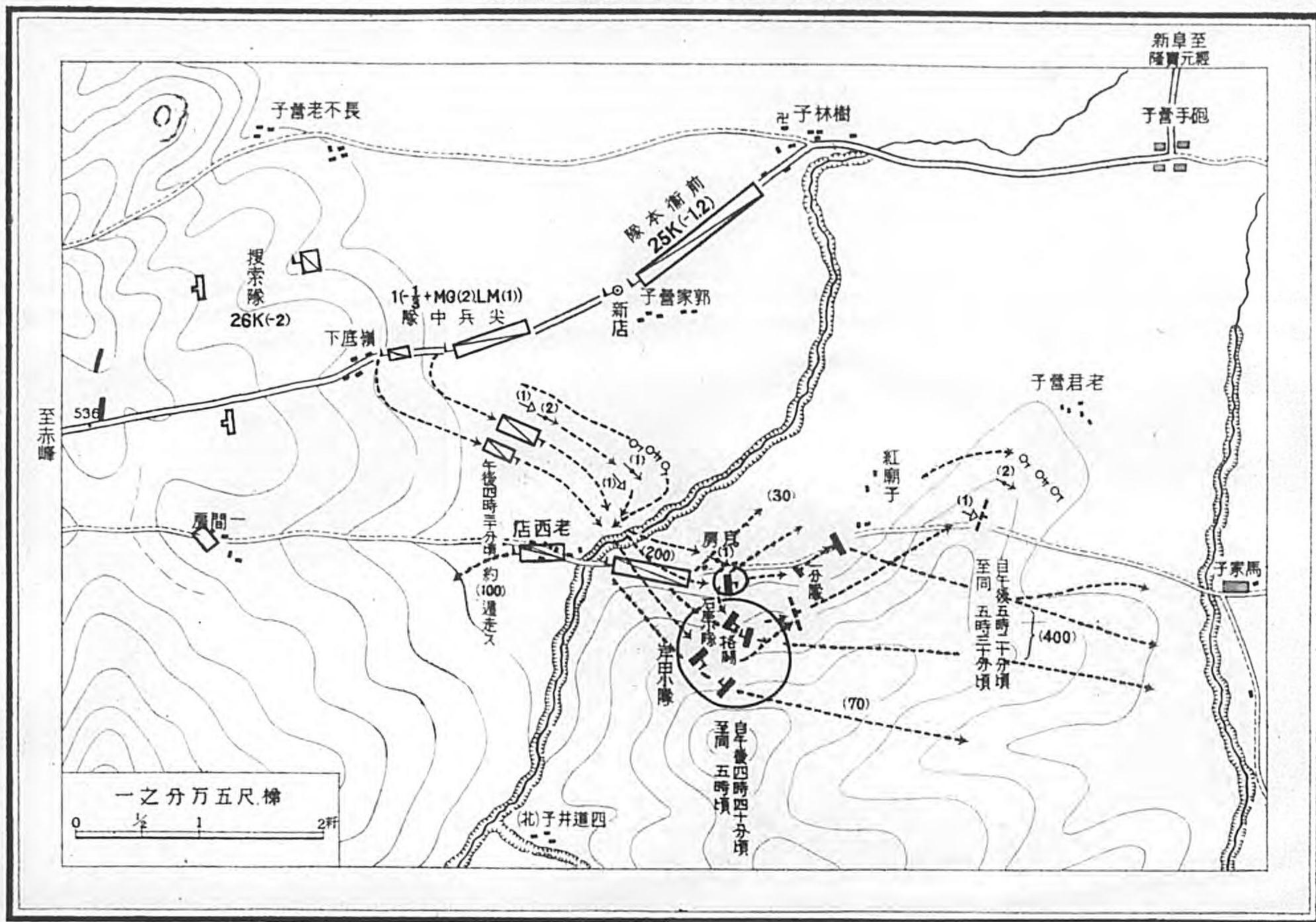
尖兵中隊ノ直接交戦セシ敵ハ約二百ニシテ若干ノ死體及被服、糧秣ヲ積載セル車輛一輛ヲ遺棄シ逃走セリ

我ニ損害ナク射耗彈左ノ如シ

小銃	五三〇發
迫撃砲	七發
輕機關銃	二三五發
機關銃	四二〇發
手榴彈	四〇發

# 瓦房附近尖兵中隊戰鬥經過要圖

自午時四時至同日五時三十分頃  
昭和八年三月一日



插圖第四





(ハ)

嶺底下附近ニ於ケル夜間戦闘 挿圖第五参照

前衛本隊ハ尖兵中隊ノ戦況ヲ目撃シ且嶺底下方面ニ銃聲ヲ聞キツツ急進シ午後六時嶺底下ニ達シ搜索隊ト連絡ノ結果同部隊ハ嶺底下西方ノ敵ニ對シ搜索中ナルヲ知り兵力ヲ嶺底下ニ集結シテ旅團主力ノ來著ヲ待ツ尖兵中隊亦敵ヲ撃退シテ午後八時頃歸還シ前衛本隊ニ合セリ

旅團長ハ本隊ト共ニ元寶隆ニ於テ小休止中搜索隊ニ對スル命令第一〇七ヲ下達シタル後同地ヲ出發シ砲手營子ニ到著スルヤ岡村將校斥候長騎兵第十聯隊小隊長ノ報告ニ依リ『搜索隊ハ赤峰東方高地ニ急進シ砲手營子南方地區ヲ西進中ナル敵ノ退路ヲ遮斷スベキ企圖ヲ有スル』コトヲ知り之ヲ支援スルニ決シ直チニ赤峰東方高地ニ向ヒ前進ヲ開始セシガ途中夜暗トナリ午後八時頃嶺底下ニ達シ各部隊ヲ同地附近ニ集結セシメ且既ニ到著セル搜索隊及前衛ト連絡シ同地ニ於テ夜ヲ徹スルニ決シ左記命令ヲ下達セリ

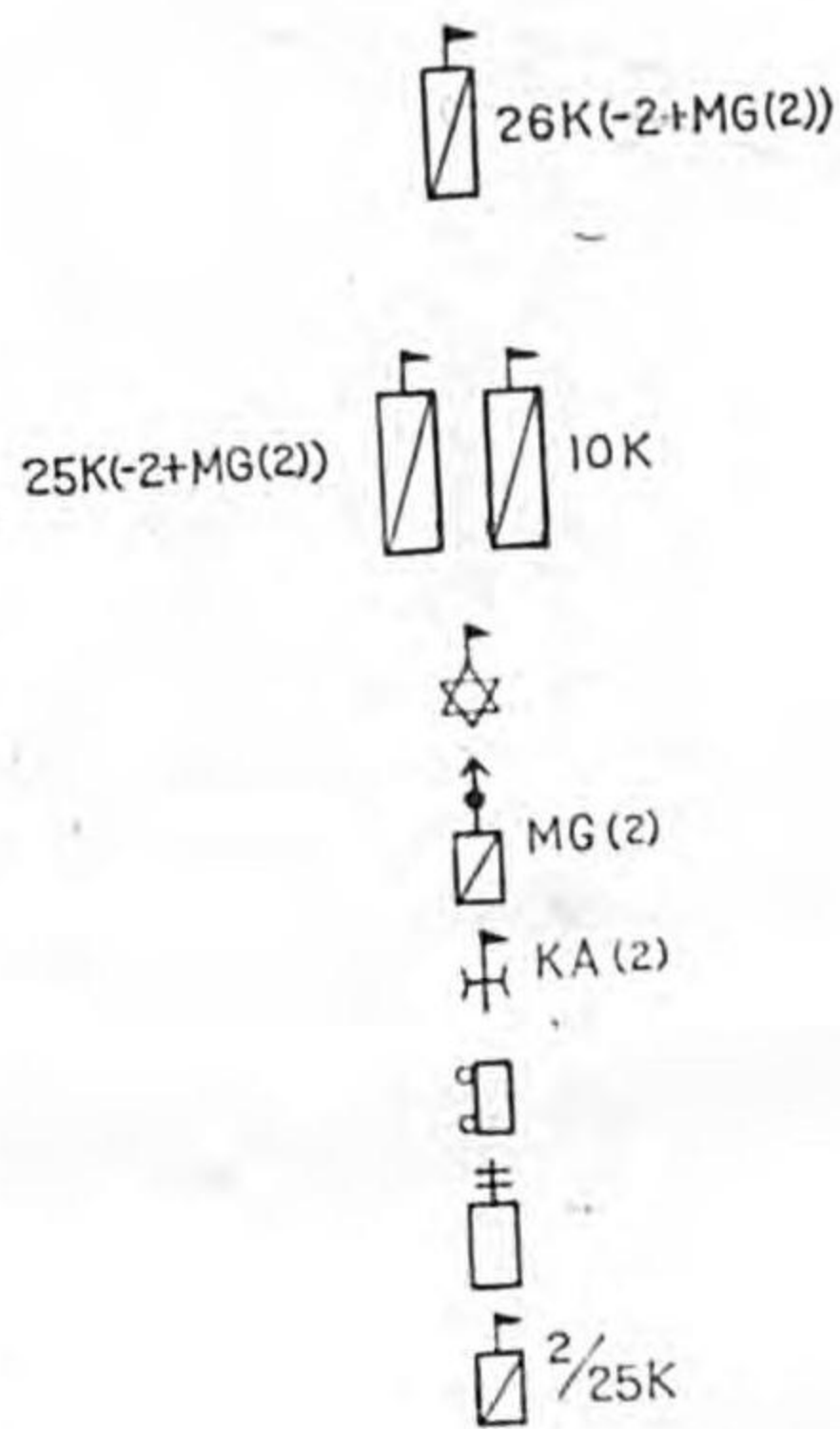
騎兵第四旅團命令 三月一日午後九時 於嶺底下

- 一 敵ハ嶺底下西北側臺上ニ在リ
- 二 旅團ハ嶺底下附近ニ兵力ヲ集結シ現在ノ態勢ノ儘夜ヲ徹セントス
- 三 騎兵第二十六聯隊ハ現在ノ陣地ヲ保持シテ夜ヲ徹スベシ但シ第三中隊長 大尉 野々根一郎ハ騎兵第二十五聯隊ノ一部ヲ以テ交代セシム

- 四 騎兵第二十五聯隊ハ其ノ一部ヲ以テ野々垣中隊ト交代シテ第一線ヲ守備セシメ主力ハ嶺底下西部ニ位置シ西南方ニ對シ警戒スベシ
- 五 騎兵第十聯隊ハ嶺底下東側附近ニ集結スベシ
- 六 爾餘ノ諸隊ハ其ノ到著ニ從ヒ嶺底下東側ニ集結スベシ
- 七 給養ハ携帶口糧乙ヲ使用シ馬糧ハ携帶馬糧ヲ用フベシ
- 八 予ハ嶺底下中央ニ在リ

附記

- 一 前記旅團命令第四項ニ基キ騎兵第二十五聯隊長ハ第四中隊(橋本中隊)ノ一小隊(山田小隊)ヲ派遣シテ第一線ノ守備ヲ交代セシムベク命令セルモ實際ハ所命ノ地點ニ進出シアラズ
  - 二 騎兵第十聯隊ノ編成裝備ノ概要左ノ如シ
    - 1 聯隊ハ本部、通信班、二中隊ヨリ成ル
    - 2 中隊ハ機關銃二挺、輕機關銃二挺ヲ有シ中隊長以下約六十名ヲ二小隊ニ區分ス
- 午後十時旅團長ハ一部ヲ以テ敵陣地ノ左翼ヨリ敵ヲ攻撃スルニ決シ騎兵第二十六聯隊主力ヲシテ夜十二時現配置ヲ變更シテ右翼方面ニ兵力ヲ集結シ敵陣地ノ左翼ヨリ攻撃セシメ同聯隊敵陣地ヲ奪取セバ左圖ノ如キ部署ヲ以テ之ニ續行シ赤峰東端ニ向ヒ前進スルニ決シ各部隊ニ對シ之ガ準備ヲ内示セリ



此ノ夜月既ニ西ニ落チ天地暗澹トシテ咫尺ヲ辨ゼズ寒氣亦凜冽タリ部隊ハ家屋ノ周圍ニ蟻集シテ或ハ沙上ニ踞坐シ或ハ手馬ノ傍ニ足踏ミシツツ辛ウジテ露營火ニ依リ暖ヲ取り乾麵麩ニ空腹ヲ醫スル状態ナリキ大行李及自動車班ハ約八十軒ニ達スル沙深キ惡路ヲ踏破シテ午後十一時三十分嶺底下ニ到著セリ

午前二時頃俄然兵力未詳ノ敵ノ徒歩部隊ハ嶺底下西南方ヨリ騎兵第二十五聯隊正面ニ向ヒ夜襲シ來リシヲ以テ同聯隊ハ直チニ豫定ノ抵抗線ニ就キテ應戰シ間モナク之ヲ擊退セリ騎兵第十聯隊亦一旦旅團ノ右翼掩護ノ爲嶺底下西北端ニ進出シタルモ敵兵來ラザリシヲ以テ大行李等ハ掩護ヲ必要ナリトシ直

チニ嶺底下東北端附近ニ移動シ射擊スルコトナク至嚴ナル警戒ヲ爲シツツ待機セリ  
 騎砲兵中隊ハ敵襲ヲ知ルヤ直チニ嶺底下東側ニ陣地ヲ占領シ榴霰彈零距離射擊ヲ以テ敵ヲ猛射ス  
 午前三時頃ニ至ルヤ再ビ嶺底下南方地區ヨリ兵力未詳ノ敵兵夜襲シ來リ我ガ前方百乃至二百米ノ距離  
 ニ近接シテ熾ンニ射擊セリ騎兵第二十五聯隊及大行李掩護兵等ハ之ニ對シ更ニ應戰シ同四時頃全ク之  
 ヲ擊退セリ

敵ハ再度ノ夜襲ニ於テ數十ノ死體ヲ遺棄シテ退却セシガ之ニ對シ我ガ損害ハ負傷兵一名、戰死馬一  
 頭、負傷馬三頭ナリ尙自動車ニハ二十三發ノ命中彈ヲ受ケシモ機能ニハ支障ナシ

附記

一 日没前嶺底下ニ達セシハ前衛本隊ノミニシテ主力ハ午後八時以後暗黒裡ニ逐次到着セシヲ以テ敵ハ前者ノミヲ目撃シ兵力微  
 弱ナリト判斷セシ結果積極的行動ニ出デシモノノ如シ

二 此ノ夜寒氣凜冽ニシテ而モ旅團ハ連日連夜ノ行動ニ依リ相當疲勞シアリ且赤峰附近ノ敵亦早晚退却スベク判斷シアリタルヲ  
 以テ同夜ノ警戒ニ關シテハ特大ナル考慮ヲ拂フコトナク各隊ハ競ツテ焚火ニ依リ探暖シ敵ノ爲好個ノ目標ヲ呈セリ  
 又旅團長ノ午後十時ニ於ケル決心ニ基ク赤峰東端ニ向フ前進ハ敵ノ夜襲ヲ受ケタル爲自然中止トナレリ

所見 廣漠地ニ於ケル警戒線ハ多クノ場合圓形ニ探ルヲ自然トス又敵前ニ近ク宿營スルニ方リテハ警戒配置ヲ嚴ナラシムルト共  
 ニ敵襲ニ處スベキ動作ノ豫行ヲ實施シ其ノ要領ヲ十分會得セシメタル後就宿ニ移ルヲ有利トス

旅團長ノ  
部署

一



シ

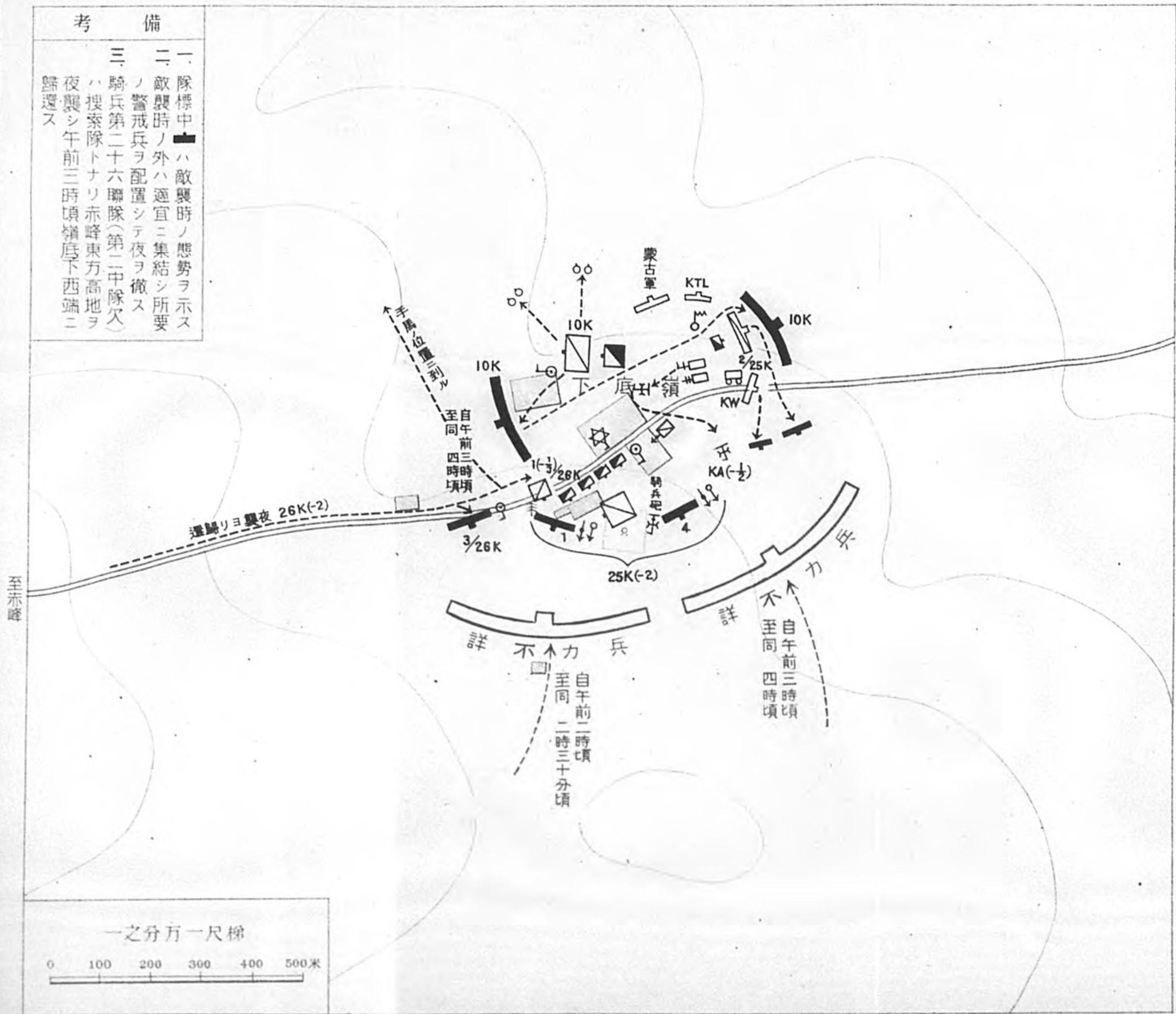
圖要過經鬪戰間夜團旅四第兵騎近附下底嶺

夜日一月三年八和昭

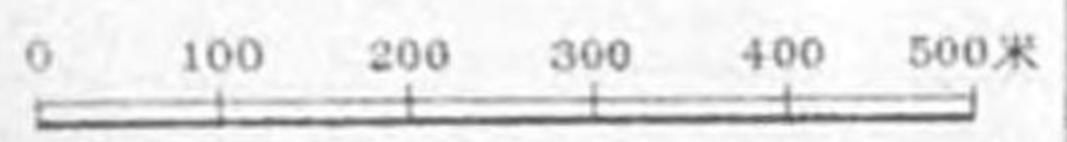
插圖第五

至樹林子

- | 考 | 備  |
|---|--|
| 一 | 隊標中ハ敵襲時ノ態勢ヲ示ス                                  |
| 二 | 敵襲時ノ外ハ適宜ニ集結シ所要ノ警戒兵ヲ配置シテ夜ヲ徹ス                    |
| 三 | 騎兵第二十六聯隊(第二中隊欠)ハ搜索隊トナリ赤峰東方高地ヲ夜襲シ午前三時頃嶺底下西端ニ歸還ス |



一之分万一尺梯



丙 赤峰東方高地ノ陣地攻撃 挿圖第九參照

(イ) 旅團長ノ部署並ニ騎砲兵中隊ノ狀況

旅團長ノ  
二日未明旅團長ハ依然當面ノ敵兵力ハ大ナラザルモノト判斷シ速カニ騎兵第二十六聯隊ノ前ニ夜襲セ  
ル地區ヲ突破シ赤峰ヲ占領スルニ決シ同聯隊ヲ第一線、騎兵第二十五聯隊ヲ左第二線、騎兵第十聯隊  
ヲ右第二線トシ騎砲兵中隊、旅團司令部、自動車班及大行李ヲ中央ニ配置シ赤峰ニ向フ前進ヲ準備ス  
然ルニ天明トナルヤ敵ハ赤峰東北方岩山ノ高地ヨリ一間房附近ニ互リ一連ニ陣地ヲ占領シアルコトヲ  
知ル

是ニ於テ旅團長ハ直チニ當面ノ敵ヲ攻撃スルニ決シ午前七時左記要旨ノ命令ヲ下達セリ

騎兵第四旅團命令ノ要旨

- 一 敵ハ赤峰東方高地上旅團ノ前面及左側面ニ在リ
- 二 旅團ハ前面ノ敵ヲ攻撃セントス
- 三 騎兵第二十六聯隊 第二中隊及騎兵砲一分隊欠 ハ其ノ前面ノ敵ヲ攻撃スベシ
- 四 騎兵第二十五聯隊 第二中隊欠 ハ左前方ノ敵ヲ攻撃スベシ
- 五 騎砲兵中隊ハ嶺底下西側臺上ニ陣地ヲ占領シ先ヅ主トシテ騎兵第二十五聯隊ノ攻撃ニ協力ス

ベシ

- 六 騎兵第十聯隊ハ豫備隊トナリ騎兵第二十六聯隊ノ後方ニ位置スベシ
- 七 大行李及自動車班ハ嶺底下ニ位置スベシ
- 八 予ハ嶺底下西側臺上ニ在リ

騎砲兵中隊ノ状況

騎砲兵中隊池水經勝ハ午前七時三十分敵火ヲ冒シテ嶺底下西側臺上ニ陣地ヲ占領シ次デ騎兵第二十五聯隊ノ攻撃準備中ナル一問房北側臺上ノ敵陣地ニ對シ射撃ヲ開始ス

騎砲兵中隊ノ射撃ハ正確ニシテ克ク敵陣地ヲ破壊シ第一線亦猛烈ニ前進セルモ敵ハ頑強ニシテ退却ノ色ナシ

(ロ) 騎兵第二十六聯隊方面ノ狀況 挿圖第六參照

騎兵第二十六聯隊長ノ部署

騎兵第二十六聯隊長ハ嶺底下西北側高地ニ於テ天明後敵ハ赤峰高地名ニシテ岩山東南側閉鎖曲線高地ヨリ其ノ東南方稜線ヲ經テ一問房附近ニ互リ陣地ヲ占領シアルヲ目撃シ左記命令ヲ下達シ獨斷攻撃ヲ開始セリ

騎兵第二十六聯隊命令 三月二日午前六時五十分於嶺底下西北側高地

- 一 兵力未詳ノ敵ハ赤峰東北六六五高地ヨリ其ノ東方稜線ヲ占領シアリ
- 二 聯隊ハ此ノ敵ヲ徒歩攻撃セントス
- 三 第三中隊輕機關銃二分隊ハ右第一線トナリ右前地隙ヨリ左散兵壕ノ敵ヲ攻撃スベシ

四 第一中隊二小隊欠、輕機關銃一分隊ハ第三中隊ノ左ニ連繫シ左鞍部ノ敵ヲ攻撃スベシ

五 聯隊機關銃二分隊、旅團機關銃小隊二分隊並ニ騎兵砲分隊ハ八木中尉ノ指揮ヲ以テ現在地附近ニ陣地ヲ占領シ主トシテ第三中隊ノ攻撃ニ協力スベシ

六 爾餘ハ豫備隊トナリ第三中隊ノ後方ヨリ前進スベシ  
聯隊長 黒谷大佐

下達法

第三中隊長、輕機關銃小隊長、旅團機關銃小隊長、第一中隊命令受領者ヲ集メ口達ス  
午後七時二十分頃旅團副官大尉 內田 肇聯隊長ノ許ニ來リ『騎兵第二十六聯隊ハ速カニ敵陣地左翼ノ據點タル赤峰高地名東側閉鎖曲線ノ高地ヲ奪取スベシ之ガ爲騎砲兵ノ一部ヲ協力セシム』トノ要旨命令ヲ傳達セリ

第三中隊及騎兵砲隊ノ機關銃狀況

第三中隊聯隊命令ヲ受領スルヤ兵ハ外套ヲ脱シ乘馬ニテ長不老營子西南方高地脚ニ到リ第一、第三小隊ヲ第一線、第二小隊ヲ豫備隊トシテ徒歩展開ヲ行ヒ六六五高地東側閉鎖曲線高地ニ對シ攻撃前進ヲ開始セシガ敵ハ我が前進ヲ見ルヤ一齊ニ熾盛ナル射撃ヲ以テ抵抗ス中隊ハ敵ノ猛射就中左前方ヨリスル敵ノ斜射ヲ受ケ攻撃前進相當困難ナルモノアリシガ八木中尉ノ指揮スル騎兵砲及機關銃ノ協力適切ニシテ特ニ中隊ノ前進ヲ妨害セシ左前方ノ敵制壓セラルルニ及ビ攻撃俄然進展シ中隊長ハ豫備隊タル

第二小隊ヲ第一、第三小隊ノ中間ニ増加シテ突撃ヲ敢行シ騎砲兵ノ協力ハ遂ニ最後迄ナカリキ午前九時頃閉鎖曲線高地ノ東南角敵陣地ノ最左翼ヲ奪取セリ該高地ハ砂山ナリシモ立射散兵壕、掩蔽部等ヲ構築シ相當堅固ニ設備セラレアリ

第一中隊ノ狀況

敵ハ左翼據點ヲ失フヤ俄然動搖ノ色アリ次デ聯隊正面ノ敵ハ全線一齊ニ退却ヲ開始ス中隊ハ直チニ潰走スル敵ニ對シ追撃射撃ヲ實施シ多大ノ損害ヲ與ヘタリ是ヨリ先第一中隊一小隊欠、機關銃二分隊屬ハ午前四時五十分『赤峰東方鞍部北側高地ヲ占領シ拂曉旅團主力攻撃ノ據點ヲ成形スベキ』命令ヲ受ケタルヲ以テ先ヅ手馬ノ位置ニ到リ機關銃ヲ併セ指揮シ嶺底下西北側高地上ノ敵陣地前約七百米ノ距離前夜夜襲前ノ位置ニ進出シアリシガ前記聯隊命令ニ基キ西平小隊及機關銃二分隊ヲ新所屬ニ入ラシメ中隊長ハ僅カニ一小隊及輕機關銃一分隊ヲ指揮スルノミトナリ容易ニ所命ノ地點ニ進出スルヲ得ザリシガ午前九時頃第三中隊ノ閉鎖曲線高地ノ奪取ニ依リ前面ノ敵亦動搖シ退却ノ兆アリシヲ以テ中隊ハ直チニ前進ヲ開始シ同九時二十分赤峰東方高地稜線ニ進出シ敗走スル敵ニ對シ追撃射撃ヲ實施セリ

此ノ間西平小隊ハ聯隊豫備隊タリシガ第三中隊ノ攻撃進捗ニ伴ヒ其ノ左翼ニ連繫シテ第一線ニ加入シ赤峰高地名東南方鞍部附近ノ敵陣地ヲ奪取シ追撃射撃ヲ實施セリ

第十騎兵聯隊



七 爾餘ハ豫備隊トス彼ノ凹地ニ位置スベシ  
八 予ハ現在地ニ在リ

附記 騎兵第二十五聯隊第二中隊ハ依然旅團大行李掩護ニ使用セラレアリ

聯隊主力方面ノ狀況 騎兵第二十五聯隊主力タル第一中隊長大尉 太田紋三郎ハ聯隊命令ヲ受領スルヤ以下挿圖 第七參照輕迫撃砲ヲシテ直チニ陣

第二節 集中竝ニ赤峰ノ占領





第二小隊ヲ第一、第三小隊ノ中間ニ増加シテ突撃ヲ敢行シ騎砲兵ノ協力ハ遂ニ最後迄ナカリキ午前九時頃閉鎖曲線高地ノ東南角敵陣地ノヲ奪取セリ該高地ハ砂山ナリシモ立射散兵壕、掩蔽部等ヲ構築シ相當堅固ニ設備セラレアリ

(ハ) 騎兵第二十五聯隊方面ノ狀況挿圖第七、第八、第九參照

騎兵第二十五聯隊長ノ部署

騎兵第二十五聯隊長ハ旅團命令ヲ受領スルヤ先行シテ嶺底下西側臺上ニ到リ敵情、地形ヲ視察シ各中隊長及獨立小隊長ヲ集メ午前十時十分現地ヲ指示シツツ左記要旨ノ命令ヲ下達セリ

騎兵第二十五聯隊命令ノ要旨

- 一 約二百ノ敵ハ一間房北側附近ヲ占領シアリ
- 二 聯隊第二中隊ハ直チニ此ノ敵ヲ攻撃セントス
- 三 第一中隊註、二小隊ニシテ輕機關銃四分隊、輕迫撃砲一分隊ヲ有スハ右前ノ高地方面ヨリ敵ノ左翼ヲ包圍スル如ク攻撃スベシ
- 四 機關銃小隊竝ニ輕機關銃小隊ハ現在地附近ニ陣地ヲ占領シ彼ノ敵ニ對シ射撃スベシ
- 五 騎兵砲小隊ハ現在地附近ニ陣地ヲ占領シ彼ノ敵陣地ニ對シ射撃スベシ
- 六 第四中隊一小隊ハ彼ノ敵ノ右側背ニ進出シ之ヲ突破シテ敵陣地ノ後方六〇四高地北側高地ヲ占領シ聯隊ノ攻撃ヲ容易ナラシムベシ
- 七 爾餘ハ豫備隊トス彼ノ凹地ニ位置スベシ
- 八 予ハ現在地ニ在リ

附記 騎兵第二十五聯隊第一中隊ハ依然旅團大行李掩護ニ使用セラレアリ

聯隊主力方面ノ狀況

騎兵第二十五聯隊主力タル第一中隊長太田紋三郎ハ聯隊命令ヲ受領スルヤ以下挿圖第七參照輕迫撃砲ヲシテ直チニ陣

地ヲ占領シテ射撃ヲ開始セシメ岸田小隊輕機關銃一分隊第一線、石座小隊及輕機關銃一分隊ヲ豫備隊トシテ  
午前七時三十分攻撃前進ヲ開始ス

然ルニ敵火ハ逐次熾烈トナリ前進ニ伴ヒ右方ヨリ側射ヲ被ルニ至リ加フルニ中隊ノ輕機關銃亦寒冷ト  
沙塵トノ爲故障續出シ戰況進展セズ依ツテ中隊長ハ豫備隊タル石座小隊半部ヲ第一線ニ出シ攻撃ヲ督  
勵ス前面ノ敵ハ陣地前ニ少數ノ監視兵ヲ置キ射殺セラルレバ續々交代兵ヲ後方陣地ヨリ出シ抵抗頗ル  
頑強ナリ

是ニ於テ聯隊長ハ聯隊書記高木田曹長ヲシテ『第一中隊ハ成ルベク速カニ敵ノ左側背ニ逼ル如ク攻撃  
前進スベキ』旨ノ命令ヲ傳達セシム然レドモ敵ハ既設陣地ニ據リ熾烈ナル十字火ヲ浴セ加フルニ中隊  
ハ兵力僅カニ四十名内外ニシテ而モ殘彈漸ク缺乏シ攻撃ノ進捗意ノ如クナラズ

此ノ頃聯隊機關銃小隊ハ左後方ニ進出シ騎砲兵ト共ニ前方敵陣地ノ左翼ヲ猛射ス其ノ精度良好ニシテ  
壯絶ヲ極メ且中隊右側ノ敵ハ我が一部ノ攻撃ニ依リ逐次退却スルニ至リ右側ノ危險消滅ス依ツテ聯隊  
長ハ副官大尉ヲシテ『第一中隊ハ速カニ敵ノ左側背ニ進出スベキ』旨ノ命令ヲ傳達セシム

斯クシテ中隊ハ損害ヲ顧ミルコトナク銳意攻撃前進ニ勉メ岸田、石座兩小隊長ハ率先先頭ニ立チ午前  
九時二十分陣地前ノ監視兵ニ對シ突撃ヲ敢行ス偶々岸田少尉胸部ニ貫通銃創ヲ受ケ右手ノ自由ヲ失  
フニ至リシモ怯マズ中隊ハ乃チ喇叭ヲ吹奏シ全力ヲ擧ゲテ敵陣地ニ突入ス

是ヨリ先聯隊長ハ第一中隊ノ攻撃意ノ如クナラザルヲ看取スルヤ原島小隊及豫備隊タル第四中隊ノ杉  
原小隊ヲ第一中隊ノ左翼ニ増加セシガ兩小隊ハ逐次前進シ第一中隊ト概ネ同時頃其ノ正面敵陣地ニ突  
入ス一間房附近ノ敵ハ我が猛烈ナル突撃ニ依リ算ヲ亂シテ赤峰方向ニ退却ヲ開始セリ其ノ數概ネ二百  
内外ナルガ如シ第一中隊及杉原、原島兩小隊ハ直チニ此ノ敵ヲ急追シテ一間房西南端附近ニ進出シ騎  
砲兵機關銃亦追撃射撃ヲ實施シ多大ノ損害ヲ與ヘタリ

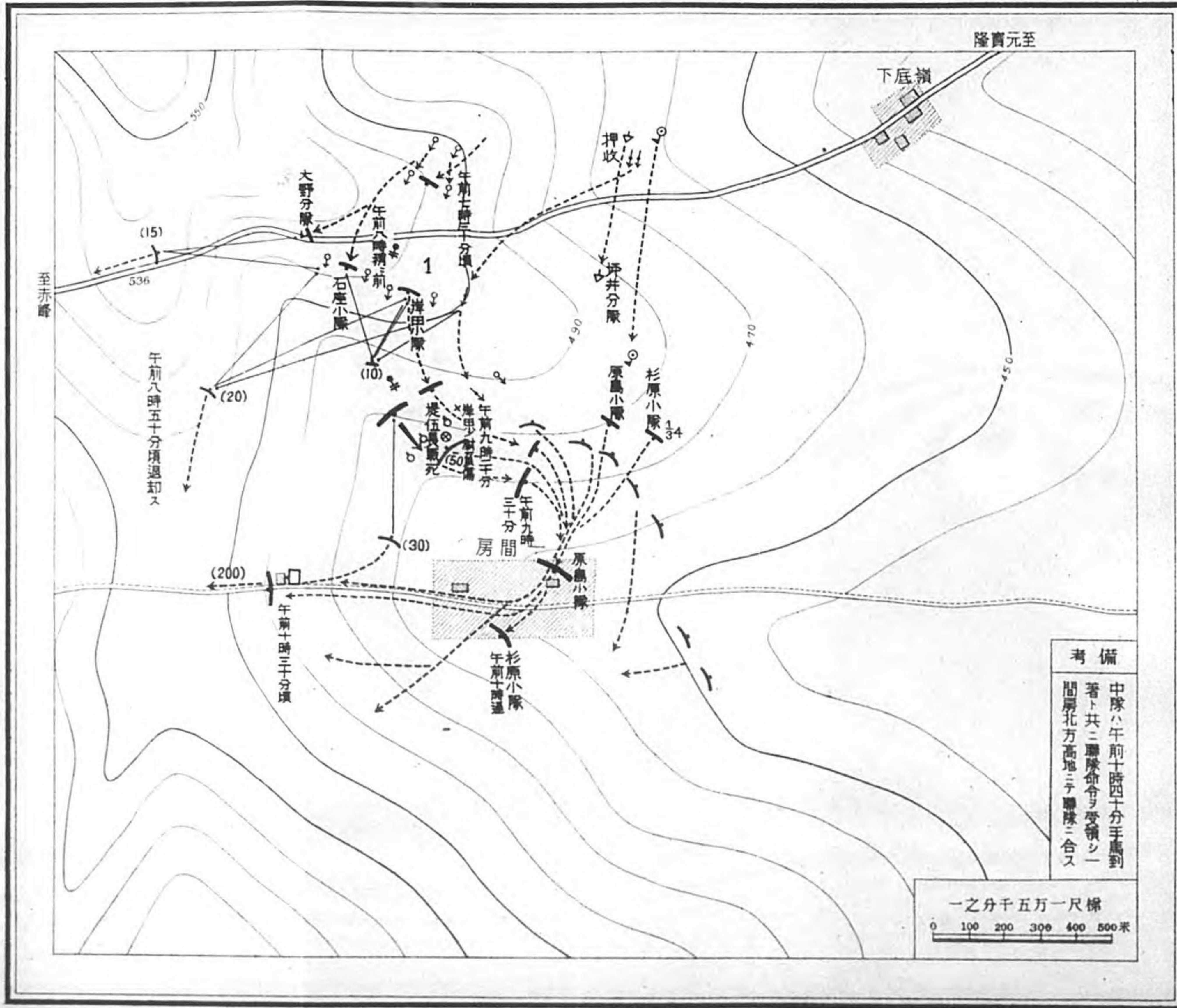
附記

- 一 原島小隊ハ元來太田中隊ノ第一小隊ニシテ小隊長以下二十三名ヲ以テ騎兵砲小隊ニ改編セラレアリシガ當時彈藥ヲ射盡シタ  
ル爲小銃ヲ以テ戰鬥ニ參加セシモノナリ
- 二 第一中隊ハ一間房附近ノ敵陣地ニ對シ東南面シテ攻撃セシガ積雪ニ對スル日光ノ反射強烈ナリシ爲觀察並ニ射彈ノ觀測ニ甚  
ダシク困難ヲ感ジタリ

午前十時三十分頃敵兵既ニ我が有效射界ヲ脱セルヲ以テ聯隊長ハ第四中隊ヲシテ暫ク現在地ニ在リテ  
旅團ノ左側背ヲ掩護セシメ殘餘ヲ以テ戰死傷者ノ收容、鹵獲兵器、彈藥等ノ收集整理ヲ了シ部隊ヲ集  
結シテ概ネ正午旅團長ノ許ニ到ル

赤峰東方高地騎兵第二十五聯隊主力戰鬥經過要圖

昭和八年三月二日 自午前七時 至午前十時三十分



考備

中隊ハ午前十時四十分手馬到  
著ト共ニ聯隊命令ヲ受領シ一  
間屏北方高地ニテ聯隊ニ合ス

一之分千五万一尺標  
0 100 200 300 400 500米

插圖第七

第四中隊  
ノ狀況

是ヨリ先第四中隊長<sup>大尉</sup>橋本正勝ハ聯隊命令ヲ受領スルヤ<sup>以下挿圖</sup>直チニ部下ヲ中隊縦隊ニ集合セシメ中隊長  
先頭ニ立チテ部下ヲ誘導シ一間房北側高地ヨリスル敵火ヲ冒シツツ伸暢駈歩ヲ以テ南方ニ急進シ敵陣  
地前約八百米ノ波狀地ヲ利用シテ一旦停止シ同地西南方高地ヲ目標トシテ隊伍ヲ整頓ス中隊長ハ先頭  
小隊長<sup>中尉</sup>不破慶喜ト共ニ敵情ヲ視察スルニ敵陣地ハ一間房附近ヨリ其ノ東南側ヲ經テ更ニ蜿蜒トシテ南方  
ニ連ナルガ如ク又一間房西南方高地中腹ニモ工事ラシキモノヲ見ル此ノ間敵彈ノ爲乘馬二頭斃ル乃チ  
中隊長ハ乘馬ヲ以テ所命ノ高地ニ驀進スルニ決シ小隊長ニ對シ『六〇四高地ノ敵陣ノ占領不可能ナル  
場合ハ敵陣地内部ヲ擾亂スベキ』意圖ヲ告ゲ中隊ニ散開ヲ命ジ地形搜兵ノ後方約百米ヲ伸暢駈歩ヲ以  
テ一意目標ニ向ヒ突進ス

中隊指揮機關、山田小隊及不破小隊ノ左翼一部ハ中隊長ノ直後ヲ稍々密集シ不破小隊主力ハ小隊長ヲ  
中心トシテ右方ニ稍々離レテ既設散兵壕直前ニ殺到セルモ壕幅大ナリシ爲人馬共ニ躊躇シ部隊ハ暫時  
混亂セリ然ルニ此ノ附近ノ既設散兵壕ハ相當以前ニ構築セラレタルモノノ如ク機關銃座、交通壕等錯  
雜シアリシモ既ニ敵兵ナク且一部埋没シテ通過容易ナル部分アリシヲ以テ中隊主力ハ一伍縦隊ニテ此  
ノ部分ヨリ内部ニ進入スルヲ得タリ

不破小隊ハ一間房附近ノ敵ヨリ熾烈ナル敵火ヲ被リ率先陣頭ニ立チ勇敢ニ突進中ナリシ小隊長ハ頭部  
貫通銃創ノ爲斃レ兵一名モ亦重傷ヲ被リタリ